marantz®

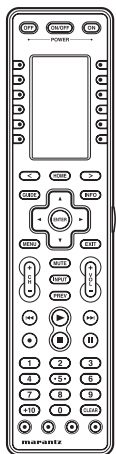
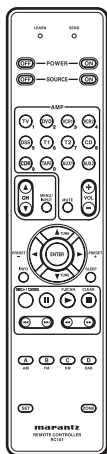
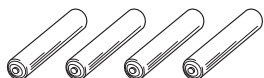
AV Pre Tuner

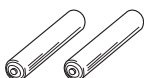
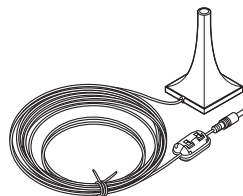
AV8003

取扱説明書

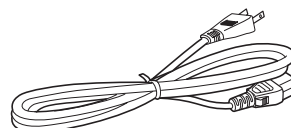
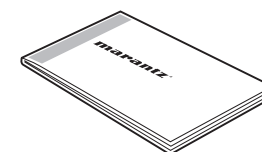
お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保管してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、ご不審な箇所などがありましたら、お早めにお買い上げ店、または最寄りの株式会社マランツコンシューマー マーケティング各営業所にお問い合わせください。

付属品の確認

下記の付属品がそろっていることを確認してください。

リモコン（RC2001） 1台

単4形アルカリ電池（RC2001用） 4本

リモコン（RC101） 1台

単4形乾電池（RC101用） 2本

マイク 1個

AMループアンテナ 1個

FMアンテナ 1本

電源ケーブル 1本

取扱説明書（本書） 1冊

AV8003 NETWORK取扱説明書 1冊

保証書（外箱に貼り付け） 1部

目　次

安全上のご注意

ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一、機器の内部に異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 製品に同梱している電源コードのみ使用してください。製品に同梱していない電源コードを使用しないでください。

警告

- この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れる時は、機器の天面から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

- 風呂場や窓ぎわで雨などがかかるおそれのある所等の水滴がかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 付属の電池はリモコンの動作確認用です。充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。電源周波数は50Hz地域または60Hz地域でご使用できます。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。
- この機器の開口部をふさがないでください。開口部をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに開口部があります。次のような使い方はしないでください。
  この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。
  この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
  テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
- この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因になります。
- この機器の開口部などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。
- エアコンの下に置かないでください。エアコンから水滴が滴下した場合、汚損・故障・火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり,加熱したりしないでください。コードが破損して,火災・感電の原因となります。

接触禁止

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

警告

● この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

分解禁止

● この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

● この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

注意

● オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。

● 電源を入れる前には、音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。また、テレビ等の音声を本機のスピーカーを使ってお楽しみになる前にも、音量（ボリューム）を最小にしてください。

● 電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス＋とマイナス－の向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

● 電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがありますので、指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜたり、種類の違う電池を混ぜたりして使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

● ご不要になった電池を廃棄する場合は、テープなどで絶縁し、各地の地方自治団体の指示（条例）に従って火気のない場所に処分してください。

● 電池はお子様や幼児の手の届かない場所に保管してください。誤って飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診断を受けて下さい。

電源プラグをコンセントから抜く

● 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。

● 旅行などで長期間、この機器をご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

● お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

● 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所や振動のある所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

● この機器または電池が入ったリモコンを次のような異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

窓を閉めきった自動車の中

直射日光が当たる場所

火や暖房器具など熱を発生する機器の近く

注意

● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

● 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

● 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき,火災·感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

● 電池は、金属性のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス＋端子とマイナス－端子の間がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

● 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

● 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

● この機器の上に物を置かないでください。この機器の上には通気孔があります。通気孔をふさぐと中に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

● この機器の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

● この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。

● 5 年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

● 長期間使用しない時は、電池をリモコンから取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。電池が液もれしている場合は、ただちに電池を処分してください。この際、液が皮膚や衣服に付着すると火傷するおそれがありますので、取扱いには十分ご注意ください。誤って液が付着してしまった場合は、ただちに水道水で洗浄し医師の診断を受けてください。

ケース内に付着した液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

高音注意

● 使用中および使用直後は、操作部、後面接続端子部以外は高温になっているので手を触れないでください。やけどの恐れがあり、危険です。特に上面など高温部には触れないでください。

指の怪我に注意

● フロントパネルのドアとフロントパネルの間に指を挟まないように注意してください。

AV_080311F1

本機の主な特長

本機には、以下のような最新のデジタル・サラウンド・サウンド・デコーディング・テクノロジーが搭載されています。詳細は、「サラウンドモード」(79ページ)を参照ください。

- Dolby True HD
- Dolby Digital Plus
- Dolby Digital、Dolby Digital EX
- DTS-HD(Master Audio, Hi-Resolution Audio)
- DTS、DTS ES、DTS Neo:6、DTS 96/24
- MPEG-2 AAC
- Dolby Pro-Logic Ⅱx
- Circle Surround Ⅱ
- THX SURROUND EX
- THX Ultra 2.
- Neural Surround

Audyssey MultEQ® オートセットアップシステム

付属のAudyssey社製高性能マイクを使い、視聴エリア内の6ヶ所の視聴位置でスピーカーの特性とリスニングルームの特性を測定したデータを、高性能DSPにて分析、演算処理を行いリスニングルーム全体を複数のリスナーに対し、最適な視聴環境になるように周波数特性を補正するオートセットアップ機能を搭載しました。

THX Ultra2対応

映画館の音響効果をご家庭に提供する「THX ULTRA2」に対応しました。

HDMI端子の搭載

最新のVer1.3aに対応したシリコンイメージ社製HDMI用ICの搭載により、映像面ではDeep Colorやx.v.Color規格の映像の伝送に対応し、音声面ではBlu-ray DiscやHD DVDで採用されている「Dolby True HD」、「DTS HD」「Dolby Digital Plus」に対応しています。

ビデオコンバーター搭載

フルデジタル処理による映像信号のアップコンバーター(コンポジット → S-ビデオ/コンポーネント/HDMI、S-ビデオ → コンポーネント/HDMI、コンポーネント → HDMI)とダウンコンバーター(コンポーネント → S-ビデオ/コンポジット、S-ビデオ → コンポジット)を設けました。
ANALOG DEVICES社製のビデオデコーダーICを使用して、画質の劣化を最小限に抑えた変換を行います。

I/Pコンバーター機能

ビデオ回路に高性能I/P(インターレース/プログレッシブ)コンバーターを搭載しました。
本機に入力される480iのコンポジット、S-ビデオ、コンポーネントビデオ信号を高速で正確なI/P変換を行い、コンポーネントの映像出力端子へ高品質でスムーズな480p映像を出力します。

広帯域コンポーネントビデオセレクター

コンポーネントビデオ信号に対して入力を4系統、出力を2系統設けました。ハイビジョン信号等の広帯域(100MHz(−3dB))な映像信号に対応します。

DCトリガー出力

電動スクリーンや電動カーテンなど、12V(ボルト)DCトリガーで動作する機器の操作が2系統まで行えます。

RS-232Cコントロール端子搭載

クレストロン等を利用したカスタムインストールに対応します。

マルチゾーンシステム

マルチゾーン用の出力として映像・音声出力端子を装備しました。

IRエミッタ出力&IRレシーバー入力端子

本機に接続したIRレシーバーで受信したリモコンからの信号をIRエミッターから再送信出力することが可能です。
他のAV機器まで含めたコントロールが可能です。

ビデオスケーラー搭載

高級DVD/SACDプレーヤーでも採用されている高精度10bitスケーラーICを搭載することにより、アナログビデオ端子に入力された480i/480p信号を1080i、更に1080pへアップスケーリングしてHDMIへ出力することが可能です。

ネットワークプレーヤー機能

ネットワーク接続した機器に保存した音楽・写真・動画ファイルの再生が可能です。また、Windows Media DRM、DTCP-IPに対応しています。

バランスプリアウト出力端子・バランスCD/CDR入力端子搭載

より高音質での信号伝送のためにXLR端子を用いたバランス出力を採用し、MM8003との間をバランス接続が可能です。HOT(+)とCOLD(-)が平行に走っているため、外来ノイズに強い構造です。また、RCA端子によるアンバランス出力も装備し接続の柔軟性も確保しています。
弊社Super Audio CDプレーヤーとのバランス接続が可能なXLR入力端子も装備しました。

その他の特徴

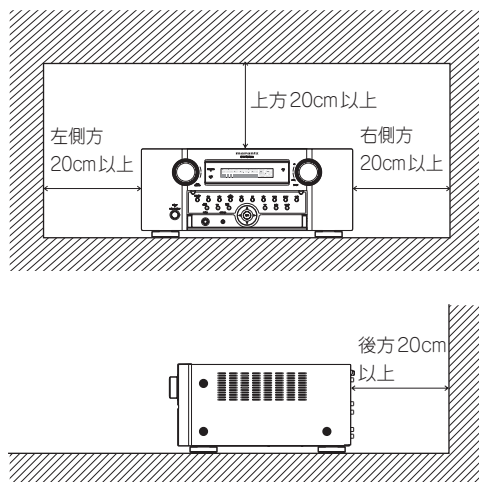
- 32bit 最新DSPを搭載
- 192kHz/24bit DAコンバータを全チャンネルに採用
- 192kHz/24bit ADコンバータをアナログ入力用に採用
- 音楽再生時に映像出力を停止させる、ビデオ オフモード
- MP3やAAC等の非可逆圧縮によって失われた音域成分を補うM-DAX機能
- 7.1チャンネルダイレクト外部入力端子を有効活用できるAUX入力
- L/R 2チャンネルスピーカーでもサラウンド効果を楽しめる バーチャルサラウンド機能
- TV信号入力で電源をON/OFFする TVオートパワー機能
- 各種設定をTV画面にて行えるOSDメニューシステム
- プログラマブル&ラーニング機能付きLCDリモコン
  (RC2001付属)
- マルチゾーンからの操作が可能なラーニングリモコン(RC101付属)
- 環境に配慮したスタンバイ消費電力低減モード
- フロントパネルにカーソルボタンを搭載
- ヘッドフォンで優れた頭外定位感を実現するドルビーヘッドフォンを搭載
- 電源供給能力に優れたシールド付大型トロイダルトランス搭載
- CDプレーヤーやDVDプレーヤーとのデジタル接続でHDCDソフトが再生できるHDCDデコーダーを搭載

ご使用の前に

次のような場所には置かない

本機を末永くご使用いただくために、次のような場所には置かないでください。

- 直射日光が当たる所
- 暖房器具など熱を発生する機器に近い所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- ほこりの多い所
- 振動のある所
- ぐらついた台の上や傾斜のある不安定な所
- 天地の狭いオーディオラックなど放熱を妨げる所

  放熱のため、本機を壁や他の機器等から離して設置してください。

上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。
通気孔をふさぐと事故や故障の原因になります。

使用中・使用直後に上面や後面などの高温部には触れない

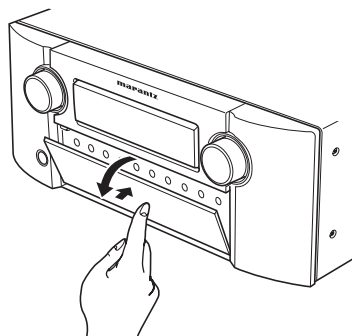
使用中と使用直後は、操作部以外は高温になっているので手を触れないでください。 やけどのおそれがあり危険です。 特に上面や後面などの高温部には触れないでください。

ご使用いただく電源電圧・周波数

- 電源電圧は、交流100Vをご使用ください。
- 電源周波数は、50Hz地域または60Hz地域でご使用できます。

電源コードの取扱い

- 濡れた手で触れないでください。
- 電源コードは、かならずプラグを持って抜いてください。
  コードを強くひっぱったり、折曲げたりしますと、コードがいたみ、感電や火災の原因になります。
- お出かけ前には、かならずプラグを抜く習慣をつけましょう。
- 製品に同梱している電源コードは、同梱されている製品のみ使用できます。同梱している製品以外には、この電源コードを使用することができません。

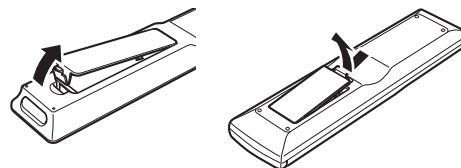
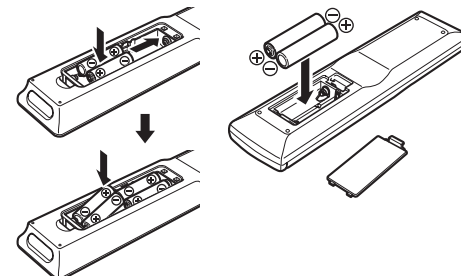
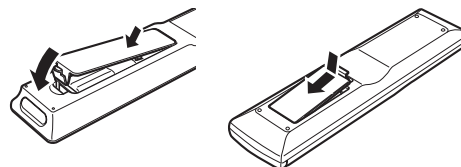
フロントパネルドアの開閉

フロントパネルドアの内部にあるボタンで操作したい場合、パネルの下側を押してパネルドアを開けてください。ボタンを使用しない時は、パネルドアを閉めておいてください。

> **ご注意**
> - パネルドアとパネルの間に指を挟まないように注意してください。

リモコンの使用について

リモコンに乾電池を入れる

付属のリモコンRC2001とRC101を最初にご使用になる前に、乾電池を入れてください。
付属の乾電池はリモコンの動作確認用です。

1. リモコン背面の電池カバーを矢印方向に押しながら外します。

2. 新しい単四乾電池（RC2001ではアルカリ電池4本、RC101では乾電池2本）を、極性表示（⊕：プラスと ⊖：マイナス）に注意し、表示通りに正しく装着します。

3. 電池カバーを以下のように元に戻します。

電池の交換時期について

通常の使用状態では、アルカリ乾電池の場合、RC2001は約3ヶ月、RC101は約4ヶ月もちます。
RC2001は電池が消耗した場合、表示部の電池マークがLOWになります。LOWマークが表示されてもリモコンの使用はできますが、早めに電池を交換してください。
電池を交換したら時計を合わせてください。
（69ページ参照）

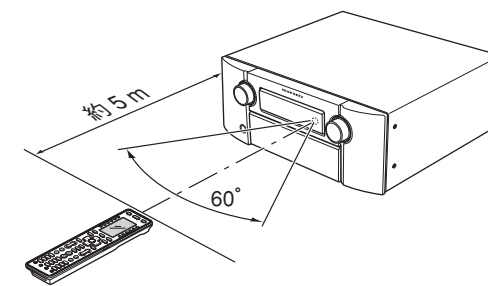
- RC2001とRC101には不揮発性メモリーを使用しているので、電池を抜いても学習したコードやマクロプログラムは消滅しません。

乾電池の取扱いについて

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂、腐食などの原因となることがあります。
以下の注意をよく読んでご使用ください。

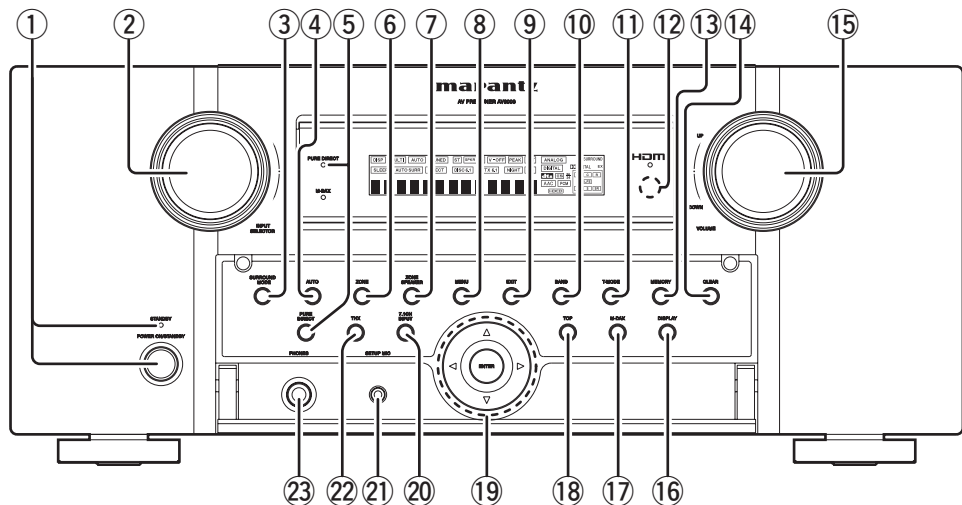
- 長期間（1ヶ月以上）リモコンを使用しない時は、電池を取り出しておいてください。
- 古い乾電池と新しい乾電池を一緒に使用しないでください。
- 乾電池のプラス＋とマイナス－の向きを機器の表示通り正しく入れてください。
- 乾電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 液もれを起こした時は、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、お住まいの地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所や火の近くなど異常に温度が高くなる場所に電池を放置しないでください。
  火災の原因となることがあります。

リモコンの動作範囲

リモコンによる本体の操作可能範囲は下図のとおりです。

使用上の注意

- リモコンの受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。 リモコンが操作できない場合があります。
- リモコンを操作すると、赤外線で操作する他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると操作できません。
- リモコンの上に物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

各部の名称

フロントパネル

① POWER ON/STANDBYボタン STANDBY(スタンバイ)表示インジケーター
電源の入／切(待機状態)を切り替えます。ボタンを押すと電源が入ります。もう一度押すと、待機状態(STANDBYモード)になりSTANDBYインジケーターが点灯します。

② INPUT SELECTOR(入力ファンクション切り替え)つまみ(音声／映像)
入力ソース機器を選択するときに使います。
(17ページ参照)

③ SURROUND MODE(サラウンドモード)切り替えボタン
このボタンを押すと、サラウンドモードが切り替わります。(51ページ参照)

④ AUTO(オートサラウンド)ボタン
このボタンを押すと、オートサラウンドモードになります。このモードを選択すると、本機は入力信号に対応するサラウンドモードを自動的に選択します。(51ページ参照)

⑤ PURE DIRECT(ピュア ダイレクト)ボタン・インジケーター
このボタンを押すと、ソースダイレクトになり、表示部に「**SOURCE DIRECT**」と表示されます。
もう一度押すとピュアダイレクトになり、「**PURE DIRECT**」と表示されPURE DIRECTインジケーターが点灯します。2秒後、表示部が消えます。ソースダイレクト/ピュアダイレクトモードでは、トーンコントロール回路とバス・マネージメント機能がバイパスされます。(81ページ参照)

ご注意

- ソースダイレクト／ピュアダイレクトモードにすると、サラウンドモードは自動的にAUTOに切り替わります。
- 各スピーカーのサイズは自動的に以下のように設定されます。

  フロントスピーカー = LARGE
  センタースピーカー = LARGE
  サラウンドスピーカー = LARGE
  サラウンドバックスピーカー = LARGE
  サブウーファー = YES
- この設定はソースダイレクト/ピュアダイレクトが機能しているときの一時的な処理なのでSPEAKER SETUP MENUには反映されません。

⑥ ZONE(ゾーン)ボタン
このボタンを押すと、マルチゾーン機能の設定ができます。「**MULTI**」インジケーターが表示部に点灯します。(57ページ参照)

⑦ ZONE SPEAKER(ゾーンスピーカー)ボタン
このボタンを押すと、ゾーン・スピーカー機能の設定ができます。「**MULTI**」インジケーターが表示部に点灯します。(57ページ参照)

⑧ MENU(メニュー)ボタン
このボタンを押すと、OSDメニューシステムが起動します。

⑨ EXIT(イクジット)ボタン
このボタンを押すと、OSDメニューシステムを終了します。

⑩ BAND(バンド)ボタン
このボタンを押すと、チューナーのFMとAMが切り替わります。

⑪ T-MODE(チューナー・モード)ボタン
このボタンを押すと、FMバンドを選択中に、オート・ステレオ・モードまたはモノ・モードが選択できます。
オート・ステレオ・モードのときは 「**AUTO**」インジケーターが点灯します。(19ページ参照)

⑫ リモコン受光部
リモコンの赤外線信号を受信します。

⑬ MEMORY(メモリー)ボタン
このボタンを押すと、チューナーに周波数をプリセットする、または放送局名を入力することができます。(55ページ参照)

⑭ CLEAR(クリア)ボタン
このボタンを押すと、放送局メモリ設定、あるいはプリセット・スキャンをキャンセルすることができます。(56ページ参照)

⑮ VOLUME(音量調節)つまみ
全体的な音量を調整します。このつまみを右に回すと音量が大きくなります。

⑯ DISPLAY(ディスプレイ)ボタン
このボタンを押すと、表示部のディスプレイモードを切り替えることができます。(50ページ参照)

⑰ M-DAXボタン
このボタンを押すと、M-DAX処理の有無を選択できます。(51ページ参照)

⑱ TOPボタン
このボタンを押すと、OSDメニューシステムのトップ画面にもどります。(32ページ参照)
本機がネットワークモードのときは、ネットワークのトップメニュー画面にもどります。

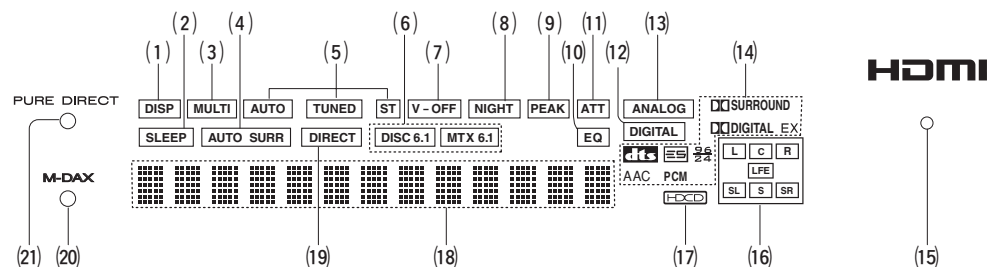
⑲ カーソルボタン(◀/▶/▲/▼)/ENTERボタン
このボタンを押すと、OSDメニューシステム、AM／FMチューナーおよびネットワークが操作できます。

⑳ 7.1CH INPUTボタン
このボタンを押すと、マルチチャンネル入力(7.1CH IN端子)が選択できます。

㉑ MIC(マイク)ジャック
付属のマイクを使用して、スピーカーの特性を自動的に測定することができます。

㉒ THXボタン
このボタンを押すと、サラウンドモードがTHXモードになります。

㉓ PHONES端子(ヘッドフォン端子)
ヘッドフォン用の接続端子です。この端子にヘッドフォンを接続すると、スピーカーからの音声は自動的に無音になります。(51ページ参照)

表示部

⑴ DISP（ディスプレイ OFF）表示
表示部が消灯（ディスプレイオフ）状態のときに点灯します。（50 ページ参照）

⑵ SLEEP（スリープタイマー）表示
スリープタイマー機能を使用しているときに点灯します。（50 ページ参照）

⑶ MULTI（ゾーン）表示部
マルチゾーン機能またはゾーンスピーカー機能が動作している場合に点灯します。（57 ページ参照）

⑷ AUTO SURROUND（オート・サラウンドモード）表示
AUTO SURROUND（オートサラウンド）モードが選択されているときに点灯します。

⑸ TUNER（チューナー）モード表示
AUTO
チューナーがオートステレオモードのときに点灯します。
TUNED
放送を受信しているときに点灯します。
ST（ステレオ）
FM 放送をステレオで受信しているときに点灯します。

⑹ DTS-ES デコードモード表示
DTS-ES デコード動作モード（Discrete-6.1 か Matrix-6.1）を表示します。

⑺ V-OFF（ビデオ オフ）表示
ビデオオフ機能が動作している場合に点灯します。（53 ページ参照）

⑻ NIGHT（ナイトモード）表示
NIGHT モードを機能させた場合に点灯します。（51 ページ参照）

⑼ PEAK（ピーク）表示
アナログ入力を選択時、入力信号が過大レベルの場合点灯します。この場合、アッテネーション機能を働かせて入力レベルを下げてください。（52 ページ参照）

⑽ EQ 表示
Audyssey の EQ モード選択時に点灯します。

⑾ ATT（アッテネーション）表示
アッテネーション機能が働いているときに点灯します。（52 ページ参照）

⑿ DIGITAL（デジタル）入力表示
デジタル入力ソースが選ばれているときに点灯します。

⒀ ANALOG（アナログ）入力表示
アナログ入力ソースが選ばれているときに点灯します。

⒁ デジタル信号フォーマット表示
デジタル入力を選択している場合に、入力されている信号のフォーマットを点灯表示します。

DIGITAL：ドルビーデジタル信号が入力されている場合に点灯します。
EX：ドルビーデジタル EX 信号が入力されている場合に点灯します。
SURROUND：入力信号がドルビーデジタル信号で、かつサラウンド処理をされている場合に点灯します。
dts：dts 信号が入力されている場合に点灯します。
ES：dts-ES 処理が施された dts 信号が入力されている場合に点灯します。
96/24：dts-96/24 処理が施された dts 信号が入力されている場合に点灯します。
PCM：PCM 信号が入力されている場合に点灯します。
AAC：MPEG2－AAC 信号が入力されている場合に点灯します。

⒂ HDMI インジケーター
本機が HDMI 接続されているときに点灯します。

⒃ プログラムチャンネル表示
デジタル入力信号を再生時、入力信号の記録チャンネル数を表示します。
5.1ch 信号入力時は **L**、**C**、**R**、**SL**、**SR**、**LFE** が点灯します。
2ch 信号が入力された場合は **L**、**R** が点灯します。
詳細は、79 ページの「使用するサラウンドモードと入力信号について」をご覧ください。

ご注意
- 本機が Dolby True HD をデコードしているとき、使用中のスピーカーのチャンネル数に応じて入力信号のステータスが表示されます。L、C、R、SL、SR、SW の 5.1ch のスピーカーシステムを使用している場合、7.1ch の信号が入力されたときでも、"S" インジケーターは点灯しません。

⒄ HDCD 表示
デジタル入力で HDCD 信号が入力されたときに点灯します。

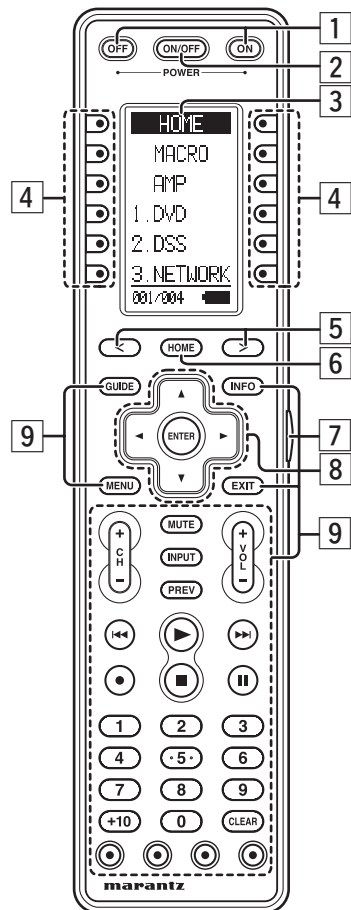
⒅ 選択入力、サラウンドモード表示部
選択した入力ファンクションや、サラウンドモード等を表示します。

⒆ DIRECT（ダイレクト）表示
SOURCE DIRECT（ソースダイレクト）または、PURE DIRECT（ピュアダイレクト）または 7.1CH INPUT 機能を使用しているときに点灯します。

⒇ M-DAX インジケーター
M-DAX が動作している場合に点灯します。

㉑ PURE DIRECT（ピュアダイレクト）インジケーター
ピュアダイレクトモードを選択したときに点灯します。

リモコン RC2001

付属のリモコンはユニバーサルリモート・コントローラーです。POWER(電源)ボタン、数字ボタン、操作ボタンは様々なAV機器に使用できます。

1 POWER ON OFF ボタン
本機の電源をON/OFFするときに使います。

2 ソース ON/OFF ボタン
DVDプレーヤー等のソース機器の電源をON/OFFするときに使います。
本機の電源をON/OFFするときにも使います。

3 LCD ディスプレイ
各ソース名やモード名などのメッセージがこの表示部に表示されます。

4 プログラマブルソフトボタン
リモコンモードの切り替え、または、選択した機器のダイレクト操作ができます。

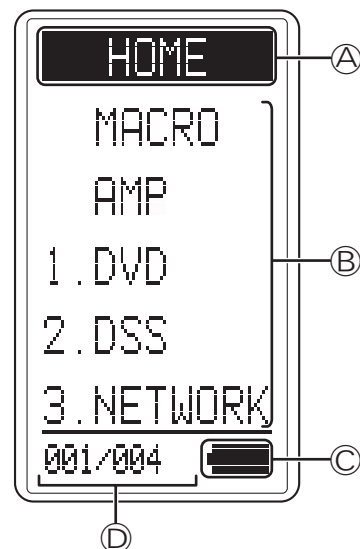
5 <／>(ページ切り替え)ボタン
HOMEモードおよび機器モードでページを切り替える際に使用します。

6 HOME ボタン
このボタンでHOMEモードを選択します。
制御する機器を選択するには、HOMEモードを選択した後、各機器のモードを選択してください。

7 LIGHT(ライト)ボタン
このボタンを押すと、ボタンおよびLCDのバックライトを点灯させます。

8 カーソル、ENTER ボタン
本機やDVD等のカーソルコントロールをするときに使います。

9 プログラマブルハードボタン
選択した機器のダイレクト操作ができます。

LCDディスプレイ(RC2001)

Ⓐ モード表示エリア
HOME:
HOMEモードの場合に表示されます。

機器名:
現在選択されている機器モード名を表示します。
このエリアは常に反転して表示されます。

Ⓑ コマンド表示エリア
HOME:
機器モード名を表示します。

機器モード:
機器毎に操作できるコマンド名を表示します。

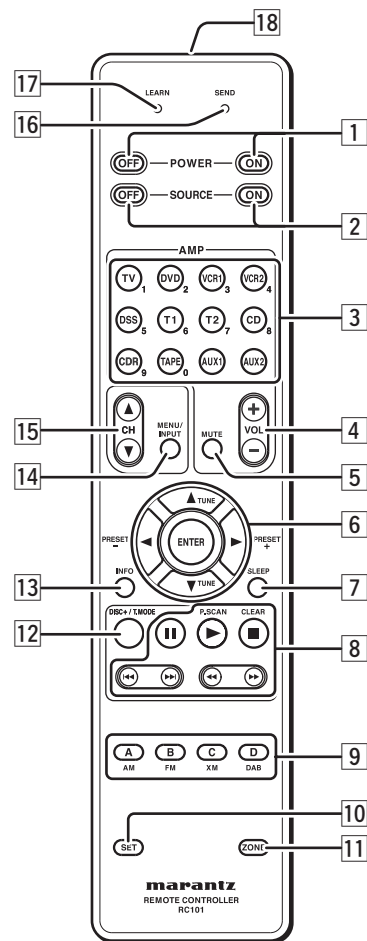
Ⓒ 電池インジケータ
電池残量を表示します。

Ⓓ サブ情報エリア
通常操作:
個々のモードに設定されたページ番号が表示されます。

IRコマンド送信時:
個々のボタンに設定されたコマンド名が反転して表示されます。

IRコマンドを送信しない操作(ジャンプ操作など):
通常、ボタンに設定された操作名が表示されます。
(反転した表示ではありません)

リモコン(RC101)

- 付属リモコンRC101はマルチゾーン用のリモコンです。このリモコンを使ってマルチゾーンに設置したIRレシーバーやマランツ製品の赤外線受光部を通して本機を操作することができます。
- RC101をメインゾーン用の簡易リモコンとしてご使用することもできます。その場合は、25ページをご覧ください。

1 POWER ON OFF ボタン

(ゾーンA/B/Cモード選択時)
ゾーン、またはゾーンスピーカー機能をオン/オフするときに使います。

(ゾーンDモード選択時)
メインゾーンで本機の電源をオン/オフするときに使います。

2 SOURCE ON OFF ボタン

DVDプレイヤーなどの各ソース機器の電源をオン/オフするときに使います。

(ネットワークモード(AUX2)選択時)

SOURCE ONボタン

出力解像度を切り替えます。

SOURCE OFFボタン

前の画面に戻ります。

3 SOURCE(ソース)/数字ボタン

SOURCE(ソース)ボタン

RC101は12種類のソース機器の操作を行うことができます。各ソースボタンを押すと、リモコンはそれぞれのソース機器を操作するモードに切り替わります。本機の入力ソースを切り替えるためには選択したいソースのボタンを2秒以内に2回押します(ダブルクリック)。

ご注意

- AUX 2ボタンを押すと、ネットワークに切り替わります。
- T2ボタンは本機では使用しません。

(ゾーンA/B/Cモード選択時)
ゾーンまたはゾーンスピーカーの入力ソースの切り替えをするときに使います。

(ゾーンDモード選択時)
メインゾーンの入力ソースの切り替えをするときに使います。

数字ボタン

リモコンコードのプリセット設定を行うときのみに使います。

4 VOL(ボリューム)ボタン

(ゾーンA/B/Cモード選択時)
ゾーンまたはゾーンスピーカーの音量を調節するときに使います。

(ゾーンDモード選択時)
メインゾーンの音量を調節するときに使います。

5 MUTE(ミュート)ボタン

(ゾーンA/B/Cモード選択時)
ゾーンまたはゾーンスピーカーの音声をミュート(消音)するときに使います。

(ゾーンDモード選択時)
メインゾーンのミュート(消音)をするときに使います。

6 ◀ /▶ /▲ /▼(カーソル)/ ENTERボタン

ソース機器のカーソル操作を行うときに使います。

(チューナーモード(T1)選択時)

PRESET＋/PRESET－ボタン

プリセットされた局を選択するときに使います。

TUNE▲/TUNE▼ボタン

周波数を調整するときに使います

7 SLEEPボタン

(ゾーンA/B/Cモード選択時)
ゾーンのスリープタイマーを設定するときに使います。

(ゾーンDモード選択時)
メインゾーンのスリープタイマーを設定するときに使います。

8 CONTROLボタン

ソース機器の再生、停止、一時停止、トラックの移動、早送り、巻き戻しをする時に使います

(チューナーモード(T1)選択時)

P.SCANボタン

プリセットされた局のスキャンを開始するときに使います。

CLEARボタン

プリセットされた局のスキャンを停止するときに使います。

9 A/B/C/Dボタン

(チューナーモード(T1)選択時)
チューナーのバンド(AM/FM)を切り替えるときに使います。

(チューナー以外のソース選択時)
学習機能で学習させたキーを割り当てることができます。

10 SETボタン

学習モード、プリセットモード、またはクローンモードの設定時に使います。

11 ZONE(ゾーン)ボタン

リモコンを使用するゾーン(部屋)を設定するときに使います。

- ・ゾーンA: ゾーンA
- ・ゾーンB: ゾーンB
- ・ゾーンC: 本機ではこのゾーンは使用しません。
- ・ゾーンD: メインゾーン

12 DISC+/T.MODE

(チューナーモード(T1)選択時)
FMバンド選択時にオートステレオモードとモノモードの切り替えを行います。

(CD/DVD/CDRモード選択時)
CD/DVD/CDRチェンジャー使用時にディスクの交換を行います。

13 INFOボタン

(ゾーンA/B/Cモード選択時)
選択されているゾーンの現在の設定をゾーンのTV画面上に表示します。

(ゾーンDモード選択時)
メインゾーンの現在の設定をメインゾーンのTV画面上に表示します。

14 MENU/INPUTボタン

(DVDモード選択時)
DVDディスクメニューを呼び出します。

(TVモード選択時)
TVのビデオ入力を切り替えます。

15 CH▲ /▼ボタン

(TV/DSSモード選択時)
チャンネルを変えるときに使います。

16 SEND(送信)表示

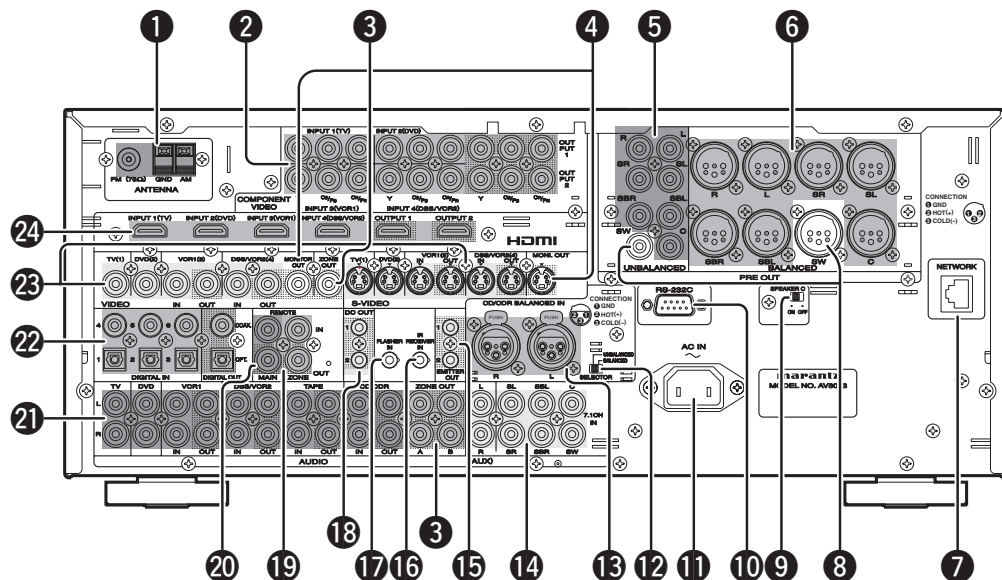
リモコンから信号が送信されているときに点灯・点滅します。

17 LEARN(学習)表示

リモコンが学習モードのとき点灯・点滅します。

18 赤外線送信部と受光部

この部分からリモコン信号が送受信されます。

リアパネル

❶ FM アンテナ端子（75 Ω）

付属のFMアンテナを接続します。
電波の弱い地域は市販のFMアンテナをご使用ください。

AM アンテナ端子および アース端子

付属のAMループアンテナを接続します。受信状態が最良になる位置にループアンテナを置いてください。

❷ コンポーネントビデオ入出力端子

DVD プレーヤーまたはその他の機器にコンポーネントビデオ端子が装備されている場合は、本機のコンポーネントビデオ端子（Y、C_B/P_B、C_R/P_R）と接続してください。
コンポーネントビデオ入力コネクター4系統と、ディスプレイ機器用にコンポーネントビデオ出力コネクターが2系統あります。
また、モニターアウト2端子はゾーンアウトにも兼用されています。

❸ ゾーン用出力端子 （ビデオ & オーディオ A ／ B）

ゾーン（別室）側のTVのビデオ信号入力端子、アンプ等 のアナログオーディオ信号入力端子へ接続します。（30ページ参照）

❹ モニター用映像出力端子（ビデオ信号出力、S-Video 信号出力）

テレビやプロジェクターのビデオ入力端子やSビデオ入力端子に接続します。本機は、ビデオ出力端子とSビデオ出力端子を各1系統装備しています。
（14ページ参照）

❺ UNBALANCED（アンバランス） プリアウト端子 （L,R, SL, SR, SBL, SBR, C）

L（フロント左）、R（フロント右）、C（センター）、SL（サラウンド左）、SR（サラウンド右）、SBL（サラウンドバック左）、SBR（サラウンドバック右）の端子とMM8003などのパワーアンプのアンバランス入力端子と接続します。

❻ BALANCED（バランス） プリアウト 端子 （L, R,SL, SR, SBL, SBR, C）

L（フロント左）、R（フロント右）、C（センター）、SL（サラウンド左）、SR（サラウンド右）、SBL（サラウンドバック左）、SBR（サラウンドバック右）の端子とMM8003などのパワーアンプのバランス入力端子と接続します。

❼ NETWORK 端子

ルータ、ハブ等のネットワーク機器と接続します。接続されているネットワーク機器にある音楽、写真、動画ファイルを本機で再生することができます。

❽ サブウーファー用出力端子

アンプ内蔵のサブウーファーまたはサブウーファー用パワーアンプの入力端子に接続します。

❾ SPEAKER C スイッチ

サラウンドバック端子をサラウンドバックまたはゾーンスピーカーとして使用するときは「OFF」に、SPEAKER Cとして使用するときは「ON」にします。
（28ページ参照）

❿ RS232C 端子

将来に向けてソフトウェアのアップグレードや外部コントロールシステムの接続用に使用します。

⓫ AC ケーブル接続端子

付属の電源コードを接続し、家庭用交流100V（50/60Hz）のコンセントに電源プラグを差し込みます。

万一の事故防止のため、本機からACケーブルが外せる配置にしてください。

⓬ 入力切替スイッチ

CD/CDR IN端子のBALANCEDとUNBALANCEDを切り替えます。

ご注意

- 入力切替の設定は必ず電源を入れる前に行ってください。電源を入れた状態で切り替えると、故障の原因になります。
- 本機の入力と入力切替スイッチの設定が異なっている場合本機から音声は出力されません。

⓭ BALANCED（バランス） CD/CDR 入力端子

スーパーオーディオCDプレイヤーなどのバランス出力端子と接続します。

ご注意

- BALANCED端子とUNBALANCED端子を同時に接続しないで下さい。

⓮ 7.1 ch 音声入力端子 （AUX 音声入力端子）

DVDオーディオプレーヤー、スーパーオーディオCDマルチチャンネル・プレーヤー、またはマルチチャンネル出力のある機器を接続し、5.1ch または7.1ch 出力の音声を再生することができます。

⓯ EMITTER 出力端子

IR RECEIVER IN に入力された信号がこの端子から出力されます。
EMITTER を接続することにより、外部機器をコントロールすることができます。

⓰ IR RECEIVER IN 端子

外部IRレシーバーと接続します。

⓱ FLASHER IN （フラッシャー入力）端子

この端子は、キーパッドなどを用いて各部屋から機器をコントロールする際に使用します。

⓲ DC トリガー 出力端子

この端子は他の機器を制御するためのDCトリガー信号を出します。（スクリーン、電源等）
OSDメニューシステムでこれらの端子を作動させる条件を設定できます。（31ページ参照）

ご注意

- この出力電圧はステータスコントロール用です。機器の駆動用としては使用できません。

⑲ ゾーンシステム用 コントロール入出力端子

IN： ゾーン・リモートコントロール機器に接続します。

OUT： ゾーン接続時、リモートコントロール（RC-5）端子が装備されたマランツ機器と接続します。

⑳ リモートコントロール入出力端子

リモートコントロール（RC-5）端子が装備されたマランツ機器と接続します。

㉑ オーディオ信号用端子 （TV, DVD, VCR1, DSS/VCR2, TAPE, CD/CDR）

アナログ音声端子には6系統の音声入力端子と4系統の音声出力端子があります。

㉒ デジタル入力端子1－6、出力端子（光入出力＆同軸入出力）

デジタル入力端子には、同軸入力端子が3系統、光入力端子が3系統あります。
デジタル入力端子は CD、DVD、デジタルチューナーなどのデジタルソース機器と接続します。
デジタル出力端子には、同軸出力端子が1系統、光出力端子が1系統あります。
デジタル出力端子はMDレコーダー、 CD レコーダー、 DAT デッキ等の機器に接続することができます。

㉓ 映像信号用端子 （TV, DVD, VCR1, DSS/VCR2）

映像端子には入力端子が4系統、出力端子が2系統あります。それぞれ、ビデオおよびS-ビデオ用の端子があります。
ビデオデッキ、DVD プレーヤー、その他の映像機器を映像入力（IN）端子に接続します。
録画に使用するときは映像出力（OUT）端子へ接続します。

㉔ HDMI 入出力端子

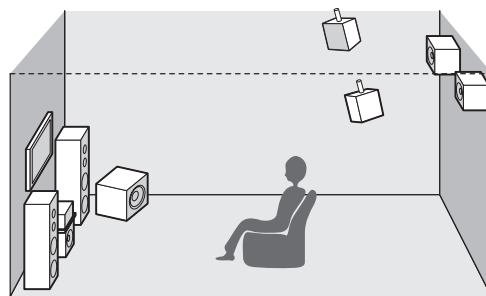
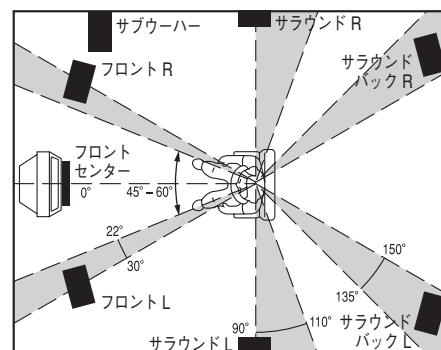
HDMI 入力端子が4系統と HDMI出力端子が2系統あります。

基本接続

スピーカーの配置

本機における理想的なサラウンド再生スピーカーシステムは　フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R、サブウーファーの合計8チャンネルです。
サラウンド再生に最低限必要なスピーカーシステムはフロントL/R、サラウンドL/Rですが、この場合ドルビーデジタルEXやDTS-ESの再生はできません。
本機では使用するスピーカーの数や位置、また低音域の出力特性にあわせて設定をおこないます。
（37ページ参照）

配置のポイント

スピーカーの配置は、実際、部屋の大きさなどによって違いますが、ここでは各スピーカーの基本的配置例と配置のポイントを説明します。

フロント L/R スピーカー

リスニングポジションから見てＬとＲのスピーカーが 45度～60度の角度を持つように設置することを推奨します。

センタースピーカー

フロントL/R スピーカーと前面を揃えるか、または少しだけ後方にずらして設置します。

サラウンド L/R スピーカー

サラウンド再生に必要なスピーカーです。リスニングポジションの真横または少しだけ後方にずらした壁際に設置します。スピーカー前面の中心が、部屋の中心を向くようにします。

サラウンドバック L/R スピーカー

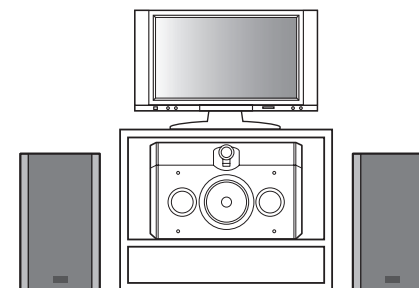
7.1chサラウンド再生に必要なスピーカーです。リスニングポジションの後の壁際に設置します。
スピーカー前面の中心が、部屋の中心を向くようにします。

サブウーファー

低音の効果を最大限に得るために利用することをお勧めします。サブウーファーは低音域のみを扱うため、部屋の中であれば位置はそれほど重要ではありません。

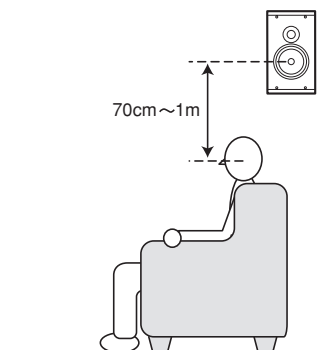
スピーカー配置の高さ

フロントスピーカー（L、R、センター）

3つのフロントスピーカーの中・高域用ユニットはできる限り同じ高さに揃えます。

ご注意

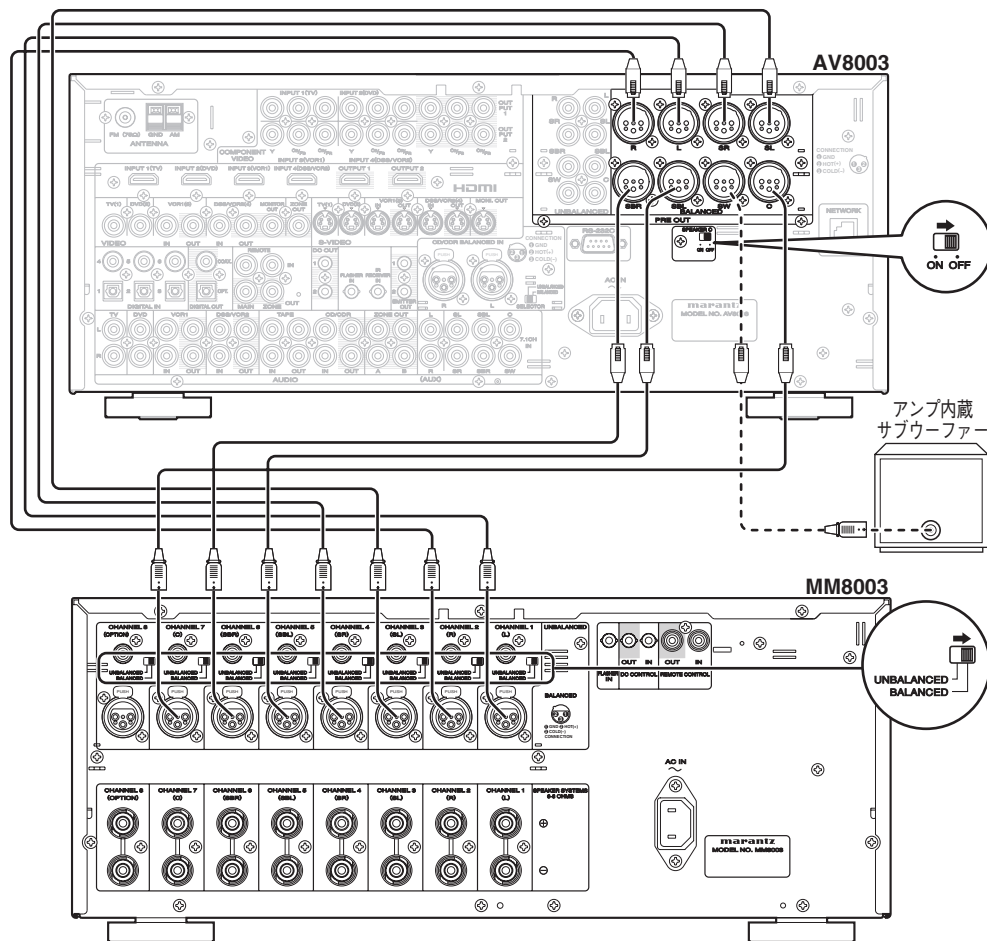
スピーカーをテレビの近くに置く場合、フロントL/Rおよびセンタースピーカーは防磁型のスピーカーをご使用ください。

サラウンド L/R、サラウンドバックスピーカー

場所が許す限り、リスナーより70センチから1メートル程上方に設置します。この位置で設置することにより、音源定位を際立たせず、より包み込むようなサラウンド感を実現します。

MM8003との接続（バランス）

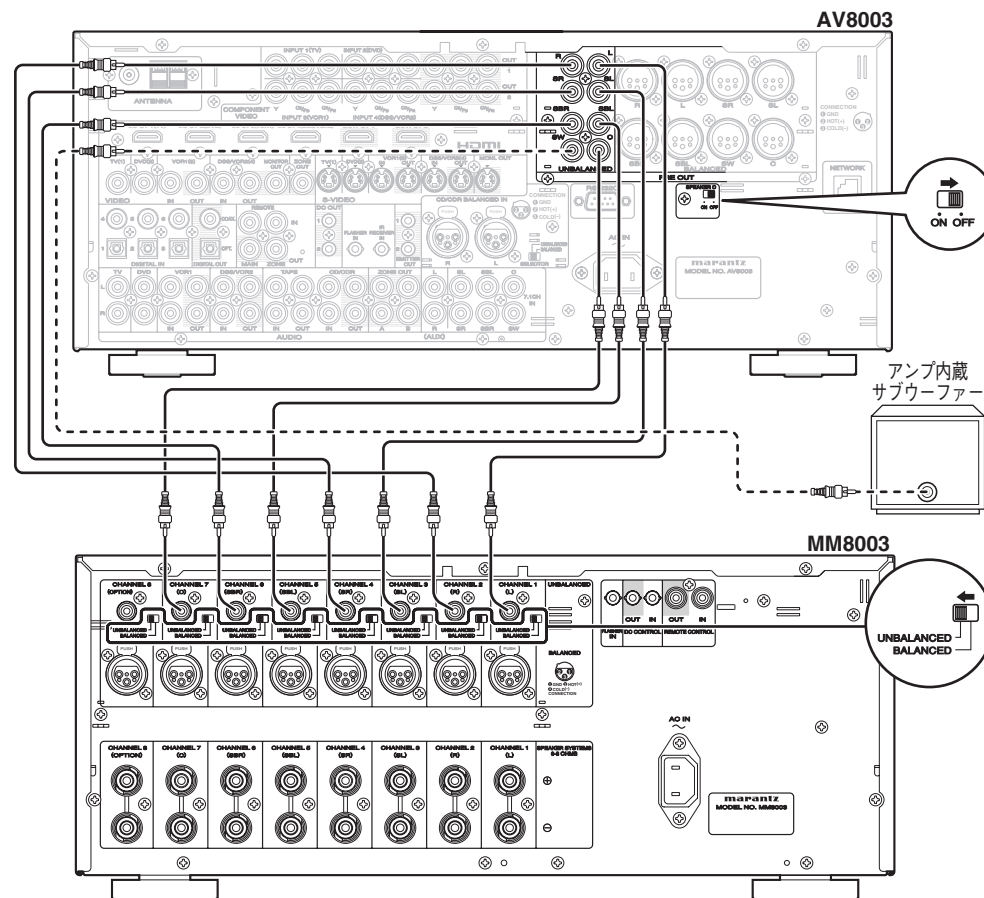
L（フロント左）、R（フロント右）、C（センター）、SL（サラウンド左）、SR（サラウンド右）、SBL（サラウンドバック左）、SBR（サラウンドバック右）の端子とMM8003などのパワーアンプのバランス入力端子と接続します。

サブウーファーの接続

本機のSW（サブウーファー用音声出力）端子を使ってパワード（パワーアンプ内蔵）サブウーファーと接続します。

MM8003との接続（アンバランス）

L（フロント左）、R（フロント右）、C（センター）、SL（サラウンド左）、SR（サラウンド右）、SBL（サラウンドバック左）、SBR（サラウンドバック右）の端子とMM8003などのパワーアンプのアンバランス入力端子と接続します。

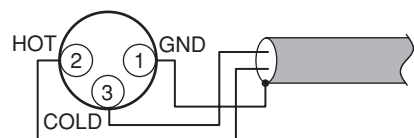
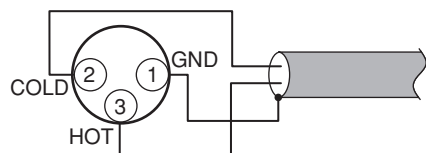
サブウーファーの接続

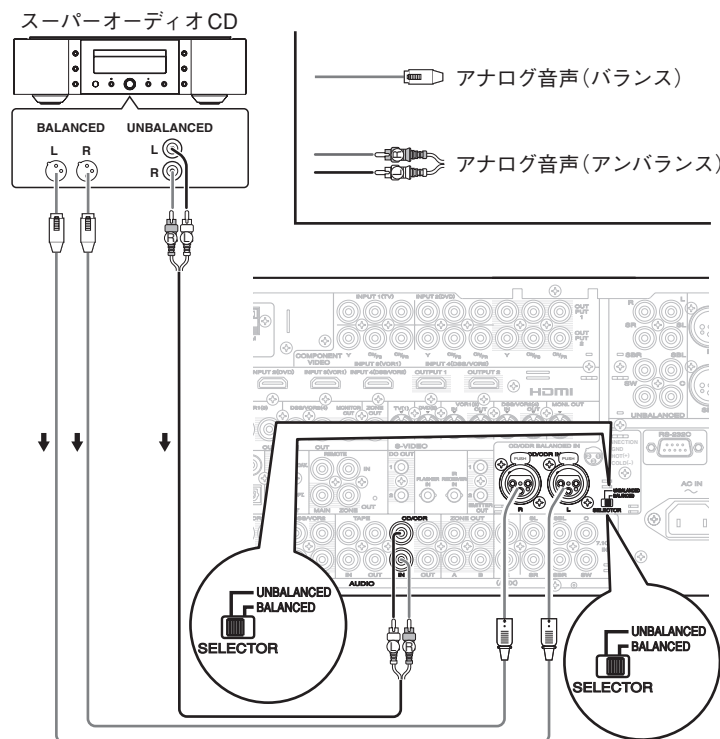
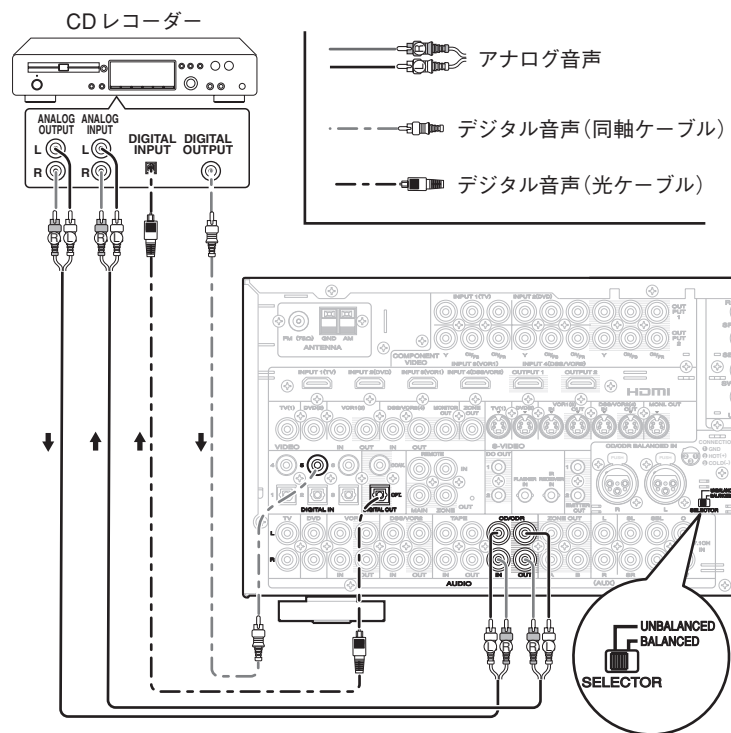
本機のSW（サブウーファー用音声出力）端子を使ってパワード（パワーアンプ内蔵）サブウーファーと接続します。

バランス端子について

本機ではBALANCED端子に、プロフェッショナル用として広く採用されている、XLRコネクターを使用しています。その特長は以下のとおりです。

- 3ピン構造のため、音楽信号を平衡信号で伝送でき、外来ノイズの影響が少ない
- 看脱ロック機構のため、コネクター部のぐらつきが少なく、信頼性が高い

XLRコネクターの接続方法は、プロフェッショナル用としてタイプが二通りあります。

1. ヨーロッパ方式（②PIN=HOT ③PIN=COLD）

2. USA方式（②PIN=COLD ③PIN=HOT）

本機では、1.のヨーロッパ方式を採用しています。本機と、USA方式を採用しているパワーアンプやプレイヤーをBALANCEDケーブルで接続すると、信号が逆位相になります。
信号の位相を正しくするには、片側のXLRコネクターの②PINと③PINを逆になるようにつなぎ換えてください。

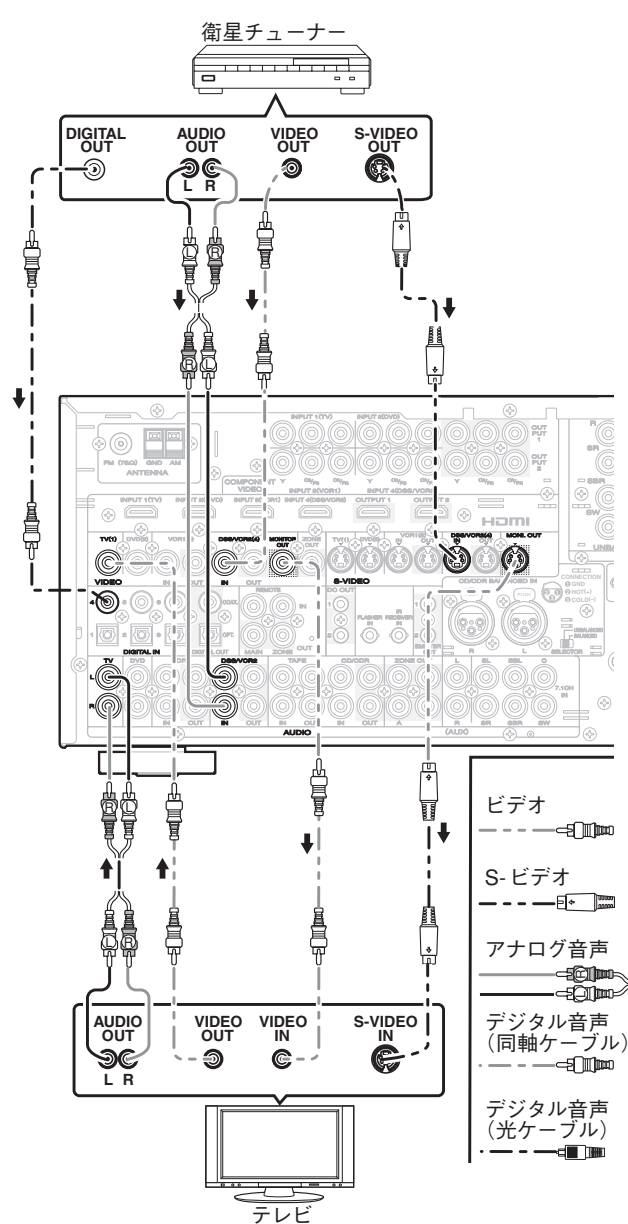
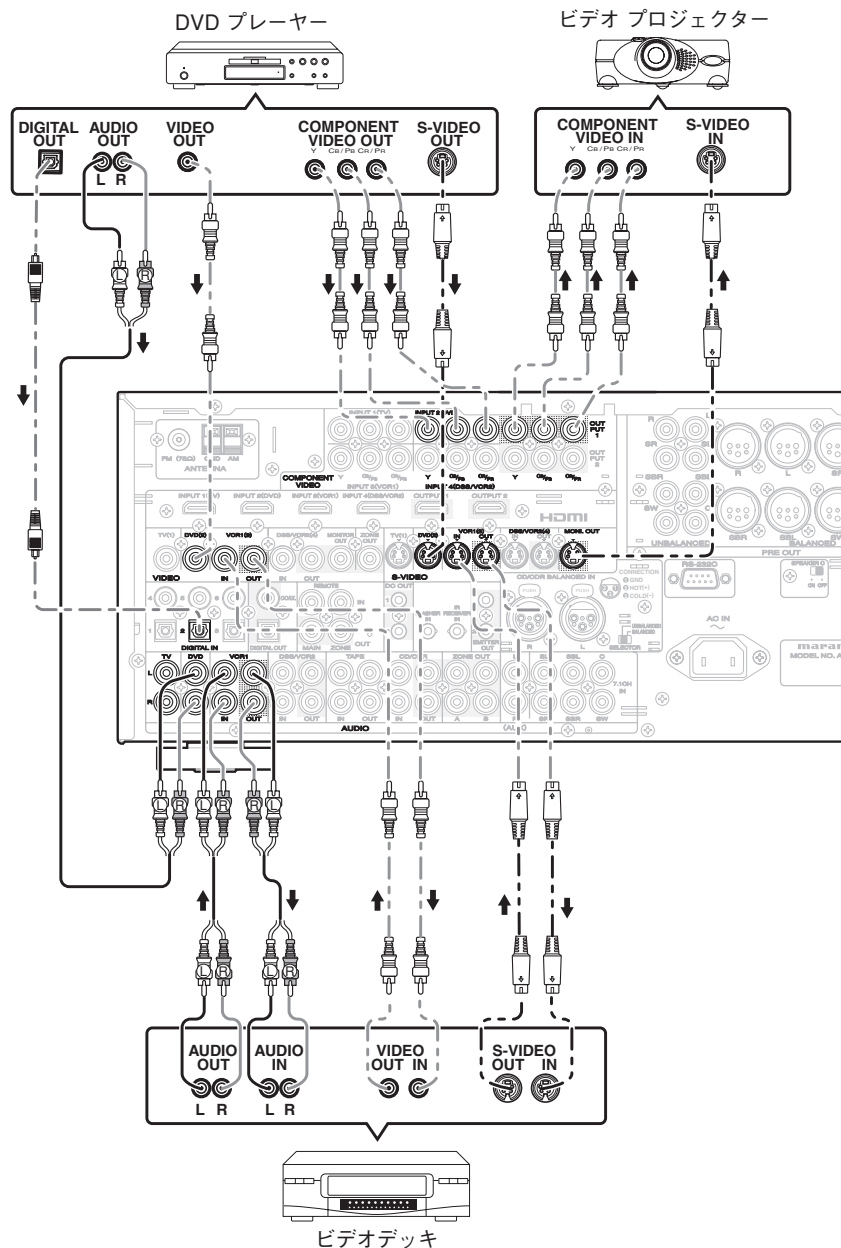
音声機器との接続

TAPE出力端子とCD/CDR出力端子からの音声出力信号は、録音用の出力です。現在選択されている音声ソースが出力されます。

ご注意

- 全ての接続が完全に終わるまで、本機や他の機器の電源コードを電源コンセントに差し込まないでください。
- 接続コードのプラグは確実に接続端子に挿入してください。不完全な接続は、雑音の原因となります。
- L（左）チャンネルとR（右）チャンネルを正しく接続してください。赤い端子はR（右）チャンネル、白い端子はL（左）チャンネルです。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- 本機と接続する機器については、それぞれの取扱説明書を参考にしてください。
- 音声／映像接続ケーブルと電源コードやスピーカーコードは束ねないでください。束ねると、ハムやその他の雑音が発生する場合があります。
- バランス端子とアンバランス端子を同時に接続しないでください。

デジタル音声機器との接続

- 本機の背面には、同軸端子3系統と光端子3系統、計6系統のデジタル入力があります。これらの端子を使用して、CDプレーヤーやDVDプレーヤーなどのデジタル音声機器からPCM信号、Dolby Digital信号、DTSビットストリーム信号、AACビットストリーム信号を入力できます。
- 本機の背面には、同軸端子1系統と光端子1系統、計2系統のデジタル出力があります。これらの端子は、CDレコーダーやMDデッキなどのデジタル録音機器との接続ができます。
- DVDプレーヤーや、その他デジタルソース機器のデジタル音声フォーマットの設定を行ってください。デジタル入力端子に接続されるそれぞれの機器については、取扱説明書を参照してください。
- DIG-1、2および3の入力端子には光ケーブルをご使用ください。DIG-4、5および6の入力端子にはデジタル音声用または映像用の75 Ω同軸ケーブルをご使用ください。
- お手持ちの機器に応じて、それぞれのデジタル入力端子に対して入力を指定することができます。（35ページ参照）

映像機器との接続

ビデオ、S-ビデオ、コンポーネント端子

リアパネルには3つのタイプのビデオ（映像）端子があります。

ビデオ端子
ビデオ端子の映像信号は従来の複合映像信号です。

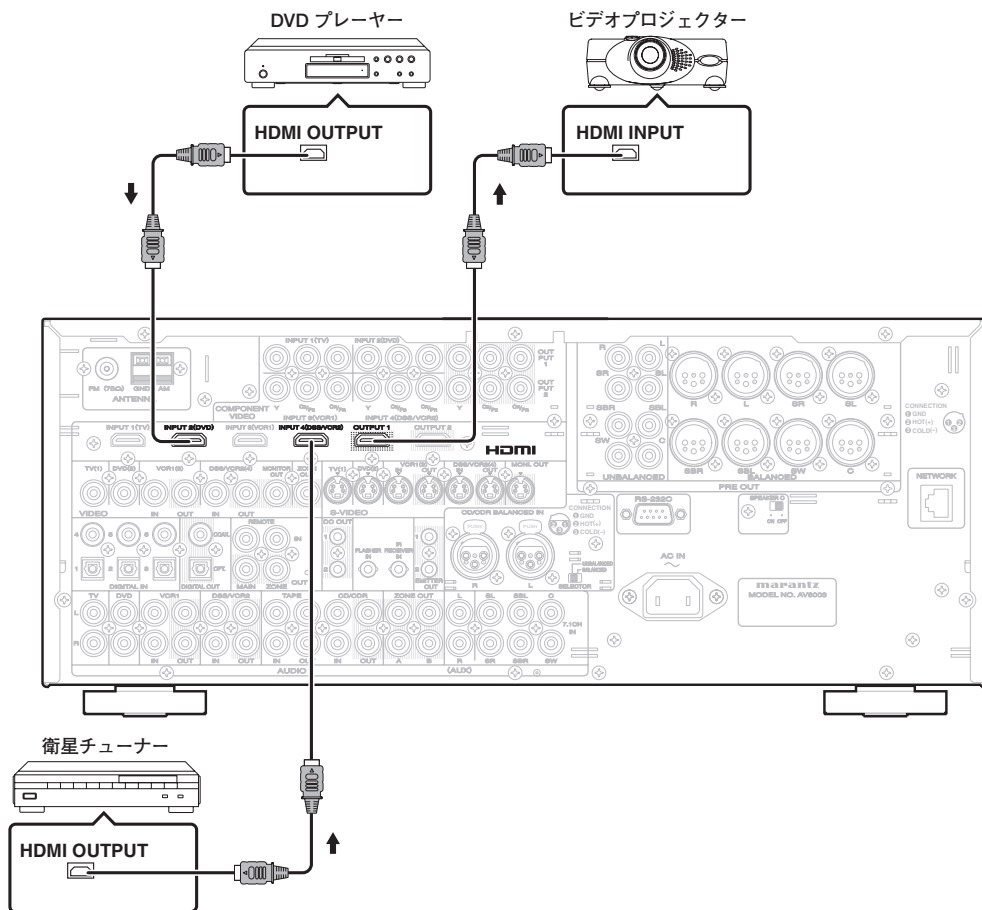
S- ビデオ端子
S- ビデオ端子用の映像信号は、輝度信号（Y）と色信号（C）に分離しています。S- ビデオ信号は高品質の色再現を可能にします。ご使用の映像機器がS- ビデオ出力を装備しているのであれば、S- ビデオ出力の使用をお勧めします。本機のS- ビデオ入力端子とご使用の映像機器のS- ビデオ出力端子を接続してください。

コンポーネントビデオ（色差ビデオ）端子
コンポーネントビデオ信号は輝度信号（Y）緑、色差信号（PB）青、色差信号（PR）赤の3本から構成されており、より高品質な映像再生を可能にしております。

ご注意

- 音声チャンネルのL（左）R（右）を正しく接続してください。赤いコネクターはR（右）チャンネル用、白いコネクターはL（左）チャンネル用です。
- 入力と出力を正しく接続してください。
- 本機は「ビデオコンバート機能」があります。映像の入出力については54ページを参照してください。
- お手持ちのDVD プレーヤーなどデジタルソース機器のデジタル音声出力形式を設定しなければならない場合があります。接続した各機器の取扱説明書を参照してください。
- COMPONENT VIDEO出力1および2の端子から出力される映像信号は同じなので、どちらの端子でも接続できます。

  また出力2をマルチゾーン用の出力として使うこともできます。

HDMI対応機器との接続

HDMI 端子

本機には HDMI 入力端子が4系統、HDMI 出力端子が2系統あります。この端子はDVDやその他のソースから直接ディスプレイ機器にデジタル映像および音声信号を送ります。そのためアナログ変換による信号の劣化を最小限に抑えることができるので、高品質の映像をお楽しみいただけます。

ご注意

- HDCP* に対応していないモニター機器に HDMI 出力を接続しても信号は出力されません。HDMIの映像を見るには、HDCPに対応したディスプレイ機器に接続してください。
- HDMI端子の詳細については、本機に接続するTVまたはディスプレイ機器の取扱説明書を参照してください。

* HDCP: 高帯域デジタルコンテンツ・プロテクション

HDMI対応機器の接続

市販のHDMIケーブルを使用して本機のHDMI端子とDVD/TV/プロジェクターなどのHDMI端子と接続します。
HDMI端子のマルチチャンネルオーディオ伝送には、対応したプレーヤーが必要です。

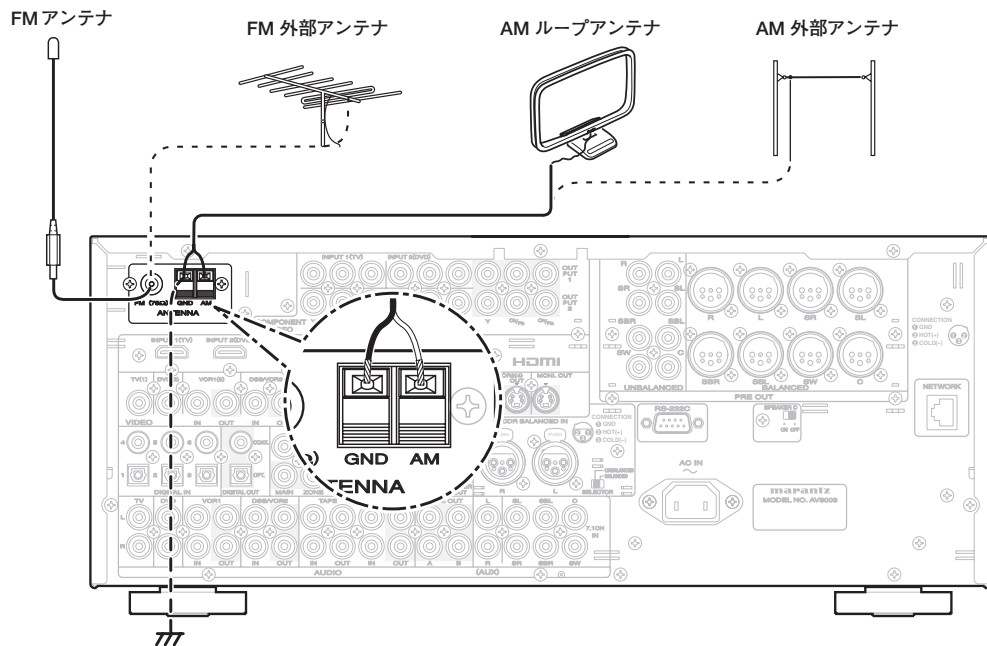
ご注意

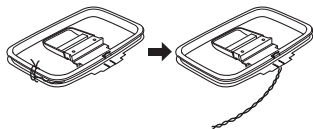
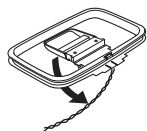
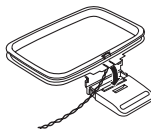
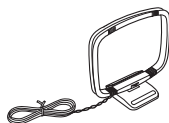
- DVDプレーヤーなどのソース機器の中には HDMIリピーター動作に対応しない機器があります。このときTVまたはプロジェクターなどのモニター機器には出力されません。
- 複数の機器を接続したときは、お互いの干渉を防ぐため、使わない機器の電源を切ってください。
- 電源が入った状態でケーブルを抜き差しすると、故障の原因になります。電源を切った状態でケーブルの抜き差しを行ってください。
- HDMI 1.1に対応していないDVDプレーヤーを接続した場合、DVDオーディオディスクを再生してもマルチチャンネルPCM再生はできません。
- HDMI 1.2に対応していないスーパーオーディオCDプレーヤーをHDMI接続した場合、スーパーオーディオCDのDSD再生を行うことはできません。
- 本機とHDMI 1.3a未対応の機器を接続した場合、下記の機能は使用できません。
  - ディープカラー
  - x.v.Color
  - オートリップシンク
  - Dolby Digital PLUS、Dolby True HD、DTS-HDなどのビットストリーム音声信号のデコード

  詳細は接続する機器の取扱説明書を参照してください。
- HDMI端子から入力された音声信号でマルチチャンネルPCMおよびサンプリング周波数64kHz以上の信号はDIGITAL OUT端子から出力されません。
- HDMI信号は、使用するケーブルの品質によってノイズの影響を受けることがあります。
- 本機はHDMIコントロールに対応していません。しかし、本機をHDMIコントロールに対応した機器間に接続し、HDMIコントロール信号をスルーして制御を行なうことができます。(HDMIコントロールスルー)

  HDMI OUTPUT 2はHDMIコントロールスルーに対応していません。HDMIコントロールスルーを使用する場合は、HDMI OUTPUT1を使用してください。なお、HDMI入力は全てHDMIコントロールスルーに対応しています。

  HDMIコントロールとは、HDMI規格で定められているCEC(Consumer Electronics Control)を用いた機器間相互制御の機能です。HDMIケーブルでつなぐことにより、機器間で連動した操作を行うことができます。

アンテナの接続

AMループアンテナの組み立て

1. 接続線を取り出します。

2. 台座部分を反対側に折り曲げます。

3. ループの底にあるフックを台座部分の溝に入れます。

4. 安定した面にアンテナを設置します。

付属アンテナの接続

付属 FM アンテナの接続

付属 FM アンテナは室内で使用してください。
使用時は、アンテナを伸ばしてクリアに受信できるまで様々な方向に移動させてください。
雑音が最も少ない場所に押しピンなどを使ってアンテナを固定します。
受信状態が悪い場合は、屋外アンテナを設置すると受信状態が良くなることがあります。

付属 AM ループアンテナの接続

付属のAM ループアンテナは室内で使用してください。
クリアに受信できる方向および位置にアンテナを設置します。
本機、TV、スピーカー、電源コードからできるだけ離して置いてください。
受信状態が悪い場合は、屋外アンテナを取り付けると受信状態が良くなることがあります。

1. **AMアンテナ端子のレバーを押下げます。**
2. **裸線をアンテナ端子に差し込みます。**
3. **レバーを離します。**

ご注意

- シールド線のGND線（黒）をAMアンテナ端子のGND側に接続します。

FM 屋外アンテナの接続

ご注意

- アンテナはノイズ源（ネオンサイン、交通量の多い道路など）から離して設置してください。
- アンテナを送電線や変圧器などから離して設置してください。
- 落雷や感電を防ぐため、必ず接地を行ってください。

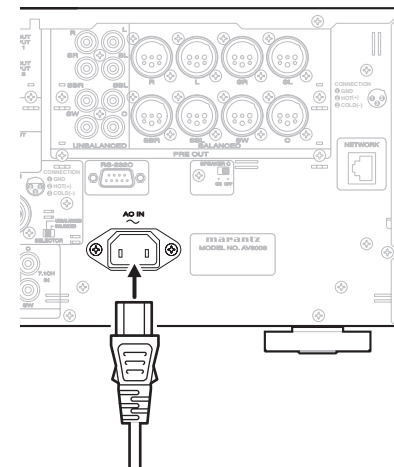
AM 屋外アンテナの接続

ご注意

- AMループアンテナは取り外さないでください。
- 落雷や感電を防ぐため、必ず接地を行ってください。

電源コードの接続

電源コードはすべての接続が終わってから接続してください。

1. **付属の電源コードを本機の背面の電源接続端子に差し込んでください。**

2. **電源コードのプラグを壁面の電源コンセット（AC100V、50/60Hz）へ接続してください。**
   ※ コンセントに接続する他の機器との消費電力の合計がコンセントの容量を超えないように注意してください。

ご注意

- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音等の発生の原因になります。
- 他製品のACアウトレットには接続しないでください。ACアウトレットの容量を超えて使用した場合、製品故障の原因になります。

基本操作

電源を入れる

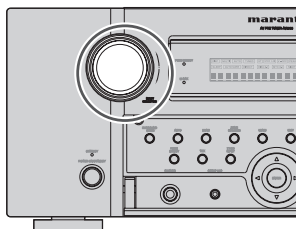
1. 接続したオーディオ機器の電源スイッチを入れてください。その際オーディオ機器のセレクトボタンは本機と接続した入力を選択してください。
2. 電源コードをコンセントに差し込んでください。
3. 本機の電源ボタン、またはリモコンの電源ボタンを押して電源を入れます。
   - 電源ボタンを押すごとに、本機は電源のオンとスタンバイを繰り返します。

アンプ操作

入力ファンクションの選択

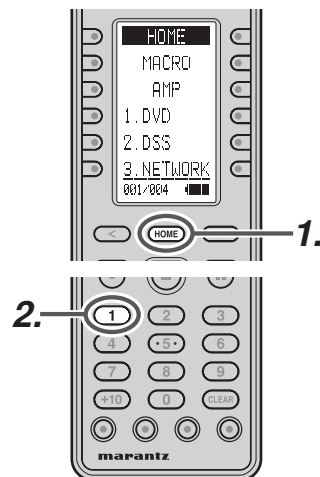
再生する際は、まず初めに本機の入力ファンクションを選択します。

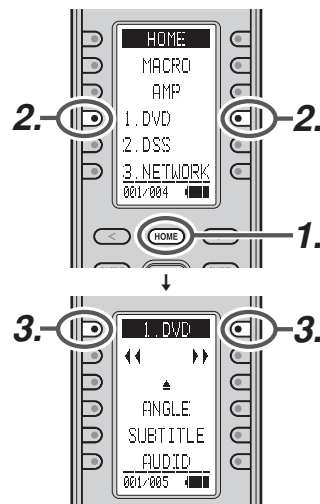
例）DVD からの信号を再生する。

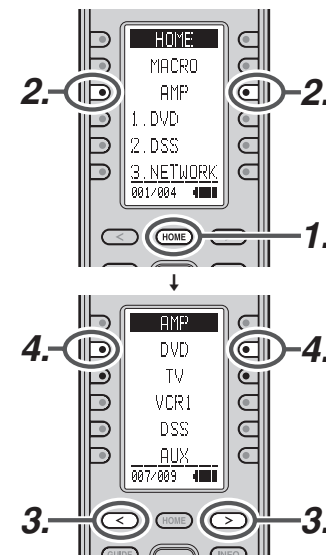
（本機で選択する場合）

本機のインプットセレクターをまわしてDVDを選択します。

（リモコンで選択する場合）

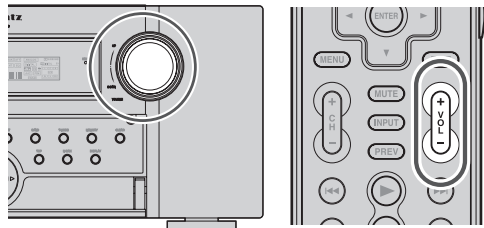
下記の3通りの方法があります。

使用例1

1. *HOME* ボタンを押します。
2. *1* ボタンを押します。

使用例2

1. *HOME* ボタンを押します。
2. *1.DVD* ボタンを押します。
3. *1.DVD* ボタンを押します。

使用例3

1. *HOME* ボタンを押します。
2. *AMP* ボタンを押します。
3. 007 ページが表示されるまで</>ボタンを押します。
4. *DVD* ボタンを押します。

- 入力ファンクションを切り替えた際、OSD や本機表示部に選択したファンクション名が表示されます。
- 入力ファンクションごとにサラウンドモード、デジタル入力、アナログ入力などの前回の状態がメモリーされています。
- TUNER を選択した時は、映像ソースを別に選択することができます。

音量を調整する

1. 本機のVOLUME ダイヤルを回すか、リモコンの*VOL(＋)*、*(－)*ボタンを押してお好みの音量に調整します。

- 音量を上げるにはVOLUMEつまみを右に回すか、リモコンのVOL(＋)ボタンを押してください。
- 音量を下げるにはVOLUMEつまみを左に回すか、リモコンのVOL(－)ボタンを押してください。
- 音量調整時には本機表示部およびOSDに調整レベルが表示されます。
- 設定した音量レベルは次回電源オン時に引きつがれます。音量を＋9dB以上に設定した場合、次回電源オン時に音量は＋8dBに設定されます。

トーンコントロール

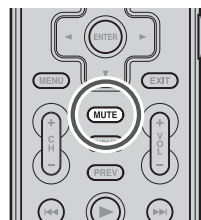
スピーカー音声出力のBASS(低音域)、TREBLE(高音域)の調整が各々可能です。それぞれ、＋/－6dBまで1dBステップで調整ができます。

リモコンをAMPモードに切り替え、ページ003が表示されるまで、</>ボタンを押します。***BASS＋***、***BASS-***、***TREBLE＋***または***TREBLE-***を押してお好みのレベルに調整してください。

ご注意

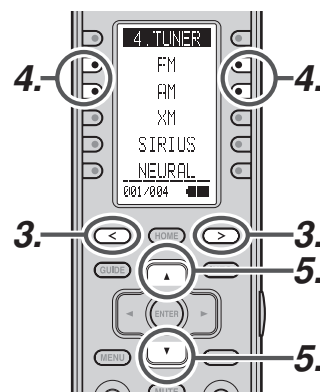
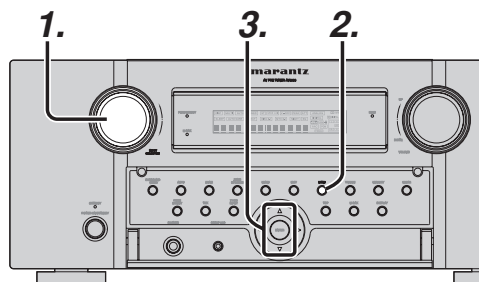
- トーンコントロールはソースダイレクト、ピュアダイレクト、7.1CH INPUT、ドルビーヘッドホン、ドルビーバーチャルスピーカーの各モードが設定されている時は無効になります。
- トーンコントロールはDolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD、176.4/192kHz PCM信号を再生中は無効になります。
- ACCOUSTIC EQまたはM-DAXを使用中も無効になります。

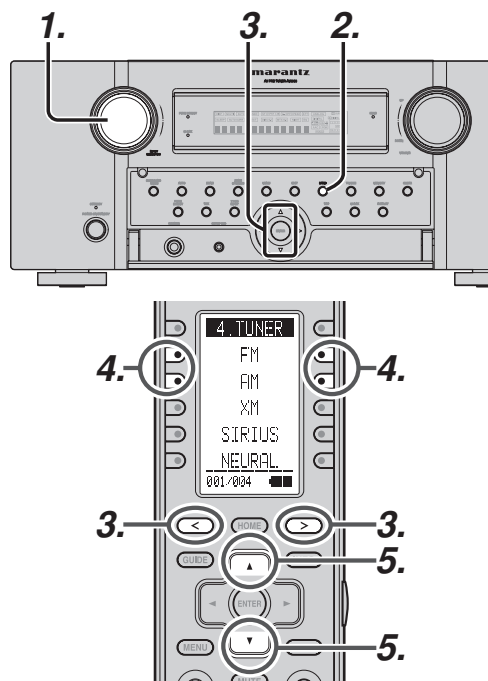
ミュート機能

本機で再生動作をしているとき、一時的にスピーカーからの音声を消すことができます。

1. リモコンの*MUTE*ボタンを押します。音声出力が消えます。
   本機表示部、OSDにMUTEと表示されます。
2. ミュートを解除したい場合は、再度リモコンの*MUTE*ボタンを押します。
   音声が再び出力されます。またリモコンのボリュームコントロールによってもミュートは解除されます。

チューナー(FM/AM)を聴く

チューナー機能の操作をリモコンで行う場合は、リモコンをTUNERモードにしてから操作を行います。

オートチューニング

(本機で選択する場合)

1. フロントパネルの*INPUT SELECTOR*つまみを回してTuner選択します。
2. フロントパネルの*BAND*ボタンを押して、聴きたいバンド(AMまたはFM)を選択します。
3. フロントパネルのカーソルボタン▲/▼ボタンを1秒以上押し続けるとオートチューニング・モードが開始します。
4. オートスキャンが始まり、放送局を受信するとスキャンが停止します。

(リモコンで選択する場合)

1. TUNERファンクションを選択します。
   (「入力ファンクションの選択」参照)
2. リモコンをTUNERモードに切り替えます。
3. リモコンの</>ボタンを押して001ページを表示させます。
4. *FM*または*AM*ボタンを押してFMまたはAMのバンドを切り替えます。
5. ▲または▼ボタンを1秒以上押し続けます。
6. オートスキャンが始まり、放送局を受信するとスキャンが停止します。

アドバイス

- もし聞きたい放送局の周波数が解っていて、オートスキャン操作でスキャンが停止しなかった場合はマニュアルチューニングで選局してください。
- リモコンのTUNERモードの002ページの－ TUNE ＋ボタンを使っても▲/▼と同様の操作ができます。

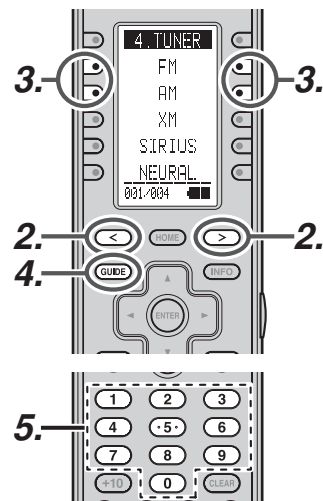
マニュアルチューニング

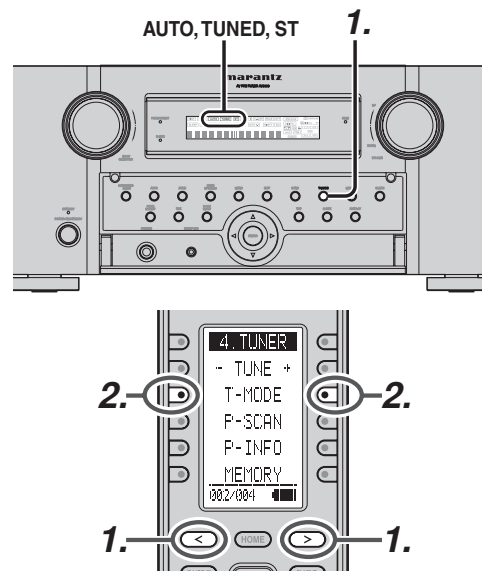
（本機で選択する場合）

1. フロントパネルの*INPUT SELECTOR*つまみを回してTUNER選択します。
2. フロントパネルの*BAND*ボタンを押して、聴きたいバンド（AMまたはFM）を選択します。
3. フロントパネルのカーソルボタン▲ / ▼ボタンを押して、お聞きになりたい放送局の周波数にあわせます。

（リモコンで選択する場合）

1. TUNERファンクションを選択します。
   （「入力ファンクションの選択」参照）
2. リモコンをTUNERモードに切り替えます。
3. リモコンの< / >ボタンを押して001ページを表示させます。
4. *FM*または*AM*ボタンを押してFMまたはAMのバンドを切り替えます。
5. ▲または▼ボタンでお聞きになりたい放送局の周波数にあわせます。

周波数入力によるダイレクト選局

1. リモコンをTUNERモードに切り替えます。
2. リモコンの< / >ボタンを押して001ページを表示させます。
3. *FM*または*AM*ボタンを押してFMまたはAMのバンドを切り替えます。
4. リモコンの*GUIDE*ボタンを押すと本機のディスプレイ表示部に「FREQ ----」と表示されます。
5. リモコンの*数字*キーで聴きたい放送局の周波数を入力します。
6. 入力した周波数が選局されます。

FM受信モード（オートステレオまたはモノラル）

チューナーのバンドにFMが選択されているときにフロントパネルまたはリモコンの*T-MODE*ボタンでオートステレオとモノラルの切り替えができます。

（本機で操作する場合）

1. フロントパネルの*T-MODE*ボタンを押してオートステレオとモノラルの切り替えをします。

（リモコンで操作する場合）

1. リモコンの< / >ボタンを押して002ページを表示させます。
2. *T-MODE*ボタンを押してオートステレオとモノラルの切り替えをします。

アドバイス

- オートステレオ・モード時は、本機のディスプレイ表示部に「AUTO」インジケーターが点灯します。

  またステレオ放送受信時は、「ST」インジケーターが点灯します。

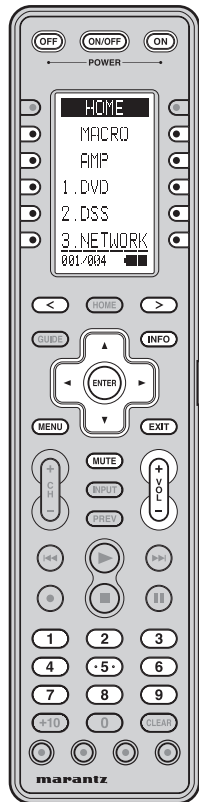
電波が弱いと、ステレオで受信するのが困難な場合があります。
このとき、リモコンまたは本機の*T-MODE*ボタンを押してモノラルに切り替えてください。
モノラル受信となりますが、ノイズが軽減され聴きやすくなります。この時、ディスプレイ表示部の「AUTO」インジケーターは消灯します。

リモコン(RC2001)で本機を操作する

付属リモコンRC2001を使用して本機を操作するには、HOMEモードにてリモコンモードを切り替えてAMP、NETWORK、TUNERを選びます。AMPモードの詳細については以下を参照してください。

ご注意

ソフトボタンに関して、一部を除いて各コマンドの左側、または右側のどちらのボタンを押しても同じ操作となります。(*マーク除く)

HOMEモード

SOURCE ON/OFF	本機の電源オン/スタンバイの切り替え
POWER ON	本機の電源オン
POWER OFF	本機のスタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
< / >	リモコンのページを切り替えます
INFO	動作状態のOSD表示
カーソル	セットアップメニューでのカーソル移動
ENTER	セットアップメニューでの設定確定
MENU	セットアップメニュー呼び出し
EXIT	セットアップメニューを終了する
MUTE	一時的に音声出力停止、および解除
VOL + / -	全チャンネルの音量調整
1	DVDファンクションの選択
2	DSSファンクションの選択
3	NETWORKファンクションの選択
4	TUNERファンクションの選択
5	CD/Rファンクションの選択
6	AUXファンクションの選択
7	VCR1ファンクションの選択
8	TVファンクションの選択
9	TAPEファンクションの選択

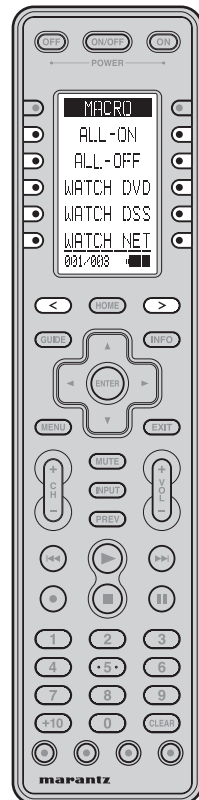
ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	HOME	
	MACRO	リモコンモードをMACROに切り替えます
	AMP	リモコンモードをAMPに切り替えます
	1.DVD	リモコンモードを1.DVDに切り替えます
	2.DSS	リモコンモードを2.DSSに切り替えます
	3.NETWORK	リモコンモードを3.NETWORKに切り替えます
2	HOME	
	4.TUNER	リモコンモードを4.TUNERに切り替えます
	5.CD	リモコンモードを5.CDに切り替えます
	6.AUX	リモコンモードを6.AUXに切り替えます
	7.VCR1	リモコンモードを7.VCR1に切り替えます
	8.TV	リモコンモードを8.TVに切り替えます
3	HOME	
	9.TAPE	リモコンモードを9.TAPEに切り替えます
	VCR2	リモコンモードをVCR2に切り替えます
	PLASMA	リモコンモードをPLASMAに切り替えます
	ZONE-A	リモコンモードをZONE-Aに切り替えます
	ZONE-B	リモコンモードをZONE-Bに切り替えます
4	HOME	
	IPOD	リモコンモードをIPODに切り替えます
	V-SWITCH	リモコンモードをV-SWITCHに切り替えます
	CD-R	リモコンモードをCD-Rに切り替えます
	MD	リモコンモードをMDに切り替えます
	BLU-RAY	リモコンモードをBLU-RAYに切り替えます

MACROモード

MACROとは、複数のボタン操作を1回で連続に行うための機能です。

例) WATCH DVD

AV8003の電源をONする。→ TVの電源をONする。 → DVDの電源をONする。 → TVのファンクションをDVDにする。 → AMPのファンクションをDVDにする。 → リモコンモードをDVDにする。

ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	MACRO	
	ALL-ON	すべての機器の電源をONします
	ALL-OFF	すべての機器の電源をOFFします
	WATCH DVD	DVDを見る
	WATCH DSS	DSSを見る
	WATCH NET	NETWORKを見る
2	MACRO	
	LISTEN AM	AMを聞く
	LISTEN FM	FMを聞く
	LISTEN XM	(この機能は日本仕様モデルでは使用しません。)
	LISTEN SR	(この機能は日本仕様モデルでは使用しません。)
	LISTEN CD	CDを聞く
3	MACRO	
	LSTN IPOD	IPODを聞く
	WATCH VCR	VCRを見る
	WATCH TV	TVを見る

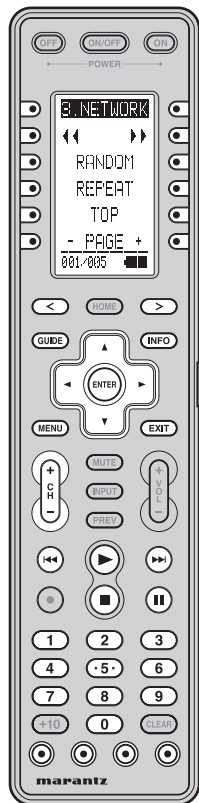
AMPモード

SOURCE ON/OFF	本機の電源オン/スタンバイの切り替え
POWER ON	本機の電源オン
POWER OFF	本機のスタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンをHOMEモードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
INFO	動作状態のOSD表示
カーソル	セットアップメニューでのカーソル移動
ENTER	セットアップメニューでの設定確定
MENU	セットアップメニュー呼び出し
EXIT	セットアップメニューを終了する
MUTE	一時的に音声出力停止、および解除
VOL + / -	全チャンネルの音量調整
1	DVDファンクションの選択
2	DSSファンクションの選択
3	NETWORKファンクションの選択
4	TUNERファンクションの選択
5	CD/Rファンクションの選択
6	AUXファンクションの選択
7	VCR1ファンクションの選択
8	TVファンクションの選択
9	TAPEファンクションの選択

ソフトボタン一覧表

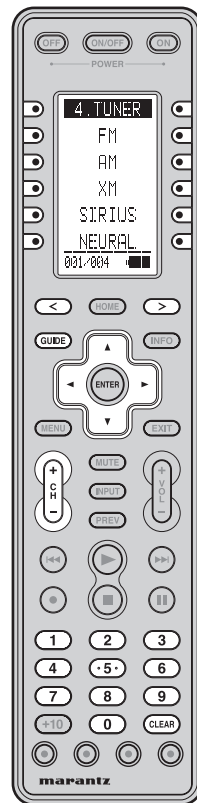
ページ	コマンド	操作
1	AMP	
	M-DAX	M-DAXの選択
	SLEEP	スリープタイマー機能を設定
	DISPLAY	本機の表示モードの切り替え
	SURR MODE	サラウンドモードの選択
	- INPUT +	アンプのファンクションを切り替えます*
2	AMP	
	7.1CH IN	7.1CH入力のON/OFF切り替え
	A/D	アナログ入力/デジタル入力の切り替え
	AUDIO	オーディオの切り替え
	1-HDMI-2	HDMI信号出力先の切り替え*
	LIP SYNC	リップシンク機能の設定
3	AMP	
	- BASS +	低音の量の調節*
	-TREBLE+	高音の量の調節*
	RE-EQ	RE-EQモードのオン/オフ
	NIGHT	ナイトモードのオン/オフ
	EQ	EQモードの選択
4	AMP	
	TEST TONE	TEST TONEメニューの選択
	CH SELECT	7.1CH入力レベルの調整メニューの呼び出し
	-CH LEV+	チャンネルレベルの調節*
	ATT	アナログ信号レベルの減衰
	VIDEO OFF	ビデオ出力のオン/オフ
5	AMP	
	AUTO SURR	オートサラウンドモードの選択
	STEREO	ステレオモードの選択
	P DIRECT	ピュアダイレクトモードの選択
	THX	THXモードの選択
	M-CH ST	マルチCHステレオモードの選択

ページ	コマンド	操作
6	AMP	
	DD	ドルビーモードの選択
	DTS	DTSモードの選択
	ES/EX	ES/EXモードの選択
	CS2	CS2モードの選択
	VIRTUAL	バーチャルスピーカーモードの選択
7	AMP	
	DVD	DVDファンクションの選択
	TV	TVファンクションの選択
	VCR1	VCR1ファンクションの選択
	DSS	DSSファンクションの選択
	AUX	AUXファンクションの選択
8	AMP	
	TAPE	TAPEファンクションの選択
	CD	CD/Rファンクションの選択
	TUNER	TUNERファンクションの選択
	NETWORK	NETWORKファンクションの選択
9	AMP	
	P.AMP ON	MM8003を単独で電源オンさせたい時に使用します。
	P.AMP OFF	MM8003を単独でスタンバイさせたい時に使用します。

NETWORKモード

ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンをHOMEモードに変更
< / >	リモコンのページを切り替えます
GUIDE	トップメニューに移動
INFO	ファイルの詳細表示
カーソル	カーソルの移動
ENTER	項目の選択
MENU	TOOLメニュー
EXIT	前画面に戻る
CH +/-	ページの移動
▶	再生
⏮ / ⏭	ファイルの移動
■	停止
❚❚	一時停止
0-9	ネットワーク設定時に使用
Blue	MUSIC TOPに移動
Red	PHOTO TOPに移動
Green	VIDEO TOPに移動
Yellow	SERVER TOPに移動

ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	3.NETWORK	NETWORKファンクションの選択
	◀◀ / ▶▶	（左）早戻し*
		（右）早送り*
	RANDOM	ランダム再生
	REPEAT	リピート再生
	TOP	トップメニューに移動
	- PAGE +	ページの移動*
2	3.NETWORK	NETWORKファンクションの選択
	M ARTIST	MUSIC ARTISTSに移動
	M ALBUM	MUSIC ALBUMSに移動
	M GENRE	MUSIC GENRESに移動
	MUSIC ALL	ALL SONGSに移動
	M P-LIST	MUSIC PLAYLISTSに移動
3	3.NETWORK	NETWORKファンクションの選択
	P ALBUM	PHOTO ALBUMSに移動
	PHOTO ALL	ALL PHOTOSに移動
	P P-LIST	PHOTO PLAYLISTSに移動
4	3.NETWORK	NETWORKファンクションの選択
	V ALBUM	VIDEO ALBUMSに移動
	V GENRE	VIDEO GENRESに移動
	VIDEO ALL	ALL VIDEOSに移動
	V P-LIST	VIDEO PLAYLISTSに移動
5	3.NETWORK	NETWORKファンクションの選択
	PLAYLIST	プレイリストへの登録
	BILINGUAL	動画再生中に音声切り替え
	SETTINGS	SETTING MENUに移動
	RESTART	NETWORKを再起動

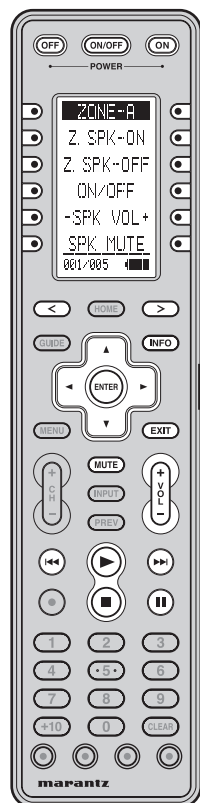
TUNERモード

ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンをHOMEモードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
GUIDE	放送局の周波数を直接入力しての選局
カーソル上	受信周波数を上げる
カーソル下	受信周波数を下げる
カーソル左	プリセット局の切り替え
カーソル右	
CH + / -	プリセット局の切り替え
0–9	周波数等の数値入力
CLEAR	メモリーや入力内容の消去

ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	4.TUNER	TUNERファンクションの選択
	FM	FMの選択
	AM	AMの選択
	XM	（この機能は日本仕様モデルでは使用しません。）
	SIRIUS	（この機能は日本仕様モデルでは使用しません。）
	NEURAL	（この機能は日本仕様モデルでは使用しません。）
2	4.TUNER	TUNERファンクションの選択
	- TUNE +	受信周波数の上げ下げ*
	T-MODE	モノラル/ステレオの切り替え
	P-SCAN	プリセットスキャンを開始
	P-INFO	プリセット情報をOSDに表示
	MEMORY	プリセットメモリーの登録
3	4.TUNER	TUNERファンクションの選択
	-SAT TUN+	受信周波数の上げ下げ*
	SAT DISP	文字情報を切り替えます
	-SAT CAT+	（この機能は日本仕様モデルでは使用しません。）
	XM SR	（この機能は日本仕様モデルでは使用しません。）
	P-LOCK	（この機能は日本仕様モデルでは使用しません。）
4	4.TUNER	TUNERファンクションの選択
	DISPLAY	文字情報を切り替えます
	PTY	（この機能は日本仕様モデルでは使用しません。）
	AF	（この機能は日本仕様モデルでは使用しません。）
	STM	（この機能は日本仕様モデルでは使用しません。）
	DWR	（この機能は日本仕様モデルでは使用しません。）

マルチゾーンをRC2001で操作する

付属のリモコンRC2001は、マルチゾーン用として使うことができます。マルチゾーン用としてお使いになる場合には、リモコンをZONE-AまたはZONE-Bモードに切り替えてお使いください。

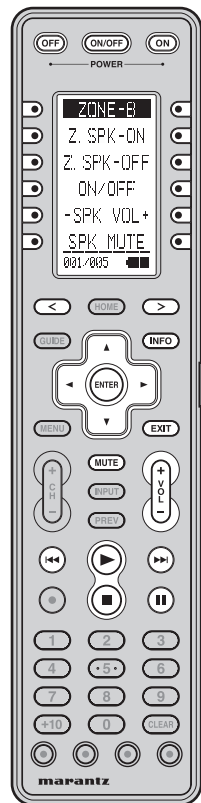
ZONE-Aモード

SOURCE ON/OFF	ゾーンＡのオン/オフ
POWER ON	ゾーンＡのオン
POWER OFF	ゾーンＡのオフ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンをHOMEモードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
INFO	OSDの表示
カーソル	カーソルの移動などに使います
ENTER	選択した項目を決定します
EXIT	前画面に戻る時などに使います
MUTE	ゾーンＡの音声をミュートします
VOL + / -	ゾーンＡの音量調節
▶	再生
|◀◀ / ▶▶|	トラックの移動
■	停止
❚❚	一時停止

ご注意

ソフトボタンのの005ページ及び▶、|◀◀、▶▶|、■、❚❚ボタンは、NETWORKファンクションのみで使用します。

ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	ZONE-A	
	Z.SPK-ON	ゾーンスピーカーＡをオンします
	Z.SPK-OFF	ゾーンスピーカーＡをオフします
	ON/OFF	ゾーンスピーカーＡをオン/オフします
	- SPK VOL +	ゾーンスピーカーＡの音量調節*
	SPK MUTE	ゾーンスピーカーＡのミュート
2	ZONE-A	
	DVD	ゾーンＡのファンクションをDVDに切り替え
	TV	ゾーンＡのファンクションをTVに切り替え
	VCR1	ゾーンＡのファンクションをVCR1に切り替え
	DSS	ゾーンＡのファンクションをDSSに切り替え
	AUX	ゾーンＡのファンクションをAUXに切り替え
3	ZONE-A	
	TAPE	ゾーンＡのファンクションをTAPEに切り替え
	CD	ゾーンＡのファンクションをCD/Rに切り替え
	TUNER	ゾーンＡのファンクションをTUNERに切り替え
	NETWORK	ゾーンＡのファンクションをNETWORKに切り替え
4	ZONE-A	
	AM　FM	（左）ゾーンＡのチューナーでAMを選択*
		（右）ゾーンＡのチューナーでFMを選択*
	XM　SR	（この機能は日本仕様モデルでは使用しません。）
	P-SCAN	ゾーンＡのチューナーでプリセットスキャンを開始
	-PRESET+	ゾーンＡのチューナーでプリセット局の切り替え*
	- TUNE +	ゾーンＡのチューナーで受信周波数の上げ下げ*
5	ZONE-A	
	ALL-M　RND	（左）All Songsに移動します*
		（右）ランダム再生*
	ALL-P　RPT	（左）All Photoに移動します*
		（右）リピート再生*
	ALL-V　RES	（左）All Videoに移動します*
		（右）解像度を切り替えます*
	- PAGE +	ページを移動します*
	◀◀ / ▶▶	（左）早戻し*
		（右）早送り*

ZONE-Bモード

SOURCE ON/OFF	ゾーンBのオン/オフ
POWER ON	ゾーンBのオン
POWER OFF	ゾーンBのオフ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンをHOMEモードに切り替えます
< / >	リモコンのページを切り替えます
INFO	OSDの表示
カーソル	カーソルの移動などに使います
ENTER	選択した項目を決定します
EXIT	前画面に戻る時などに使います
MUTE	ゾーンBの音声をミュートします
VOL + / -	ゾーンBの音量調節
▶	再生
I◀◀ / ▶▶I	トラックの移動
■	停止
II	一時停止

ご注意

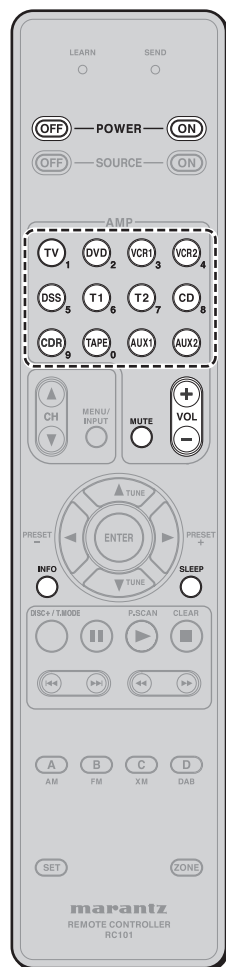
ソフトボタンのの005ページ及び▶、I◀◀、▶▶I、■、IIボタンは、NETWORKファンクションのみで使用します。

ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	ZONE-B	
	Z.SPK-ON	ゾーンスピーカーBをオンします
	Z.SPK-OFF	ゾーンスピーカーBをオフします
	ON/OFF	ゾーンスピーカーBをオン/オフします
	- SPK VOL +	ゾーンスピーカーBの音量調節*
	SPK MUTE	ゾーンスピーカーBのミュート
2	ZONE-B	
	DVD	ゾーンBのファンクションをDVDに切り替え
	TV	ゾーンBのファンクションをTVに切り替え
	VCR1	ゾーンBのファンクションをVCR1に切り替え
	DSS	ゾーンBのファンクションをDSSに切り替え
	AUX	ゾーンBのファンクションをAUXに切り替え
3	ZONE-B	
	TAPE	ゾーンBのファンクションをTAPEに切り替え
	CD	ゾーンBのファンクションをCD/Rに切り替え
	TUNER	ゾーンBのファンクションをTUNERに切り替え
	NETWORK	ゾーンBのファンクションをNETWORKに切り替え
4	ZONE-B	
	AM　FM	(左)ゾーンBのチューナーでAMを選択*
		(右)ゾーンBのチューナーでFMを選択*
	XM　SR	(この機能は日本仕様モデルでは使用しません。)
	P-SCAN	ゾーンBのチューナーでプリセットスキャンを開始
	-PRESET+	ゾーンBのチューナーでプリセット局の切り替え*
	- TUNE +	ゾーンBのチューナーで受信周波数の上げ下げ*
5	ZONE-B	
	RANDOM	ランダム再生
	REPEAT	リピート再生
	ALL MUSIC	All Songsに移動します
	◀◀ / ▶▶	(左)早戻し*
		(右)早送り*

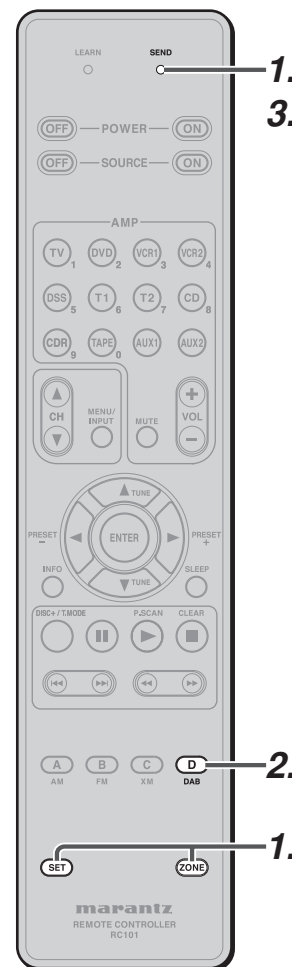
リモコン（RC101）で本機を操作する

付属リモコンRC101の初期設定はマルチゾーン用のリモコンです。
（マルチゾーンについての説明は、30、57ページを参照してください。）

AMPモード（本機の操作）

ゾーンAモード：ゾーンAの操作
ゾーンBモード：ゾーンBの操作
ゾーンCモード：本機ではこのゾーンは使用しません。

POWER ON OFF	選択されているゾーン（A/B/C）のゾーン機能のオン/オフ
SOURCE	選択されているゾーン（A/B/C）の入力ソースを切り替える
VOL＋/－	選択されているゾーン（A/B/C）の音量を調節する
MUTE	選択されているゾーン（A/B/C）の音声をミュート（消音）する
SLEEP	選択されているゾーン（A/B/C）のスリープタイマーを設定する
INFO	選択されているゾーン（A/B/C）のOSD表示のオン/オフを切り替える

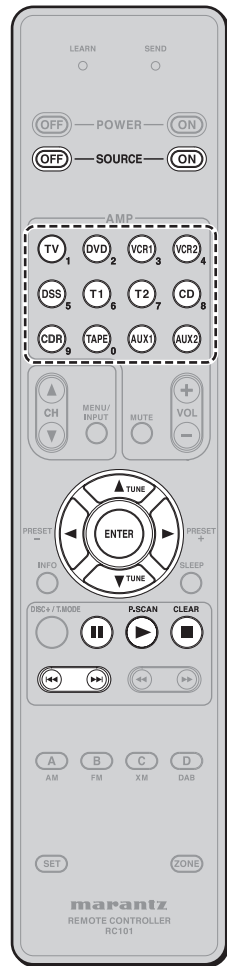
ゾーンDモード：メインゾーンの操作

POWER ON OFF	メインゾーンでの本機の電源のオン/オフ
SOURCE	メインゾーンの入力ソースを切り替える
VOL＋/－	メインゾーンの音量を調節する。
MUTE	メインゾーンの音声をミュート（消音）する
SLEEP	メインゾーンのスリープタイマーを設定する
INFO	メインゾーンでのOSD表示のオン/オフを切り替える

さらに、RC101をマルチゾーン用としてではなく、メインゾーン用の簡易リモコンとしてご利用になることもできます。その場合、RC101を下記の手順に従って、ゾーンDモード（メインゾーン）に設定してください。

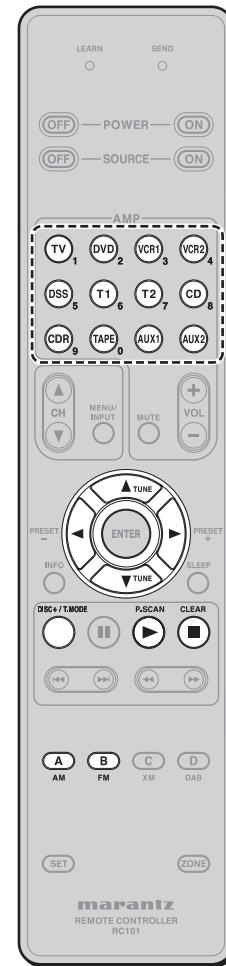
1. *SET*ボタンと*ZONE*ボタンを送信表示（SEND）が2回点滅するまで同時に長押しします。
2. ゾーンボタンDを押します。
3. 設定が完了すると送信表示（SEND）が2回点滅します。

設定後の操作可能ボタンはページの左側を参照してください。

AUX2（NETWORKモード）

RC101にはNETWORKのコードはプリセットされていません。

SOURCE OFF	前画面に戻る
SOURCE ON	画面の解像度を変更
MENU/INPUT	-
CH▲/▼	-
ENTER	項目の選択
▲(カーソル)	項目の移動
▼(カーソル)	
▶(カーソル)	
◀(カーソル)	
▶	再生
■	停止
❚❚	一時停止
▶▶❘	次のファイルへ移動
❘◀◀	前のファイルへ移動
▶▶	—
◀◀	—
DISC+/T.MODE	—
A	学習モードで学習が可能
B	
C	
D	

TUNERモード

RC101にはチューナーのリモコンコードはプリセットされていません。

SOURCE ON OFF	チューナーの電源オン/スタンバイ
MENU/INPUT	—
CH▲/▼	—
ENTER	—
▲(カーソル)	周波数を上げる
▼(カーソル)	周波数を下げる
▶(カーソル)	プリセット局の選択
◀(カーソル)	
▶	プリセットスキャンの開始
■	プリセットスキャンの停止
❚❚	—
▶▶❘	—
❘◀◀	—
▶▶	—
◀◀	—
DISC+/T.MODE	オートステレオモードとモノモードの切り替え
A	AMバンドの選択
B	FMバンドの選択
C	学習モードで学習が可能
D	

応用接続

マルチチャンネルオーディオ機器との接続

7.1CH 音声入力端子は、スーパーオーディオCDマルチチャンネルプレーヤー、DVDオーディオプレーヤーまたは外付けのデコーダーのようなマルチチャンネルオーディオソース用の端子です。
これらの端子を使用する場合には、7.1 CH INPUTに切替え、セットアップメニューを使用して、7.1 CH入力レベルを設定してください。

ネットワーク機器との接続

図のようにルータやハブ等のネットワーク機器と接続することによって、ネットワーク機器にある音楽、画像、動画ファイルを再生することができます。
接続する際、本機のNETWORK端子とのネットワーク機器をLANケーブルで接続します。
ネットワークを使うための設定、操作方法は別冊の取扱説明書のNETWORK編をご覧ください。

ご注意

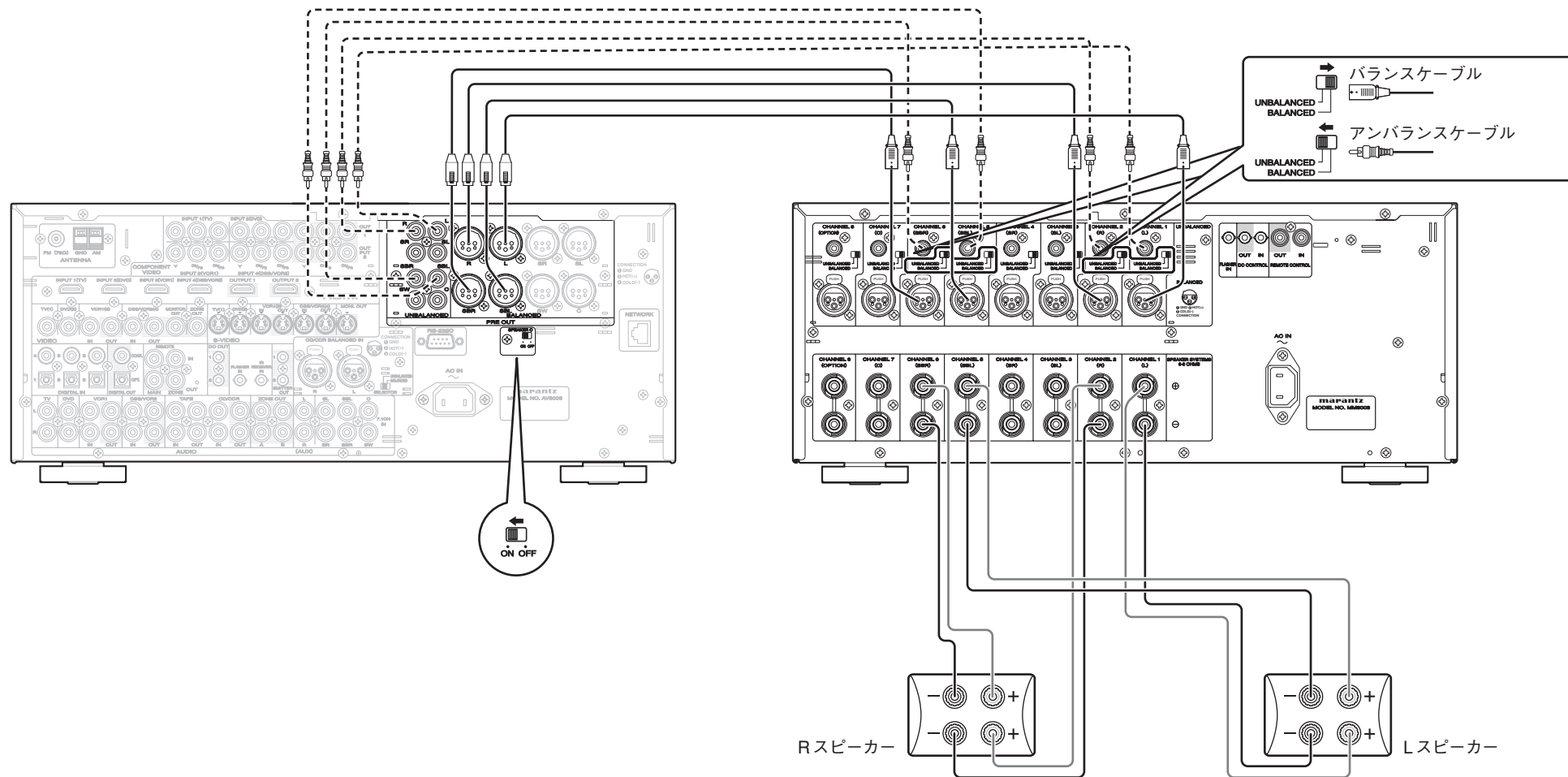
- 本機のネットワーク端子は10BASE-T/100BASE-TXに対応しています。スムーズな再生のために100BASE-TX接続を行なってください。
- LANケーブルは ストレートタイプ カテゴリ5以上をご使用ください。
- LAN端子が不足している場合はルーターに市販のハブを増設してください。
- ネットワーク機器とは以下の機器をいいます。
  - DLNAサーバー機能内蔵ハードディスク(LAN接続型)
  - DLNA対応HDDレコーダー、オーディオシステム
  - 以下のいずれかのサーバーソフトウェアがインストールされたパソコンを使用することもできます。
    - Windows Media Player 11
    - DLNA対応サーバーソフトウェア

バイアンプ接続

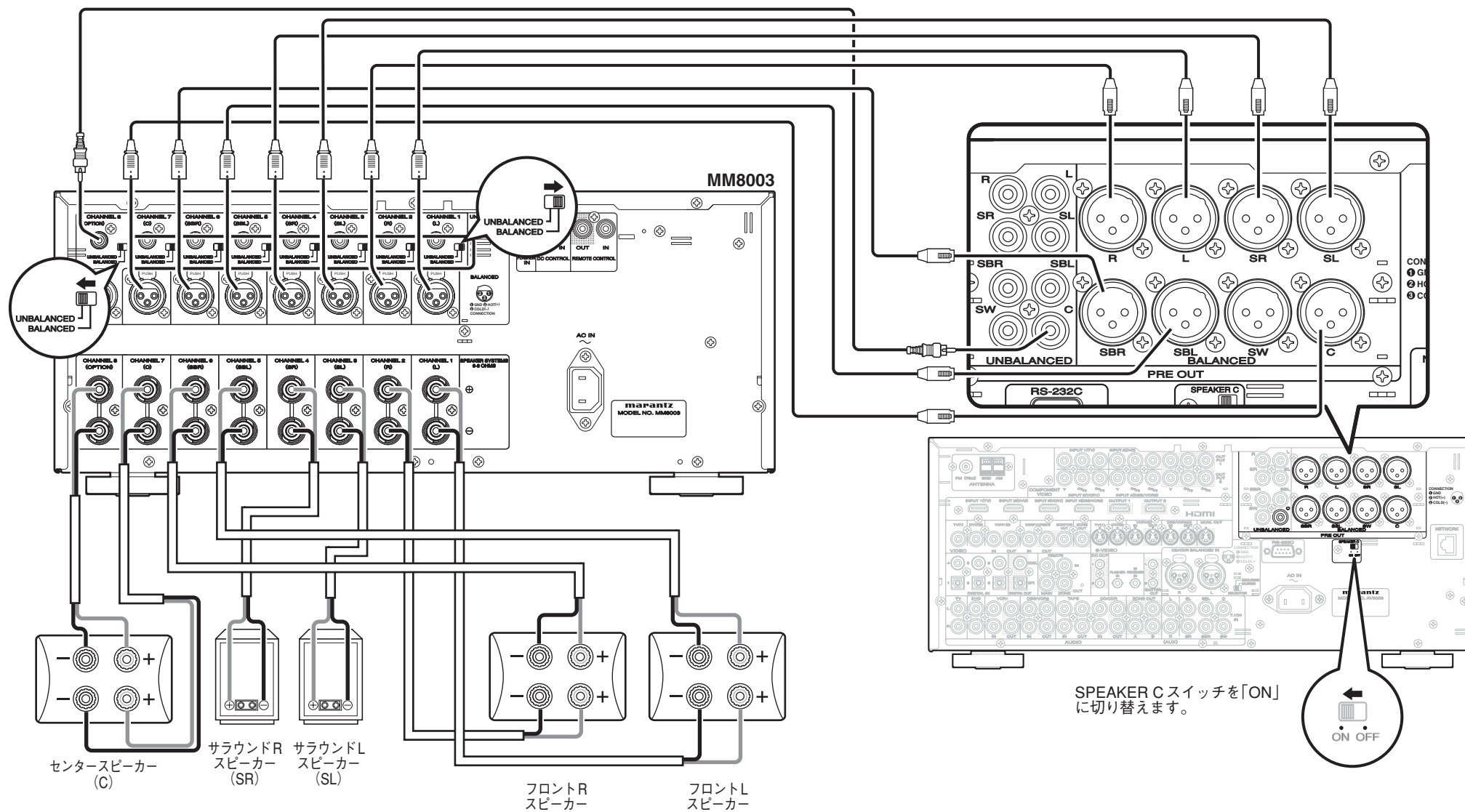
2組の入力（高音用 & 低音用）があるスピーカーに、バイアンプ接続ができます。
これは低音用と高音用のユニットを別々のチャンネルのアンプでドライブできることを意味しています。
従来のAVアンプでは難しかった低能率のスピーカーもバイアンプドライブで、より高音質が楽しめます。

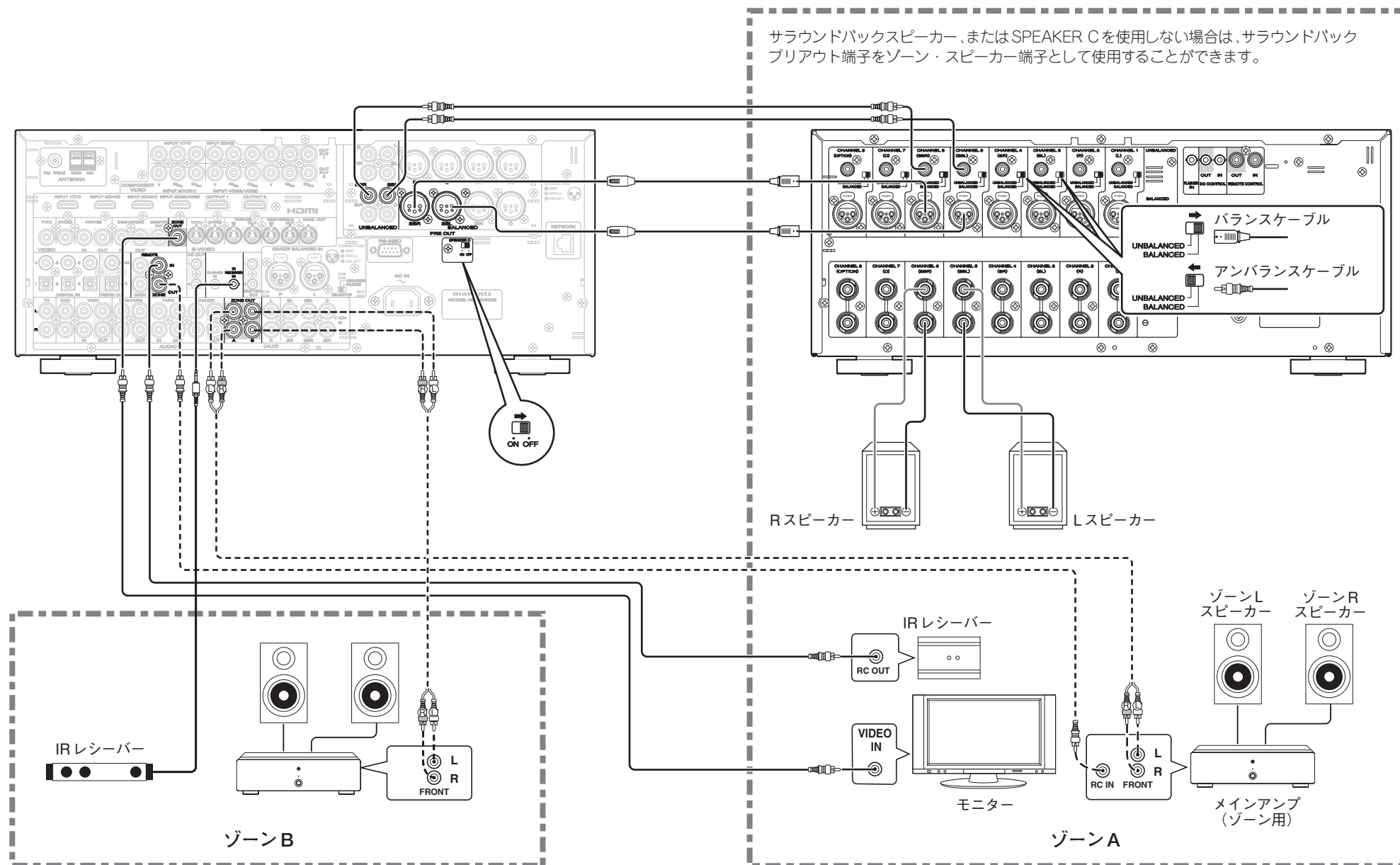
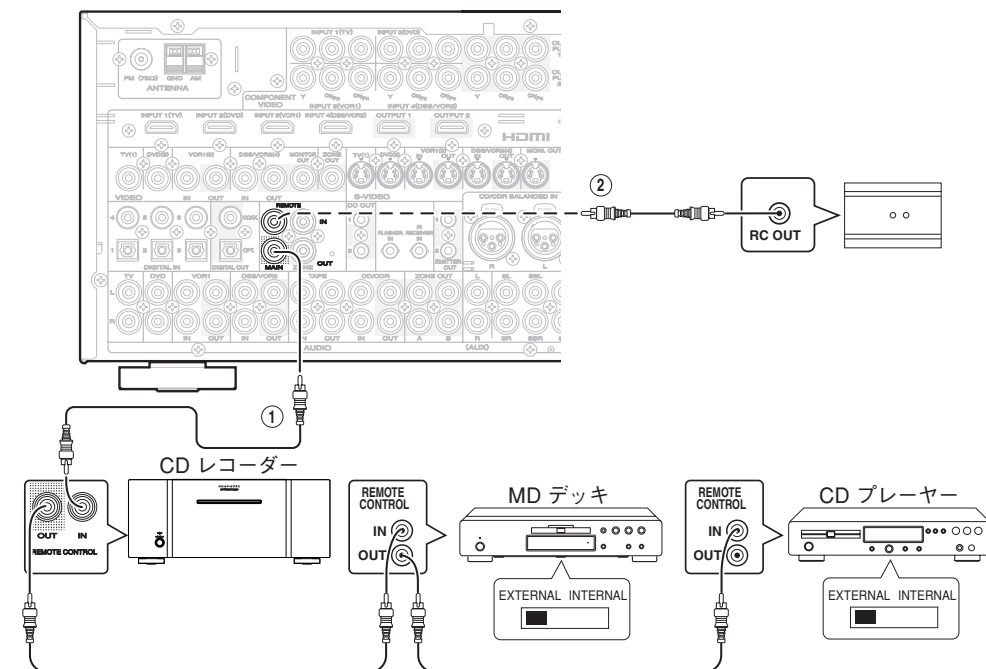
接続は図を参照してください。リアパネルのSPEAKER C切り替えスイッチをONにします。

ご注意

• SPEAKER Cセレクタースイッチの設定を変える前に本機の電源を切ってください。なお、SL、SR、C、SWの接続については12ページを参照してください。

L、C、Rバイアンプ接続方法

MM8003を組み合わせ図のような接続を行うと，L，Rスピーカーに加え，Cスピーカーもバイアンプ接続を行うことが可能です。

SPEAKER Cスイッチを「ON」
に切り替えます。

マルチゾーン接続

図のようにマランツ製などのアンプと組み合せることによって別室にて本機に接続された再生機器を使って音楽や映画鑑賞をすることができます。

リモートコントロール接続

①

- 他のマランツAV製品とリモートコントロール端子を接続することにより、付属のリモコンでホームシアターシステムを集中コントロールできます。
- リモコン操作は本機に向けて行なってください。リモコンから送信された赤外線の信号は、本機のリモートコントロール受光部で受光され、リモートコントロール端子を通して他の機器に送られます。
- このリモートコントロール接続を行う場合、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチは、EXT. に設定してください。
- MM8003と組み合わせてリモートコントロール接続を行うためには、P.AMP LINKの設定をENABLEに、その他のマランツ製パワーアンプとリモートコントロール接続を行うためにはDISABLEに設定してください。（46ページ参照）

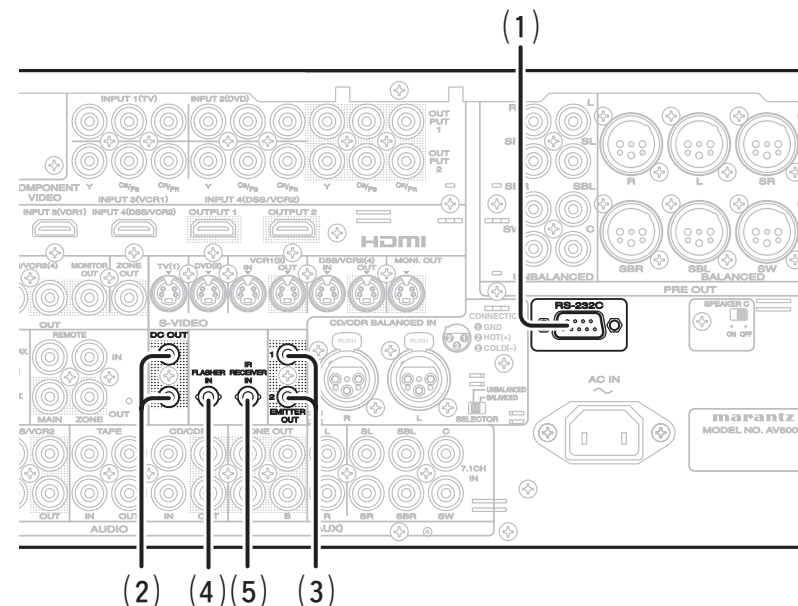
②

本機のRC-5 IN端子に外付け赤外受光部などを接続して操作する場合、必ず以下の手順に従って本機の赤外受光部の動作を無効にしてください。

1. **フロントパネルの*ZONE*ボタンと*MENU*ボタンを同時に5秒間押し続けます。**
   本機表示部に「IR=ENABLE」と表示されます。
2. **フロントパネルのカーソルボタン（◀または▶）を押します。**
   「IR=DISABLE」に変わります。
3. **フロントパネルの*ENTER*ボタンを押します。**
   本機の赤外受光部の動作は無効となり、リモコンでの操作ができなくなります。
4. **元の設定に戻すには、手順*1.*から*3.*を行い「IR=ENABLE」に設定します。**

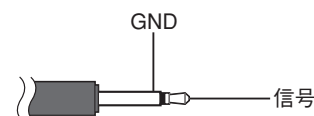
ご注意

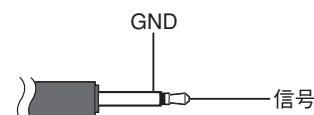
- 外付け赤外受光部などが接続されていない場合は、必ず「IR=ENABLE」に設定してください。「IR=DISABLE」に設定されていると、リモコンでの操作ができません。

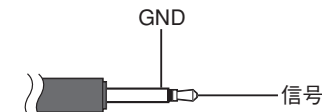
その他

(1) RS232C

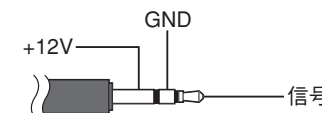
外部コントロール機器と接続します。（接続の際はストレートケーブルを用います。また、メンテナンス用にも用います。）

(2) DC OUT（DC トリガー）

DC TRIGGER 出力（12V）を外部機器と接続することによって外部機器をコントロールします。
出力電流は最大44mAです。

(3) EMITTER OUT

IR RECEIVER IN 端子に入力されたリモコン信号が出力されます。
EMITTER OUT 端子と接続することによって外部機器をコントロールできます。

(4) FLASHER IN

コントロールBOX等を接続することにより本機をコントロールできます。

（5） IR RECEIVER IN

外部のIR受信機と接続することにより、本機内蔵のリモコン受光器を使用せずにリモコンで本機をコントロールすることができます。

上記のように配線されたIR受信機と接続できます。

ご注意

- 異なる接続および異なる使用電圧電流のIR受信機と接続すると故障する恐れがありますので、絶対に接続しないでください。
- 外部IR受信機に供給できる最大電流は50mAです。

システムセットアップ

すべての機器の接続が終了した後、OSDメニューシステムを用いて各種設定を行なってください。

オンスクリーン・ディスプレイ・メニューシステム（OSDメニューシステム）

本機にはOSDメニューシステムが搭載されています。このシステムを、リモコンまたはフロントパネルの**カーソル**ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶と***ENTER***ボタンを用いて様々な設定を行います。

ご注意

- 「システムセットアップ」は全てOSDメニューを見ながら設定をします。OSDメニューシステムを見るためには、お手持ちのTVまたはプロジェクターのビデオ入力を本機のリアパネルのMONITOR OUT端子に接続してください。（14ページ参照）

1. **リモコンの*HOME*ボタンを押します。（本機でセットアップメニューを操作する場合は、この操作をする必要はありません。）**

2. **リモコンの*MENU*ボタンまたはフロントパネルの*MENU*ボタンを押します。**

3. **モニターにOSDメニューシステムの「MAIN MENU」が表示されます。**
MAIN MENUには7つの設定項目があります。
（設定項目については33ページ参照）

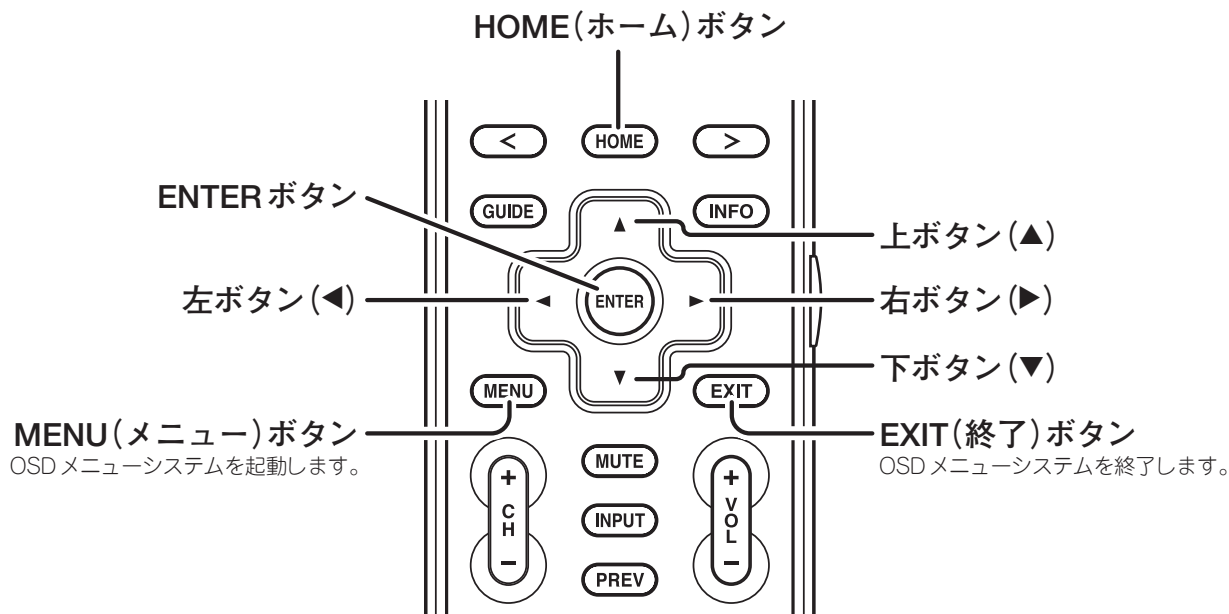
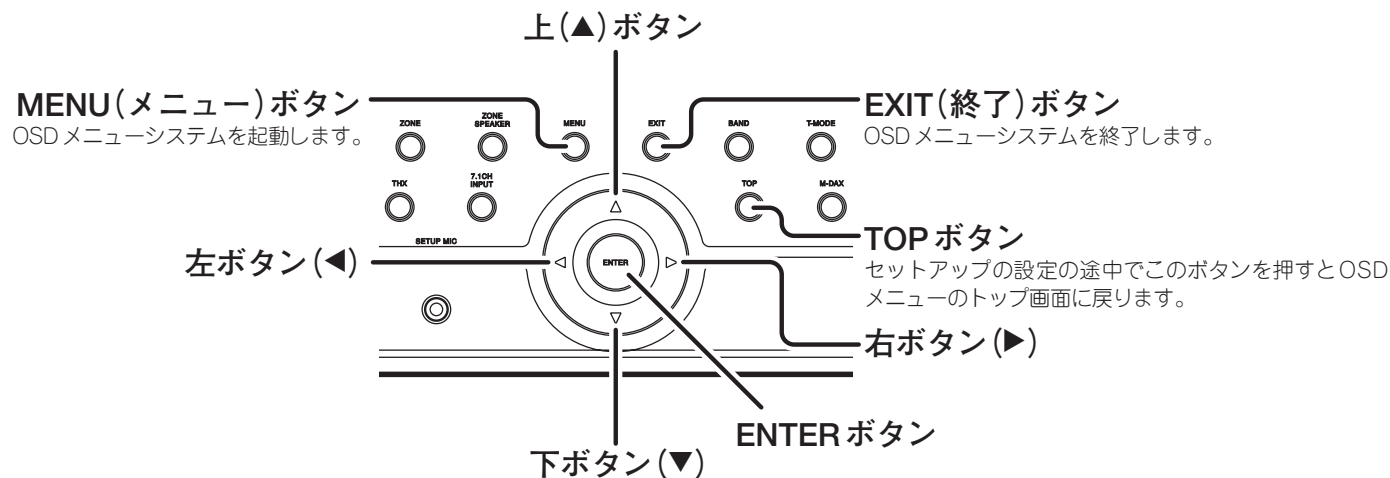
4. **カーソルボタン▲/▼で希望するサブメニューを選択し、*ENTER*ボタンを押します。選択したサブメニューが表示されます。**

アドバイス

- 本機には設定した項目を安易に変更できなくするために、 LOCK機能があります。
  サブメニューを変更する場合は、変更したいサブメニューを「UNLOCK」に設定してください。
- LOCKEDは、MAIN MENU1 ～ 7の各項目ごとに設定することができます。

＜LOCKEDの設定手順＞

（1）　MAIN MENUを表示させて設定したい項目を**カーソル**ボタン▲ / ▼で選択します。
（2）　**カーソル**ボタン◀ / ▶を押して、「LOCKED」の左側に「●」マークを移動させます。
（3）　全ての項目に対して設定が終わったら、**カーソル**ボタン▲ / ▼でカーソルを「EXIT」に移動させて***ENTER***ボタンを押して設定を終了します。

RC2001ボタン・レイアウト

本機 フロントボタン・レイアウト

アドバイス

- サブメニューの設定が終了した後、カーソルボタン▲/▼/◀/▶でカーソルを「RETURN」に移動し、ENTERボタンを押してメインメニューに戻ります。
- 他のサブメニューへ進むには、一旦メインメニューに戻るか、もしくはEXITで終了させ、再度OSDメニューシステムを起動させてください。
- 本機のTOPボタンを押すと、セットアップの設定の途中でメインメニューのトップ画面に戻ります。

"1. INPUT SETUP"（P. 34）

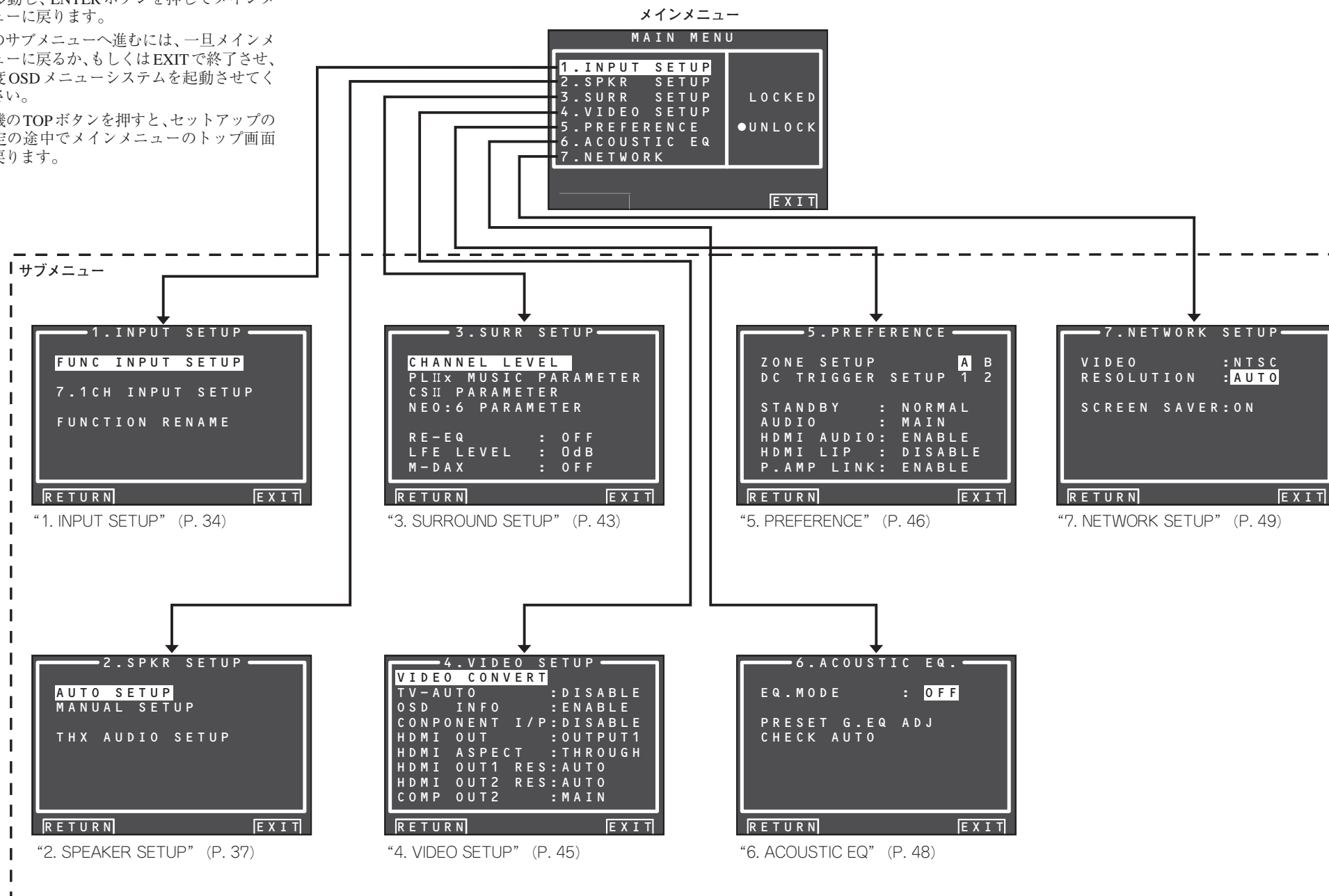
"3. SURROUND SETUP"（P. 43）

"5. PREFERENCE"（P. 46）

"7. NETWORK SETUP"（P. 49）

"2. SPEAKER SETUP"（P. 37）

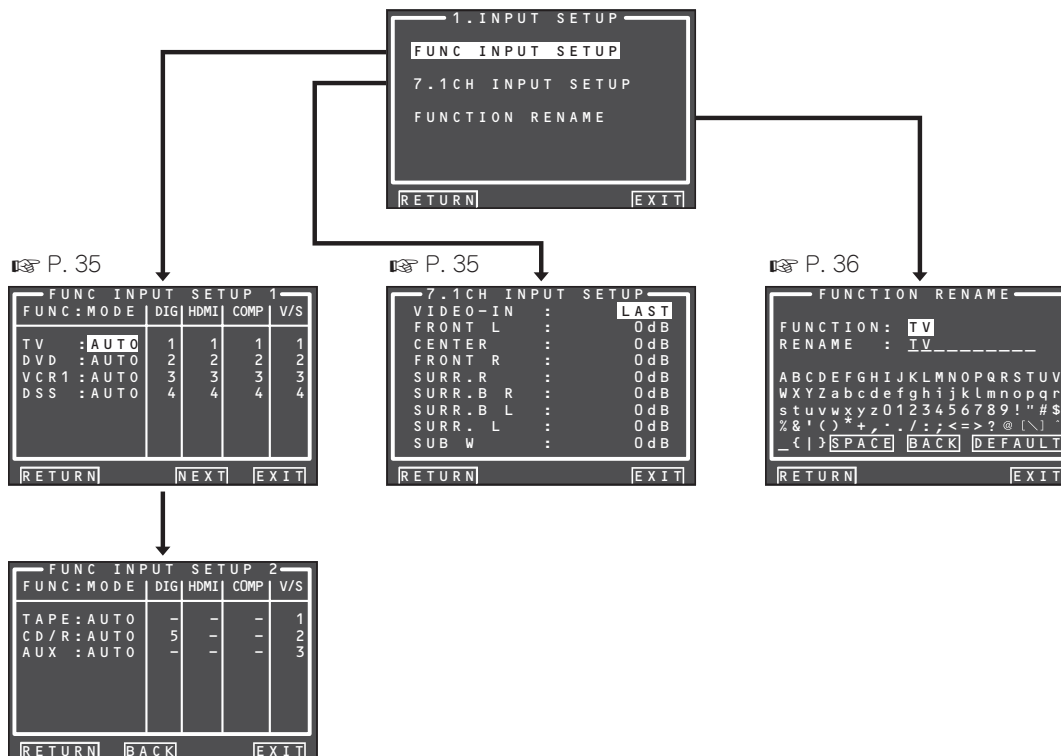
"4. VIDEO SETUP"（P. 45）

"6. ACOUSTIC EQ"（P. 48）

1 INPUT SETUP

接続するオーディオ／ビデオ機器の出力と本機の各入力端子の関係を設定します。

- **FUNC INPUT SETUP :**
  「1-1 FUNC INPUT SETUP」(35 ページ参照)
- **7.1 CH INPUT SETUP :**
  「1-2 7.1 CH INPUT SETUP」(35 ページ参照)
- **FUNCTION RENAME :**
  「1-3 FUNCTION RENAME」(36 ページ参照)

1. MAIN MENU からカーソルボタン▲ / ▼で「1. INPUT SETUP」を選択し、 *ENTER* ボタンを押します。

2. カーソルボタン▲ / ▼で設定するサブメニューを選択し、*ENTER* ボタンを押します。

1-1 FUNCTION INPUT SETUP

FUNCTION INPUT SETUPの設定では、本機のリアパネル上のDigital入力（DIG）、HDMI入力（HDMI）、コンポーネントビデオ入力（COMP）、ビデオ/S-ビデオ入力（V/S）の各入力端子を本機の各FUNCTIONに自由に割り当てることができます。
またFUNCTIONのMODE設定では、各入力に対して優先順位を設定することができます。

1. **1. INPUT SETUPメニューから*カーソルボタン*▲/▼で「FUNC INPUT SETUP」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。**

FUNC INPUT SETUP 1

FUNC:MODE	DIG	HDMI	COMP	V/S
TV :AUTO	1	1	1	1
DVD :AUTO	2	2	2	2
VCR1 :AUTO	3	3	3	3
DSS :AUTO	4	4	4	4

RETURN　NEXT　EXIT

2. **カーソルボタン▲/▼/◀/▶で変更したい設定項目を選択します。**

MODE（モード）

AUTO:
入力信号を自動的に検出する場合は「**AUTO**」を選択します。
HDMI入力→デジタル入力→アナログ入力の順番に入力信号の検出が行われます。
初期設定はAUTOに設定されています。

HDMI:
HDMI信号のみを使用する場合は「**HDMI**」を選択します。

DIG:
デジタル信号のみを使用する場合は「**DIG**」を選択します。

ANA:
アナログ信号のみを使用する場合は「**ANA**」を選択します。

DIG
希望するファンクションに1〜6までのデジタル入力を割り当てることができます。
デジタル入力端子の番号を割り当てます。

HDMI
HDMI入力端子1〜4の番号を割り当てます。

COMP
コンポーネントビデオ入力端子の番号1〜4を割り当てます。

V/S
ビデオおよびS-ビデオの入力端子1〜4を割り当てます。

3. ***ENTER*ボタンを押します。**

4. ***カーソルボタン*◀/▶でそれぞれのモード設定と入力端子を選択します。**

5. ***ENTER*ボタンを押します。**

6. **手順*2.*から*5.*までを繰り返して、各項目を設定します。**

7. **各設定が終了したとき、*カーソルボタン*▲/▼/◀/▶でカーソルを「NEXT」に移動し、*ENTER*ボタンを押して次のページに進みます。（FUNC INPUT SETUP 2）**

FUNC INPUT SETUP 2

FUNC:MODE	DIG	HDMI	COMP	V/S
TAPE:AUTO	–	–	–	1
CD/R:AUTO	5	–	–	2
AUX :AUTO	–	–	–	3

RETURN　BACK　EXIT

8. **手順*2.*から*5.*までを繰り返して、各項目を設定します。各設定が終了したとき、*カーソルボタン*▲/▼/◀/▶でカーソルを「RETURN」に移動し、*ENTER*ボタンを押します。**

FUNC INPUT SETUP 2からFUNC INPUT SETUP 1に戻るときは▲/▼/◀/▶でBACKを選び、*ENTER*ボタンを押します。

ご注意
- 割当の番号はリアパネルの入力端子番号です。番号をよく確認してください。
- 音声や映像が出力されない場合、入力端子番号を再確認してください。

1-2 7.1 CH INPUT SETUP

ここでは、7.1ch 入力ソース（7.1 CH IN端子）のスピーカーレベルなどを設定します。
リスナーがすべてのスピーカーを同じレベルで聴けるように各スピーカーの音量を設定します。

1. **1. INPUT SETUPメニューから *カーソルボタン*▲/▼で「7.1 CH INPUT SETUP」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。**

2. ***カーソルボタン*▲/▼で「VIDEO IN」を選択します。**

3. ***カーソルボタン*◀/▶で、MONITOR OUT 端子から再生する映像入力ソースを選択します。**
入力ソースはカーソルボタン◀/▶で次の順で切り替えることができます。

LAST ↔ TV ↔ DVD ↔ VCR1 ↔ DSS ↔ NET ↔ TAPE ↔ CD/R ↔ AUX ↔ V-OFF ↔ LAST ↔ ...

ご注意
- 「LAST」を選択すると、7.1 ch入力モードが設定される前に選択されていたビデオソースが出力されます。
- 「V-OFF」を選択すると、MONITOR OUT端子から映像は出力されません。（OSDメニューは出力されます）。

4. ***カーソルボタン*▲/▼で音量を調整したいチャンネルを選択します。**

5. ***カーソルボタン*◀/▶で各チャンネルの音量を調整します。（各スピーカーからの音量を同一にします。）**

6. ***カーソルボタン*▲/▼/◀/▶でカーソルを「RETURN」に移動し、*ENTER*ボタンを押して1. INPUT SETUPメニューに戻ります。**
7.1CH INPUT SETUP 2から7.1CH INPUT SETUP 1に戻るときは、▲/▼/◀/▶で「BACK」を選び、*ENTER*ボタンを押します。

ご注意
- 各スピーカーのレベルは−12〜＋12dBの1dBステップで、SUB Wは−18〜＋12dBの1dBステップで設定できます。

1-3 FUNCTION RENAME

入力ファンクション名を任意の名前に変えることができます。
登録可能な最大文字数はスペースも含め10文字までです。（文字はこのOSDメニューシステムに表示される文字から選びます）登録したファンクション名は本機表示部とOSDインフォメーションに表示されます。
ただし、OSDメニューシステム内の項目には反映されません。

1. **1. INPUT SETUPメニューから、*カーソルボタン*▲ / ▼で「FUNCTION RENAME」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。**

2. ***カーソルボタン*▲ / ▼で「FUNCTION」部を選択します。**

3. ***カーソルボタン*◀ / ▶で入力ソースを選択します。**

4. ***カーソルボタン*▲ / ▼で「RENAME」部を選択します。**

5. ***カーソルボタン*◀ / ▶で変更する位置へ移動します。（1文字目から10文字目の間）**

6. ***カーソルボタン*▼でキャラクタ部「A」に移動します。（必ず最初は「A」に移動します。）**

7. ***カーソルボタン*▲ / ▼ / ◀ / ▶でキャラクタを選択します。**

8. ***ENTER*ボタンを押して確定します。**

9. **手順*5.*から*8.*までを繰り返して、名前を入力します。**

BACK:
RENAME部の現在の位置を左にBACKして1文字を消します。

DEFAULT:
RENAME部の名前をファンクション部の名前と同じにもどします。

SPACE:
RENAME部の現在の位置を空白にします。

10. ***カーソルボタン*▲ / ▼ / ◀ / ▶で「RETURN」に移動し、*ENTER*ボタンを押して 1. INPUT SETUPメニューに戻ります。**

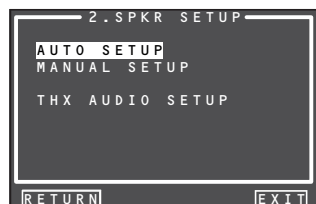
ご注意

- 全てのリネーム文字をスペース（空白）にすることはできません。

2 SPKR（スピーカー）SETUP

本機を設置し、機器をすべて接続し、スピーカーの配置を決定したら、次にSPKR SETUP メニューで室内環境とスピーカー配置に最適な値を設定します。

- **AUTO SETUP:**
  「2-1 AUTO SETUP」（38ページ参照）
- **MANUAL SETUP:**
  「2-2 MANUAL SETUP」（41ページ参照）
- **THX AUDIO SETUP:**
  「2-3 THX AUDIO SETUP」（42ページ参照）

1. MAIN MENUからカーソルボタン▲ / ▼で「2.SPKR SETUP」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。

2. カーソルボタン▲ / ▼で設定したいメニューを選択して*ENTER*ボタンを押します。

3. 各設定が終了した後、カーソルボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶で「RETURN」を選択し、*ENTER*ボタンを押してサブメニュー（2. SPKR SETUP）に戻ります。

```
2.SPKR SETUP
AUTO SETUP
MANUAL SETUP

THX AUDIO SETUP
RETURN                EXIT
```

☞ P. 38

```
AUTO SETUP
AUTO SETUP: START

MAIN ZONE
 SURR BACK:    2CH
RETURN                EXIT
```

```
AUTO SETUP
SPEAKERS CHECK:--
1st MIC POSITION
 NOW ANALYZING !!

      CANCEL
                      EXIT
```

```
AUTO SETUP
SPEAKERS CHECK:OK

2nd MIC POSITION!!
      START
      CHECK
      CALCULATE
                      EXIT
```

```
AUTO SETUP

NOW ANALYZING!!

    CANCEL
```

```
AUTO SETUP
████--------------
NOW CALCULATING!
```

```
CHECK RESULT
SPEAKERS CONFIG
SPEAKERS SIZE
DISTANCE
CHANNEL LEVEL
CROSSOVER FREQ

STORE
                      EXIT
```

☞ P. 41

```
SPEAKER SIZE
THX SPKR     : YES
SUB W        : YES
FRONT        : SMALL
CENTER       : SMALL
SURR.        : SMALL
SURR.B       : 2CH
SURR.B SIZE  : SMALL
LPF/HPF      : 80Hz
BASS MIX     : MIX
RETURN          NEXT  EXIT
```

```
SPEAKER DISTANCE
UNIT       :    m
FRONT L    :  3.05 m
CENTER     :  3.05 m
FRONT R    :  3.05 m
SURR.R     :  3.05 m
SURR.B R   :  3.05 m
SURR.B L   :  3.05 m
SURR.L     :  3.05 m
SUB W      :  3.05 m
RETURN  BACK  NEXT  EXIT
```

```
SPEAKER LEVEL
TEST MODE  : MANUAL
FRONT L    :  0.0dB
CENTER     :  0.0dB
FRONT R    :  0.0dB
SURR.R     :  0.0dB
SURR.B R   :  0.0dB
SURR.B L   :  0.0dB
SURR.L     :  0.0dB
SUB W      :  0.0dB
RETURN  BACK        EXIT
```

☞ P. 42

```
THX AUDIO SETUP
BOUNDARY GAIN COMP.
THX ULTRA2 SUB-W:YES
B.G.C.          :ON

ADVANCED SPKR ARRAY
SURR.B SPKR
           :APART
RETURN                EXIT
```

2-1 AUTO SETUP（Audyssey MultEQ®）

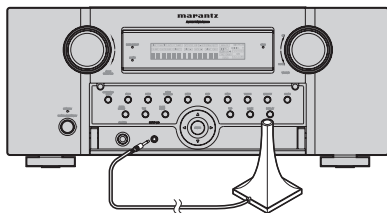
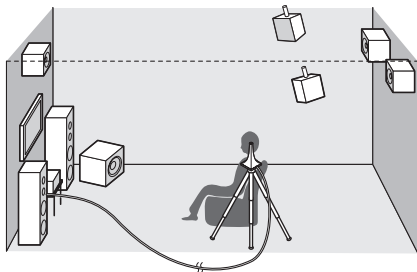
Audyssey MultEQによるオートセットアップでは、リスニング環境の音響上の問題が自動測定され、最良の音響体験を生み出す設定に最適化されます。

Audyssey MultEQは、スピーカーから出力される音の影響によって発生する室内における周波数特性の不調和を除去します。これにより、カラレーションが発生することなく、特定の位置だけでなく広いリスニングエリア全体で、意図したとおりの音質が再生されます。
Audyssey MultEQでは、室内の最大6ヶ所のリスニングポイントを測定し、スピーカーの有無を検出して、スピーカーサイズ、チャンネルレベル、距離、および最適なクロスオーバー周波数設定を自動計算します。

オートセットアップの操作のしかた

測定中はOSDメニュー画面に現在の状態が表示されるのでモニター機器の電源を入れてください。

1. **本機とMM8003等のパワーアンプ、スピーカーを接続し、スピーカーを適切な位置に配置します。**

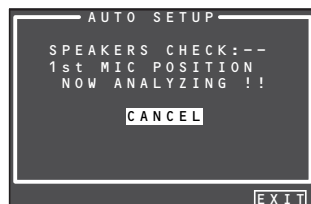
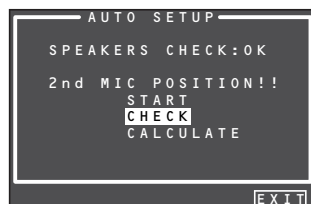
2. **付属のマイクを本機のMICジャックに接続します。**

3. **マイクをメインリスニングポイントに設置します。**

ご注意

- 測定はメインリスニングポイントの近くで、最大6ヶ所で行います。
  最初の測定はメインリスニングポイントにマイクを設置して測定を行ってください。
- 測定するすべてのリスニングポイントに対して、マイクを天井にまっすぐ向けた状態で、スタンドや三脚を使用してマイクをリスニング時の耳の高さに合わせて設置してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物を置かないようにしてください。
- アンプ内蔵のサブウーファーを使用する場合はボリュームを中央に設定し、クロスオーバー周波数をオフまたは一番高い周波数に設定してください。
- 測定中は、マイクとスピーカーの間に立たないでください。室内はできるだけ静かにしてください。暗騒音が室内測定に影響を与える場合があります。窓を閉め、各種装置（携帯電話、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯、電化製品、調光器など）の電源を切ってください。
  測定時は、携帯電話をすべてのオーディオ電子機器から離れた場所に置いてください。携帯電話は、不使用時でも無線周波妨害（RFI）により測定に影響を与える場合があります。
  オートセットアップは、フロントパネルではなくリモコンで操作することをお勧めします。
- 各チャンネルから再生されるテストトーンの音量は、リスニング環境の周辺雑音を上回り、最適なS/N比が得られるまで大きくなります。

4. **MAIN MENUで「2.SPKR SETUP」を選択し、*カーソルボタン*▲/▼で「AUTO SETUP」を選択し、*ENTER*ボタン押してスタート画面を表示させます。**

5. **使用しているサラウンドバックスピーカーのチャンネル数を選択します。ご使用になられるスピーカーシステムの構成が5.1チャンネルの場合は「NONE」（サラウンドバックスピーカー無し）を選択します。**
SPEAKER Cまたは、ZONE SPEAKERをご使用の場合は「NONE」に設定します。（28、47ページ参照）

6. **カーソルボタン▲/▼で「START」を選択し、*ENTER*ボタンを押して測定を開始させます。**

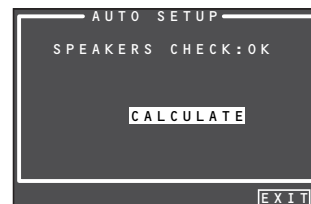
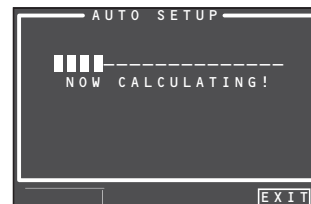
7. **メインリスニングポイントとは、リスニング環境内でリスナーが主に座る、最も重要なポイントです。MultEQでは、このポイントからの測定値を使用して、スピーカーの距離、チャンネルレベル、極性、およびサブウーファーの最適なクロスオーバー値を計算します。**

8. **1ポイント目のチェックが終わると次のようなOSD画面が表示がされます。**

ここでチェックの結果を見る場合は**カーソル**ボタン▲/▼で「CHECK」を選択し、***ENTER***ボタンを押してチェック結果を表示させます。

エラーメッセージが表示された場合はその項目について適切な処理を行ってから再測定をしてください。
（エラーメッセージは、「エラーメッセージについて」40ページを参照してください。）

チェック結果の確認が終わったら、**カーソル**ボタン▲/▼/◀/▶を押して「RETURN」を選択し、***ENTER***ボタンを押して下記のOSD画面に戻してください。
この時、「EXIT」を選択してオートセットアップを終了させ、「2. SPKR SETUP」に戻ることもできます。

9. **2ポイント目のリスニングポジションにマイクを移動させてからカーソルボタン▲/▼を押して「START」を選択し*ENTER*ボタン押して2ポイント目の測定を行います。**

この時に「CALCULATE」を選択して*ENTER*ボタンを押すと、2ポイント目の測定をキャンセルして測定結果の解析を行うことができます。

10. **8.と9.の操作を繰り返してメインポジションとその周囲をあわせて6ヶ所の測定を行います。**
全ての測定が終わると次のOSD画面が出力されます。

カーソルボタン▲/▼を押して「CALCULATE」を選択して***ENTER***ボタン押し測定結果の解析を行います。
解析中は次のようなOSD画面が表示されます。

ご注意

- 解析時間は接続されているスピーカーの数と測定ポイントに依存して、スピーカー数、ポイント数ともに、多くなると解析に要する時間も長くなります。
- 測定ポイント数が6ヶ所以下でも測定を終了することはできます。

11. 測定結果の確認

測定結果の解析が終了すると、解析結果の確認画面が表示されます

カーソルボタン▲ / ▼を押して確認したい項目を選択して、***ENTER***ボタン押して決定します。

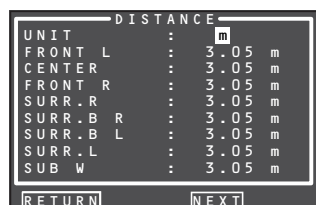
ご注意

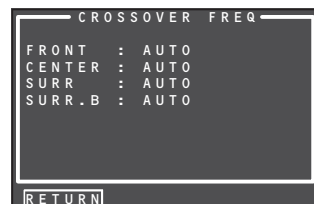
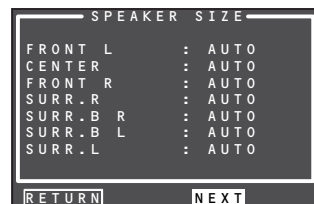
- イコライザー (MultEQ) のパラメーターの確認については49ページをご覧ください。

［例］ スピーカーの有り無しの確認画面

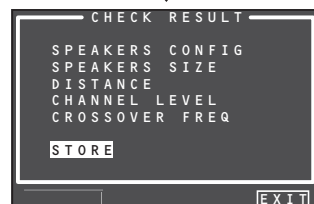
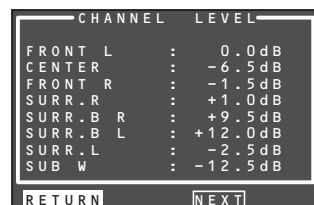
```
SPEAKER CONFIG
CHECK !!    SPEAKER
FRONT     : YES
CENTER    : NON
FRONT R   : YES
SURR.R    : YES
SURR.B R  : NON
SURR.B L  : NON
SURR.L    : YES
SUB W     : YES
RETURN        NEXT
```

［例］ スピーカーからリスニングポジションまでの距離の確認画面

```
DISTANCE
UNIT      :   m
FRONT L   :  3.05 m
CENTER    :  3.05 m
FRONT R   :  3.05 m
SURR.R    :  3.05 m
SURR.B R  :  3.05 m
SURR.B L  :  3.05 m
SURR.L    :  3.05 m
SUB W     :  3.05 m
RETURN        NEXT
```

- UNITの「m」にカーソルをあわせて**カーソル**ボタンの◀ / ▶を押す毎に距離の単位［m］メートルと［ft］フィートを切り替えることができます。
- スピーカーとマイクの距離が9.15mを超えた場合、>9.15mと表示されます。

［例］ スピーカーサイズとクロスオーバー周波数の確認画面

- スピーカーサイズとクロスオーバー周波数は自動測定の結果であることを表すために、AUTOと表示されます。

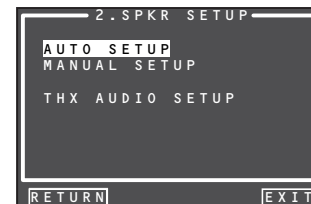
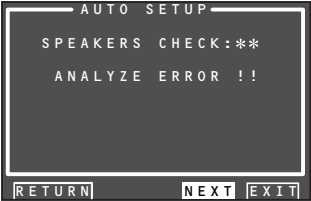
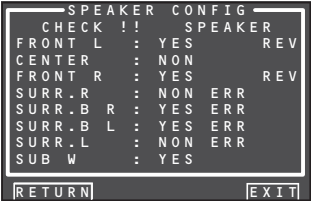
12. 測定結果のメモリー

解析結果の確認終了したら、カーソルボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶を押してカーソルを「RETURN」に合わせて*ENTER*ボタン押し、「CHECK RESULT」の画面を表示させます。

13. カーソルを「STORE」に合わせて*ENTER*ボタン押すとイコライザーを含む全てのパラメーターがメモリーされます。

解析結果をメモリーさせたくない時は「EXIT」にカーソルを合わせて*ENTER*ボタン押します。

ご注意

- 「STORE」を押す（メモリーする）前に「EXIT」を押すと測定結果および解析結果の全てを消去してしまうので操作に注意してください。

メモリーが完了すると次のOSD画面が表示されます。

ご注意

- メモリー中は本機の電源を切らないでください。
  本機にメモリーされている全てのデータが消去されてしまう場合があり、また故障の原因にもなります。
- THX社認定のフルTHXスピーカー・システムをお使いの場合は、オートセットアップ後にすべてのスピーカーサイズをスモールに、クロスオーバー周波数を80Hzに設定することをTHX社は推奨しています。

エラーメッセージについて

エラー表示	原因	対処方法
MIC SET ERROR!! AUTO SETUP AUTO SETUP: START MAIN ZONE SURR BACK: 2CH MIC SET ERROR!! RETURN EXIT	• マイクが正しく接続されていない	• 付属のマイクを接続する • マイクの接続を確認する
NOISE ERROR!! AUTO SETUP SPEAKERS CHECK:＊＊ NOISE ERROR !! RETURN EXIT	• リスニングルームの騒音が大きすぎて正確な測定ができない • スピーカーから出力される音量が小さい	• 測定中はエアコン等の騒音を発生する機器の電源を切る • 周囲が静かな時間帯に測定をおこなう
ANALYZE ERROR!! AUTO SETUP SPEAKERS CHECK:＊＊ ANALYZE ERROR !! RETURN NEXT EXIT • ANALYZE ERRORは**カーソルボタン▲ / ▼**を押してカーソルを「NEXT」に合わせて***ENTER*** **ボタン**を押すと次のような詳細画面を表示できます SPEAKER CONFIG CHECK !! SPEAKER FRONT L : YES REV CENTER : NON FRONT R : YES REV SURR.R : NON ERR SURR.B R : YES ERR SURR.B L : YES ERR SURR.L : NON ERR SUB W : YES RETURN EXIT	• 適切な再生をおこなうための必要なスピーカーが検出できない • スピーカーの極性が逆に接続されている 左図の例では次のような不具合が検出されています。 • フロントスピーカーのL-ChおよびR-Chの極性が逆になっている（[REV] Reverse表示がされている） • サラウンドスピーカーが接続されていない（NON表示）のにサラウンドバックスピーカーが接続されている。 （このような不具合の場合はサラウンドおよびサラウンドバックの全てのスピーカーに[ERR] Errorが表示されます） 上記以外にもスピーカーの接続が次ぎのように接続されているとErrorになります • サラウンドバックスピーカーを1本だけ使用している場合にサラウンドバックR端子に接続している （サラウンドバックスピーカーを 1本だけ御使用の場合は L端子に接続してください）	• 極性が逆と表示されたスピーカーの接続を確認する （ご使用のスピーカーによっては正しく接続されていてもこの表示[REV]がされる場合があります。この場合はエラー表示を無視してください） • スピーカーの向きや配置を確認する

ご注意

オートセットアップ機能を使用してサブウーファーやメインスピーカーを調整する際、部屋の音響特性との相互作用により、正しく設定できない場合があります。その場合、THXは、手動で音量および距離を設定することをお勧めします。

2-2 MANUAL SETUP

1. MAIN MENUから「2. SPKR SETUP」を選択します。

2. カーソルボタン▲ / ▼で「MANUAL SETUP」を選択します。

3. *ENTER*ボタンを押して確定します。

＜SPEAKER SIZE＞

SPEAKER SIZE メニューでスピーカーのサイズを設定する際は以下の指針を参照してください。

LARGE:
十分な低音再生能力をもった全帯域対応の大型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の全帯域をそのままスピーカーへ出力します。

SMALL:
低音再生能力の低い小型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の低音域は、サブウーファー出力端子へ振り分けて出力されます。
(SUB W：NONEに設定した場合はフロントL/Rチャンネルへ振り分けて出力されます)

NONE:
対象となるチャンネルのスピーカーを接続していない場合に選択します。

4. カーソルボタン▲ / ▼で各チャンネルのスピーカーを選択します。

ご注意

- すべてのチャンネルの設定をマニュアルで行なう場合はTHX SPKRを「NO」に設定してください。

5. カーソルボタン◀ / ▶でスピーカーのサイズを設定します。

6. 各設定が終了したとき、カーソルボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶で「NEXT」に移動し、*ENTER*ボタンを押して次のページに進みます。

THX SPKR
THX社認定のフルTHXスピーカー・システムをお使いの場合は THX SPKRの設定をYESに設定することをお勧めします。
この設定によって
サブウーファー : YES
クロスオーバー周波数 : 80Hz
BASS MIX : MIX
全てのスピーカーサイズ : SMALL
に設定され、スピーカーシステムを簡単に最適な状態に設定することができます。
(設定を変更することはできません)

アドバイス

- THX SPKRの設定をYESにした時は、サラウンドバックスピーカーの設定は、2ch/1ch/NONE/ZSP A/ZSP Bの中から、お客様のご使用状態に合わせた設定を行ってください。

SUB W
YES:
サブウーファーを使用する場合に選択します。
NONE:
サブウーファーを使用しない場合に選択します。
フロントスピーカーで「SMALL」を選択した場合、この項目は「YES」に設定されます。

FRONT
LARGE:
フロントスピーカーが大型の場合に選択します。
SMALL:
フロントスピーカーが小型の場合に選択します。

- サブウーファーで「NONE」を選択した場合はこの項目は「LARGE」に設定されます。

CENTER
NONE:
センタースピーカーを使用しない場合に選択します。
LARGE:
センタースピーカーが大型の場合に選択します。
SMALL:
センタースピーカーが小型の場合に選択します。

SURR.
NONE:
サラウンドL/Rスピーカーを使用しない場合に選択します。
LARGE:
サラウンドL/Rスピーカーが大型の場合に選択します。
SMALL:
サラウンドL/Rスピーカーが小型の場合に選択します。

SURR. B
NONE:
サラウンドバックL/Rスピーカーを使用しない場合に選択します。
2CH:
サラウンドバックL/Rスピーカーを使用する場合に選択します。
1CH:
サラウンドバックスピーカーが1本の場合に選択します。
音声信号はサラウンドバックL端子から出力されます。接続を確認してください。
ZSP A:
サラウンドバック出力端子をゾーンスピーカーAとして使用する場合に設定します。
ZSP B:
サラウンドバック出力端子をゾーンスピーカーBとして使用する場合に設定します。

ご注意

- 「SURR.」の設定で「NONE」を選択した場合、この項目は「NONE」に固定されます。
- サラウンドバックスピーカーを使用しない場合は、サラウンドバック用のプリアウト端子をゾーンスピーカー用またはスピーカーC用に使用することができます。(28、47ページ参照)
- サラウンドバックスピーカーで「ZSP A」「ZSP B」を選択しておくと、ゾーンのソースボタン(RC101)を押すだけで自動的にゾーンスピーカー機能をONすることができます。

SURR. B(BACK)SIZE
LARGE:
サラウンドバックスピーカーが大型の場合に選択します。
SMALL:
サラウンドバックスピーカーが小型の場合に選択します。

ご注意

- 「SURR.」の設定で「NONE」を選択した場合は、ここでの設定はできません。

LPF/HPF
サブウーファーを用いる場合は、Smallに設定したスピーカーのカットオフ周波数を選択することができます。
Small に設定したスピーカーのサイズに応じてクロスオーバー周波数レベルを選択します。
60Hz ↔ 80Hz ↔ 100Hz ↔ 120Hz ↔ 140Hz ↔ 160Hz ↔ 180Hz ↔ 60Hz ↔ ...

アドバイス

- Front スピーカーに小型のものを使った場合は高めに、大型のものを使った場合は低めに設定します。

BASS MIX

- バス・ミックスの設定は、ステレオ再生で、フロントスピーカーを「**LARGE**」に、サブウーファーを「**YES**」に設定した場合にのみ有効となります。この設定は PCM またはアナログ・ステレオソースの再生時にのみ有効です。
- 「**BOTH**」を選択した場合、低音域帯はメインのL/Rスピーカーとサブウーファーの両方で再生されます。
この再生モードでは、低音域帯が室内全体に均一に広がります。ただし、部屋の大きさや形状によっては干渉が起こって実際の低音域帯の音量が小さくなる場合があります。
- 「**MIX**」を選択すると、低音域帯はメインのL/Rスピーカーでのみ再生されます。
この再生モードは室内の低音域干渉が起こりにくくなるため、THXより推奨されています。

アドバイス

- Dolby Digital または DTS の再生中の LFE 信号はサブウーファーで再生されます。

7. 各設定が終了したとき、カーソルボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶でカーソルを「NEXT」に移動し、*ENTER*ボタンを押して次のページに進みます。

＜SPEAKER DISTANCE＞

ここではリスニング位置から各スピーカーまでの距離を指定します。この距離に基づいて自動的にディレイタイムが計算されます。
まず、部屋の中で通常座る理想的な位置を決めます。適切な音場を作る音響タイミングを設定するために、この作業は重要です。

ご注意

- SPEAKER SIZEのMENU設定で「NONE」に設定したスピーカーはSPEAKER DISTANCEのMENUに表示されません。

8. **カーソルボタン◀ / ▶で「UNIT」（表示単位）を「m」（メートル）または「ft」（フィート）に設定します。**

9. **カーソルボタン▲ / ▼で設定したチャンネルを選択します。**

10. **カーソルボタン◀ / ▶で、スピーカーまでの距離を設定します。**

FRONT L:
通常のリスニング位置からフロントLスピーカーまでの距離を設定します。

CENTER:
通常のリスニング位置からセンタースピーカーまでの距離を設定します。

FRONT R:
通常のリスニング位置からフロントRスピーカーまでの距離を設定します。

SURR. L:
通常のリスニング位置からサラウンドLスピーカーまでの距離を設定します。

SURR. R:
通常のリスニング位置からサラウンドRスピーカーまでの距離を設定します。

SUB W:
通常のリスニング位置からサブウーファーまでの距離を設定します。

SURR. B L:
通常のリスニング位置からサラウンドバックLスピーカーまでの距離を設定します。

SURR. B R:
通常のリスニング位置からサラウンドバックRスピーカーまでの距離を設定します。

ご注意

- 各スピーカーまでの距離は以下のようにメートル(m)またはフィート(ft)で設定します。
  m: 0.03から9.15 mの範囲で0.03 m単位で設定できます。
  ft: 0.1＋から30.0 ftの範囲で0.1 ft単位で設定できます。
  （モニタには近似値で表示されます。）
- 「NONE」に設定したスピーカーにはSPEAKER DISTANCEメニューは表示されません。
- SPEAKER SIZEメニューでサラウンドバックスピーカーを2CHに設定した場合は、「SURR. B L」と「SURR. B R」の設定が表示されます。
- SPEAKER SIZEメニューでサラウンドバックスピーカーを1CHに設定した場合は、「SURR. BACK」の設定が表示されます。

11. **各設定が終了したとき、カーソルボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶でカーソルを「NEXT」に移動し、*ENTER*ボタンを押して次のページに進みます。**

＜SPEAKER LEVEL＞

ここでは、リスナーがすべてのスピーカーを同じレベルで聴けるように各スピーカーの音量を設定します。
SPL（音圧レベル）メータをお持ちの場合は、リスニングポジションで計測されるSPLを一定にすることを推奨します。SPLメータの読み値が75dB（C weighting, Slow responseにて）になるように各々のスピーカーレベルを調整します。

ご注意

- このMENUで設定された値は、7.1ch入力モード、ピュアダイレクトモード、ソースダイレクトモードの時は反映されません。

テスト・モード

カーソルボタン◀ / ▶で テストトーンの出力を「**MANUAL**」または「**AUTO**」に設定します。

「**AUTO**」を選択すると、テストトーンは各チャンネルで2秒ずつ、以下の順で循環して出力されます。
フロントL → センター → フロントR → サラウンドR → サラウンドバックR → サラウンドバックL → サラウンドL → サブウーファー → フロントL・・・
カーソルボタン◀ / ▶で、すべてのスピーカーのレベルが同じになるようにスピーカーから出るテストトーンの音量を調整します。

「**MANUAL**」を選択した場合は以下のように各スピーカーの出力レベルを調整します。

12. **カーソルボタン▼を押してカーソルを「FRONT L」に移動します。本機のフロントLスピーカーからテストトーン（ピンクノイズ）が出力されます。**
このノイズのレベルを調整します。
（レベルの調整は －12 から ＋12 dB の範囲で 0.5 dB 単位で行えます。）
カーソルボタン▼を押すと、センタースピーカーからテストトーン（ピンクノイズ）が出力されます。

13. **カーソルボタン◀ / ▶で、フロントLスピーカーと同じレベルになるようにセンタースピーカーのノイズ音量を調整します。**

14. **カーソルボタン▼を押すと、フロントRスピーカーからテストトーン（ピンクノイズ）が出力されます。**

15. **フロントRスピーカーおよびその他のスピーカーも同様にステップ*13.*と*14.*を繰り返し、すべてのスピーカーの音量が同じになるようにします。**

16. **各設定が終了したとき、*ENTER*ボタンでカーソルを「RETURN」に移動し、*ENTER*ボタンを押して「2. SPKR SETUP」メニューにもどります。**

ご注意

- SPEAKER SIZEメニューで「NONE」に設定したスピーカーは表示されません。
- SPEAKER SIZEメニューでのサラウンドバックスピーカーを2CHに設定した場合は、「SURR.B L」と「SURR.B R」が表示されます。
- SPEAKER SIZEメニューでサラウンドバックスピーカーを1CHに設定した場合は「SURR. BACK」と表示されます。
- 7.1ch入力ソース（7.1 CH IN端子）のスピーカー・レベルの調整は、7.1ch入力サブメニューで行います。（35ページ参照）
- SUB Wは－18dBから＋12dBまで設定可能です。

2-3 THX AUDIO SETUP

BOUNDARY GAIN COMP.（バウンダリーゲイン補正回路）と ADVANCED SPKR ARRAY（アドバンストスピーカーアレイ）を設定します。

1. **MAIN MENUから「2. SPKR SETUP」を選択します。**

2. **カーソルボタン▲ / ▼で「THX AUDIO SETUP」を選択します。**

3. ***ENTER*ボタンを押して確定します。**

Boundary Gain Compensation（B.G.C.）
（バウンダリーゲイン補正回路）

THX ULTRA2 SUB-W: YES or NO
THX Ultra2 認定サブウーファーを使用する場合は「**YES**」を選択します。
YES: B.G.C.機能を有効にすることができます。
NO: B.G.C 機能は作動しません。

B.G.C.: ON or OFF
超低音が出過ぎていると感じられている場合に「ON」に選択すると効果的です。
OFF: B.G.C. 機能は無効です。
ON: B.G.C. 機能が有効です。

ご注意

- SPEAKER SIZEメニューでSUB W＝NOに設定した場合、B.G.C. 機能は作動しません。また、この場合THX ULTRA2 SUB-Wの設定もできません。

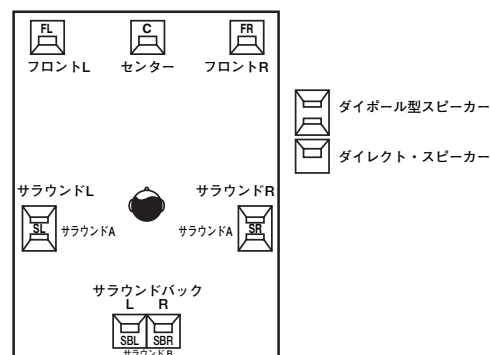
Advanced Speaker Array (ASA)
（アドバンストスピーカーアレイ）

SURR.B SPKR:

サラウンドバックスピーカーのLとRの間隔により以下の設定にしてください。

TOGETHER： 30 cm 未満
CLOSE： 30 cm 〜 122 cm
APART： 122 cm 以上

スピーカーのタイプと位置

以下の図は、ASAモードで使用する7.1ch スピーカーに適した位置を示しています。
システムの設定時に、サラウンドバックスピーカー間の距離を選択します。

ASAはTHX ULTRA2の上図スピーカー配置でサラウンド信号からサラウンドバック2CH信号を創り出し、より広がりのある音場にします。

ご注意

- ゾーンスピーカー機能を使用時または本機のリアパネルのSPEAKER CをONに設定しているときは、Advanced Speaker Arrayの設定はできません。
- SPEAKER SIZE メニューでSURR.B = NONE、1CH、ZSP AまたはZSP Bに設定した場合、ASAは作動しません。

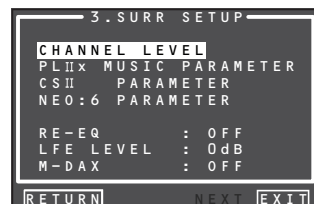
各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲／▼／◀／▶でカーソルを「RETURN」に移動し、***ENTER***ボタンを押して「2. SPKR SETUP」メニューにもどります。

3 SURROUND SETUP

各種サラウンド入力信号に対して、ご使用のスピーカーシステムまたはヘッドホンから高い臨場感の効果を引き出すために、サラウンド効果のパラメーターを設定します。

- **CHANNEL LEVEL:**
  「3-1 CHANNEL LEVEL」（44ページ参照）
- **PLⅡx MUSIC PARAMETER:**
  「3-2 PLⅡx MUSIC PARAMETER」（44ページ参照）
- **CSⅡ PARAMETER:**
  「3-3 CSⅡ PARAMETER」（44ページ参照）
- **NEO:6 PARAMETER:**
  「3-4 NEO:6 PARAMETER」（44ページ参照）

1. ***カーソル***ボタン▲／▼で MAIN MENU から「3. SURR SETUP」を選択し、***ENTER***ボタンを押します。

2. ***カーソル***ボタン▲／▼で設定したいメニューを選択し、***ENTER***ボタンを押します。

RE-EQ:

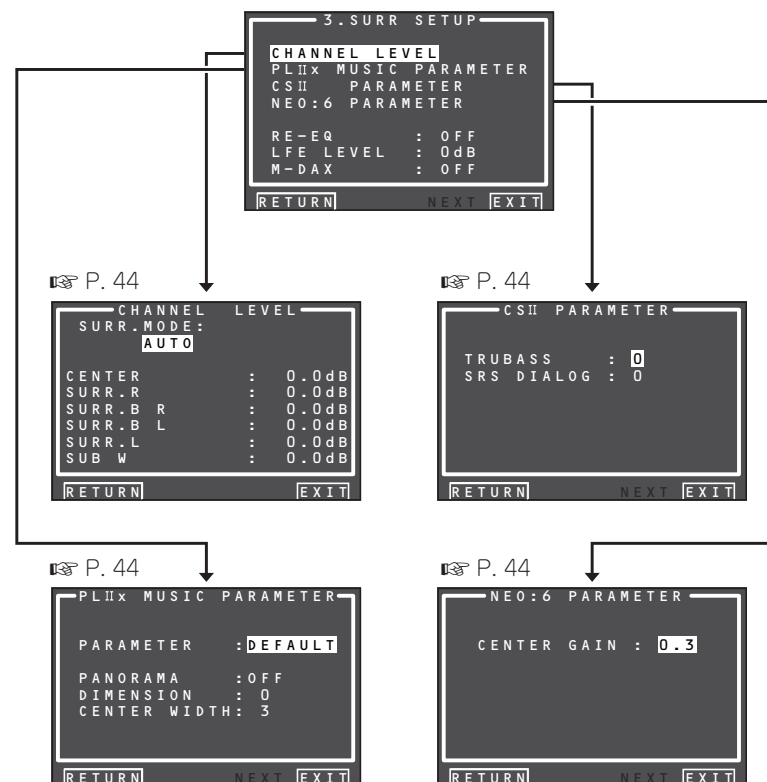
THX CINEMA RE-EQ™のON/OFFを設定します。
カーソルボタン◀／▶で RE-EQ™を選択し「ON」または「OFF」を選択します。

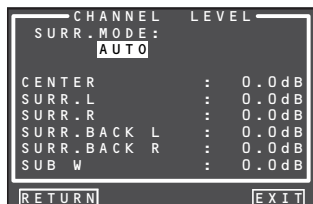
LFE LEVEL:

Dolby Digital 信号または DTS 信号に含まれる LFE 信号の出力レベルを選択します。
カーソルボタン◀／▶で「**0 dB**」、「**−10 dB**」または「**OFF**」を選択します。

M-DAX:

M-DAXのモードを設定します。**カーソル**ボタン◀／▶で「**HIGH**」、「**LOW**」または「**OFF**」を選択します。
詳細は51ページのM-DAXの項目を参照してください。

3. **各設定が終了したとき、*カーソル*ボタン▲／▼でカーソルを「RETURN」に移動し、*ENTER*ボタンを押してサブメニュー（3. SURR SETUP）に戻ります。**

3-1 CHANNEL LEVEL

1. MAIN MENUからカーソルボタン▲/▼で「3. SURR SETUP」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。
2. カーソルボタン▲/▼で「CHANNEL LEVEL」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。
3. 設定するSURR. MODEにカーソルボタン◀/▶で設定します。

4. カーソルボタン▲/▼で設定するメニュー項目を選択し、カーソルボタン◀/▶でレベルを設定します。*ENTER*ボタンを押して確定します。

SURROUND MODE:

チャンネルレベルは以下の3つのサラウンドモード毎に独立してメモリーされます。

1. Multi Ch. STEREOのモード
2. CSⅡのモード
3. その他のモード

CHANNEL LEVEL

CENTER LEVEL:

センタースピーカーの補正量は－12dBから＋12dBで0.5dBステップで設定します。

- SPEAKER SIZE メニューでセンタースピーカーを「NONE」に設定した場合はこの設定は表示されません。

SURR L/R LEVEL:

サラウンドスピーカーの補正量は－12dBから＋12dBで0.5dBステップで設定します。

- SPEAKER SIZE メニューでサラウンドスピーカーを「NONE」に設定した場合は、この設定は表示されません。

S. B L/R LEVEL:

サラウンドバックスピーカーの補正量は－12dBから＋12dBで0.5dBステップで設定します。

- SPEAKER SIZE メニューでサラウンドバックスピーカーを「NONE」に設定した場合は、この設定は表示されません。

SUB W LEVEL:

サブウーファーの補正量は－18dBから＋12dBで0.5dBステップで設定します。

- SPEAKER SIZE メニューでサブウーファーを「NONE」に設定した場合は、この設定は表示されません。

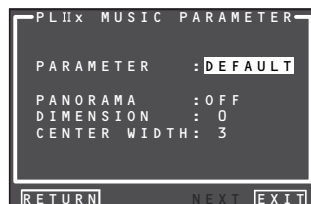
ご注意

- Multi Ch. STEREO、CSII以外のモードでの設定値は2-2 Manual Setupの内のSPEAKERS LEVELと連動します。

5. 各設定が終了したとき、カーソルボタン▲/▼/◀/▶でカーソルを「RETURN」に移動し、*ENTER*ボタンを押して、3. SURR SETUPメニューに戻ります。

3-2 PLⅡx（プロロジックⅡx）MUSIC PARAMETER

Pro LogicⅡx-Music モードはCDなどのステレオソースで、豊かで包み込むようなサラウンド環境を実現します。

1. MAIN MENUからカーソルボタン▲/▼で「3. SURR SETUP」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。
2. カーソルボタン▲/▼で「PLⅡx MUSIC PARAMETER」を選択します。
3. *ENTER*ボタンを押して確定します。

PARAMETER:

カーソルボタン◀/▶で「DEFAULT」または「CUSTOM」を選択します。
「CUSTOM」を選択した場合、以下の3つのパラメータを設定することができます。

PANORAMA:

カーソルボタン◀/▶でPANORAMAモードを「ON」または「OFF」に設定します。
PANORAMA モードでは、フロント左右スピーカーから出る音がリスナーを包み込み、3次元空間の表現力が得られます。

DIMENSION: -3 ⇒. . . ⇒ 3

フロントとリアのレベル差を調整する機能です。入力ソースによってはフロントが強くでるもの、リアが強くでるもの、と多様異なりますので、この機能で好みのバランスを得ることができます。-3から3までの7段階の調整が可能です。

CENTER WIDTH: 0 ⇒. . . ⇒ 7

センターチャンネル成分を、徐々にフロントL/Rのスピーカーに振り分ける機能です。
センター成分を振り分けることで、スピーカー間の音色の不一致を緩和させることが可能になります。0から7までの8段階の調整が可能です。
センタースピーカーの設定が「NONE」に選択されている場合は、この設定は選択できません。

4. 各設定が終了したとき、カーソルボタン▲/▼/◀/▶でカーソルを「RETURN」に移動し、*ENTER*ボタンを押します。

3-3 CSⅡ/TS XT PARAMETER

1. MAIN MENUからカーソルボタン▲/▼で「3. SURR SETUP」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。
2. カーソルボタン▲/▼で「CSⅡ PARAMETER」を選択します。
3. *ENTER*ボタンを押して確定します。

TRUBASS: 0 ⇒. . . ⇒ 6

- Trubassは、パイプオルガンの低音再生技法を電気的に応用したもので、使用するスピーカーのf0(最低再生可能周波数)以下の低音を再生できます。
- 0から6まで7段階で設定できます。数値が上がる程、効果が大きくなります。
- サブウーファーを使用している場合、本機能はサブウーファー出力に働きます。
- サブウーファーを使用していない場合、本機能はフロントL/R出力に働きます。

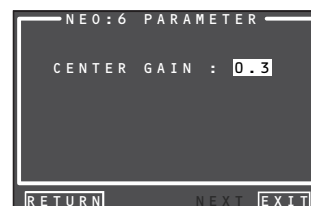
SRS DIALOG: 0 ⇒. . . ⇒ 6

- SRS Dialogはダイアログ(台詞)を明瞭にすると共に、床置きのセンタースピーカーから出る音の音像定位を画面の高さから聴こえるように、上方向に移動(仮想配置)します。
- 0から6まで7段階で設定できます。数値が上がる程、効果が大きくなります。
- SPEAKER SIZE(スピーカーのサイズ)セットアップでセンタースピーカーを「NONE」と選択している場合、この設定を行うことはできません。

4. 各設定が終了したとき、カーソルボタン▲/▼/◀/▶でカーソルを「RETURN」に移動し、*ENTER*ボタンを押します。

3-4 NEO:6 PARAMETER

DTS NEO:6は2チャンネル入力時、最大6.1チャンネル出力を可能にしたモードです。(5.1チャンネル入力も対応。)
このモードでは、センタースピーカーの音声イメージが拡大されます。

1. MAIN MENUからカーソルボタン▲/▼で「3. SURR SETUP」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。
2. カーソルボタン▲/▼で「NEO:6 PARAMETER」を選択します。
3. *ENTER*ボタンを押して確定します。

4. カーソルボタン◀/▶で CENTER GAIN レベルを 0.0 から 1.0の範囲で 0.1単位で選択できます。

ご注意

- この設定はNEO:6 Musicモードのときのみ有効です。
- センタースピーカーの設定が「NONE」に選択されている場合は、この設定は選択できません。

5. 各設定が終了したとき、カーソルボタン▲/▼でカーソルを「RETURN」に移動し、*ENTER*ボタンを押します。

4 VIDEO SETUP

ビデオに関する各種設定をします。

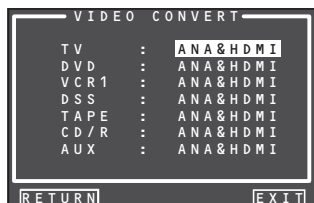
1. MAIN MENUから*カーソルボタン*▲ / ▼で「4. VIDEO SETUP」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。

2. *カーソルボタン*▲ / ▼で設定したいメニューを選択し、*ENTER*ボタンを押します。

- **VIDEO CONVERT**

本機のモニター出力には映像信号のコンバート機能を装備しています。
VIDEO CONVERT MENUでは、各映像入力ファンクションごとに、 コンバートの設定がおこなえます。

1. MAIN MENUから*カーソルボタン*▲ / ▼で「4.VIDEO SETUP」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。

2. *カーソルボタン*▲ / ▼で「VIDEO CONVERT」を選択し*ENTER*ボタンを押します。

3. *カーソルボタン*▲ / ▼でFUNCTIONを選択して*カーソルボタン*◀ / ▶でVIDEO CONVERTのMODE設定をおこないます。

ANA&HDMI:
アナログ映像信号（ビデオ，Sビデオ，コンポーネントビデオ）の相互のアップコンバート、ダウンコンバートをおこないます。
さらに、アナログ映像信号から、HDMIへのアップコンバートもおこないます。

ご注意

- HDMIのデジタル映像信号からアナログ映像信号のダウンコンバートはできません。

ANA ONLY:
アナログ映像信号（ビデオ，Sビデオ，コンポーネントビデオ）の相互のアップコンバート、ダウンコンバートをおこないます
アナログ映像信号から、HDMIへのアップコンバートはおこないません。

OFF:
全てのコンバート機能を停止します。

VIDEOコンバート機能の詳細については54ページを参照してください。

- **TV -AUTO**

本機をテレビと連動させて、自動的に電源を入れたり、スタンバイにする機能です。

カーソルボタン◀ / ▶でこの機能を有効にしたいときは「ENABLE」、無効にしたいときは「DISABLE」に設定します。

詳細は53ページのテレビオート機能の項を参照してください。

- **OSD INFO**

音量のアップ / ダウン操作や入力ファンクションの切り替え操作をしたときに、モニターに操作の状態をOSD表示する機能です。

カーソルボタン◀ / ▶で「OSD INFO」機能を有効にしたいときは「ENABLE」、無効にしたいときは「DISABLE」に設定します。

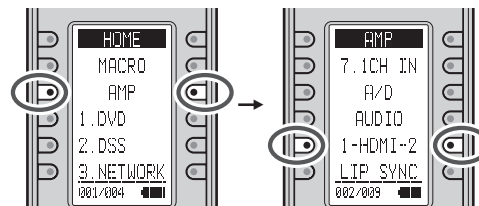
この機能が不要の場合は「DISABLE」を選択してください。

- **COMPONENT I/P**

480iで入力されたアナログビデオ信号を480pに変換してコンポーネント端子から出力する機能です。
カーソルボタン◀ / ▶でこの機能を有効にしたいときは「ENABLE」、無効にしたいときは「DISABLE」に設定します。
詳細は54ページのコンポーネントIP機能の項を参照してください。

- **HDMI OUT**

HDMIの出力先を設定します。
カーソルボタン◀ / ▶で、HDMI OUTPUT1に出力させたいときは「OUTPUT1」、HDMI OUTPUT2に出力させたいときは「OUTPUT2」に設定します。

リモコン（RC2001）を使ってHDMI OUTを切り替える場合、リモコンをAMPモードに切り替え、002ページが表示されるまで< / >ボタンを押します。リモコン表示部にHDMI1またはHDMI2が表示されたら、***HDMI1***ボタンまたは***HDMI2***ボタンを押して切り替えます。

- **HDMI ASPECT**

本機に接続しているテレビの画面サイズに合わせて設定します。
カーソルボタン ◀ / ▶を使って “THROUGH” または“16：9NORM”を選択します。

THROUGH:
入力されたままの画面のサイズで出力されます。

16:9 NORM:
テレビ画面の左右に黒い帯をつけて出力します。

ご注意

- 480iが入力され、HDMI RESOLUTIONの設定がTHROUGH以外のとき、または480pが入力されたときに設定が有効になります。
- 入力されている映像信号が720p、1080iのときはアスペクトを変換することができません。
- ネットワーク選択時は、ネットワークの設定に依存します。

- **HDMI OUT 1 RES**
  HDMI OUT 2 RES

本機HDMI端子から出力される映像信号の解像度（画素数）を設定します。
カーソルボタン ◀ / ▶を使って下記の中から選択します。
THROUGH ↔ 480/576p ↔ 720p ↔ 1080i ↔ 1080p ↔ AUTO ↔ THROUGH

AUTO:
HDMI接続されているテレビに適切な解像度を自動で設定します。

THROUGH:
入力されたままの解像度で出力されます。

480p/576p:
480pで出力されます。

720p:
720pで出力されます。

1080i:
1080iで出力されます。

1080p:
1080pで出力されます。

ご注意

- 入力されている映像信号が720p、1080iのときは解像度を変換することができません。
- ネットワーク選択時は、ネットワークの設定に依存します。
- HDCPに対応していないモニターに接続したときは映像が出力されません。

- **COMPONENT OUT2**

COMPONENT MONITOR OUT2の出力先を設定します。
カーソルボタン◀ / ▶で、メインゾーンに出力させたいときは「MAIN」、マルチゾーンに出力させたいときは「ZONE A」に設定します。

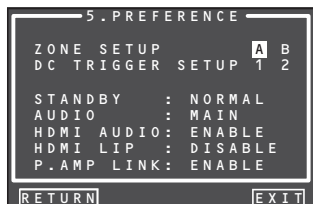
ご注意

- 「ZONE A」に設定したとき、COMPONENT MONITOR OUT2端子からは、ビデオ、Sビデオからアップコンバートされたビデオ信号は出力されません。

5 PREFERENCE （便利機能の動作設定）

• **ZONE SETUP :**
「5-1 ZONE SETUP」（47ページ参照）

• **DC TRIGGER SETUP :**
「5-2 DC TRIGGER SETUP」（47ページ参照）

1. **カーソルボタン▲ / ▼でMAIN MENUから「5. PREFERENCE」を選択して、*ENTER*ボタンを押します。**

2. **カーソルボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶で設定するメニューを選択して、*ENTER*ボタンを押します。**

STANDBY:

「**ECONOMY**」に設定すると、スタンバイ時の消費電力を低減できますが、スタンバイ中、テレビオートON/OFF、RS-232Cの機能を使用できません。これらの機能を使用する場合は「**NORMAL**」に設定してください。また、リモコンで電源を入れる場合、少し長めにボタンを押してください。

参考：スタンバイ電力

「ECONOMY」：約0.7W

「NORMAL」：約1.0W

AUDIO:

AAC、二ヵ国語モードのとき、MAIN（主音声）SUB（副音声）のどちらの音声を出すかを決めます。▲ / ▼で選択し◀ / ▶でMAIN ↔ SUB ↔ MAIN＋SUBを選択します。

HDMI AUDIO:

HDMI端子から入力された音声信号を、本機に接続されたスピーカーで再生するか、もしくは本機のHDMI出力端子に接続したテレビやプロジェクターで再生するかを設定します。

ENABLE: HDMI 端子からの音声入力信号を本機で再生します。この場合、TVやプロジェクターからは音声信号は出力されません。

THROUGH: HDMIに入力された音声は本機のプリアウト端子からは出力されません。音声データはTVやプロジェクターにそのまま出力されます。マルチチャンネル対応TVなどで音声を聞きたいときに使用します。

HDMI LIP（オートリップシンクコレクション）:

接続する映像機器によっては映像信号の処理時間が音声信号に対して長いものがあります。HDMI 1.3aのオートリップシンクコレクション機能に対応したTVやプロジェクターを本機に接続した場合、この機能で自動的に映像と音声の同期をとることができます。

カーソルボタン◀ / ▶でENABLE/DISABLEを切り替えます。

ENABLE: オートリップシンクコレクション機能を使用して映像と音声の同期を取ります。

DISABLE: オートリップシンクコレクション機能をオフにします。

ご注意

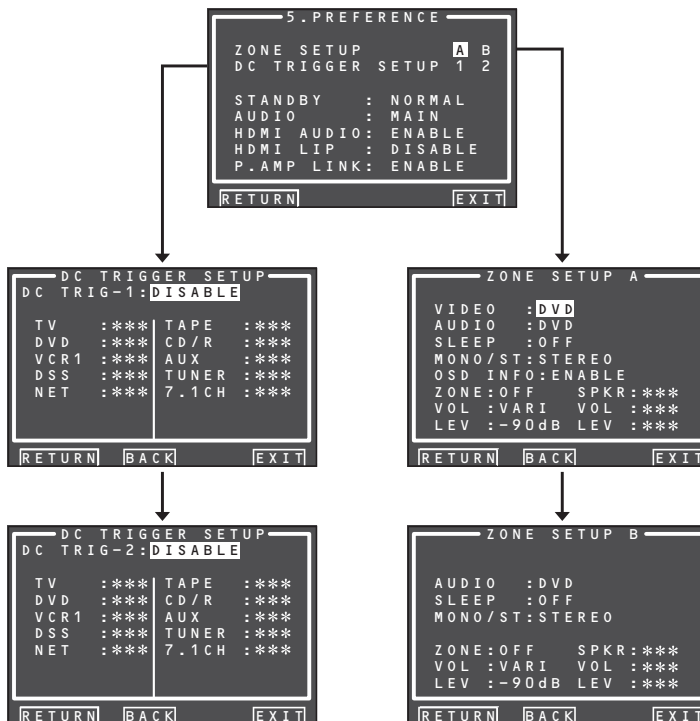
- HDMI 1.3aに対応していない機器、またはオートリップシンクコレクション機能に対応していない機器を本機に接続した場合、この機能は使用できません。詳しくは接続する機器の取扱説明書をご確認ください。
- この機能がご使用になれない場合は、LIP. SYNC（リップシンク）機能で映像と音声の同期を手動でとることができます。（53ページ参照）

P.AMP LINK:

マランツ製のパワーアンプ（一部モデルを除く）とリモートコントロール接続する際に設定します。

ENABLE: MM8003とリモートコントロール接続する際に設定します。

DISABLE: MM8003以外のマランツ製パワーアンプとリモートコントロール接続する際に設定します。

3. **各設定が終了したときは、カーソルボタン▲ / ▼で「RETURN」を選択し、*ENTER*ボタンを押してサブメニュー（5. PREFERENCE）に戻ります。**

5-1 ZONE SETUP

ゾーンシステムを使用する時の各設定をこのMENUでおこないます。

アドバイス

- ゾーンシステムについての詳細は57ページを参照してください。

1. カーソルボタン▲/▼でMAIN MENUから「5. PREFERENCE」を選択して、ENTERボタンを押します。

2. カーソルボタン▲/▼/◀/▶でZONE SETUP「A」または「B」を選択します。

3. ENTERボタンを押します。

以下の説明はゾーンAを設定する方法です。ゾーンBには映像出力機能はありません。

4. カーソルボタン▲/▼で必要な項目を選択します。

VIDEO:

ゾーン出力の映像ソースはカーソルボタン◀/▶で選択します。

AUDIO:

ゾーン出力の音声ソースはカーソルボタン◀/▶で選択します。

ご注意

- VIDEOとAUDIOのファンクションソースの切り替えは同時に動作します。
  TUNERを選択したいときにはAUDIOファンクションを切り替えてください。

SLEEP:

SLEEPモードはゾーン出力が「ON」のときに利用できます。時間はカーソルボタン◀/▶で設定でき、10分単位で最長120分まで設定できます。

MONO/ST（モノラル／ステレオ）:

ゾーン音声出力をモノラル出力にするときは「MONO」を、ステレオ出力にするときは「STEREO」をカーソルボタン◀/▶で選択します。

OSD INFO:

ゾーンの入力切り替えを行なった場合、ゾーンビデオ出力にOSD表示が出力されます。
この表示の「ON」「OFF」を設定します。
「ENABLE」で有効、「DISABLE」で無効にします。

ZONE（ゾーン）:

カーソルボタン◀/▶でゾーン機能の「ON」「OFF」を設定します。

SPKR（ゾーンスピーカー）:

カーソルボタン◀/▶でゾーンスピーカー機能の「ON」「OFF」を設定します。

VOL（音量設定）:

ゾーンの音量を可変するときは「VARI」に、固定するときは「FIXED」にします。

LEVEL（音量レベル）:

ゾーン出力レベルをカーソルボタン◀/▶で調整します。－90dBから0dBまで1dB単位で設定できます。

ご注意

- ゾーンスピーカー機能の設定は、SPEAKER SIZEメニューで「SURR B」が「NONE」、「ZSP A」または「ZSP B」に設定され、かつリアパネルでSPEAKER CがOFF位置にあるときに変更できます。この設定が利用できないときは、「＊＊＊」と表示されます。
- 「VOL」が「FIXED」に設定されている場合は、ZONE RC INに接続された外部IRレシーバーからボリュームのアップ/ダウン操作を行ってもゾーン出力レベルの調整はできません。

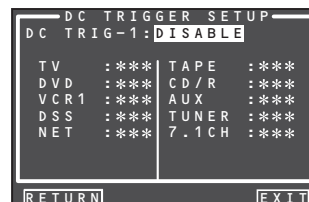
5. 各設定が終了したとき、カーソルボタン▲/▼でカーソルを「RETURN」に移動し、ENTERボタンを押します。

5-2 DC TRIGGER SETUP

本機は、メインゾーンまたはゾーンの入力ファンクションと連動してDCトリガー出力をコントロールすることができます。このDCトリガーコントロール端子は2系統あり、各端子ごとの個別設定が可能です。

1. カーソルボタン▲/▼でMAIN MENUから「5. PREFERENCE」を選択して、ENTERボタンを押します。

2. カーソルボタン▲/▼/◀/▶で、DC TRIGGER SETUP「1」または「2」を選択します。

3. ENTERボタンを押して確定します。

4. カーソルボタン◀/▶で、「MAIN ZONE」、「ZONE A」、「ZONE B」、「REMOTE」、「DISABLE」のいずれかを選択します。

- **MAIN ZONE**
  メインゾーンのファンクションに連動してDCトリガー出力をコントロールします。
- **ZONE A**
  ゾーンAのファンクションに連動してDCトリガー出力をコントロールします。
- **ZONE B**
  ゾーンBのファンクションに連動してDCトリガー出力をコントロールします。
- **REMOTE**
  リモコンでDCトリガー出力をコントロールします。

ご注意

- RC2001ではこの機能はご使用になれません。

- **DISABLE**
  DCトリガー機能を停止します。

5. 設定したい入力ファンクションをカーソルボタン▲/▼で選択します。

6. カーソルボタン◀/▶で「ON」か「OFF」に設定します。

7. 各設定が終了したとき、カーソルボタン▲/▼でカーソルを「RETURN」に移動し、ENTERボタンを押します。
DC TRIG-2も同様に設定できます。

ご注意

- 設定したZONEでONに設定したファンクションが選択されたときにDC TRIGGER OUTに電圧が出力されます。

6 ACOUSTIC EQ

ACOUSTIC EQ（アコースティック イコライザー）のSETUP MENUの設定で使用するイコライザーの選択とイコライザーカーブを設定することが出来ます。

• **PRESET G. EQ ADJ :**
「6-1 PRESET G.EQ ADJ」（49ページ参照）

• **CHECK AUTO :**
「CHECK AUTO」（49ページ参照）

EQ MODE:
本機にはユーザーが好みによって手動でグラフィックイコライザーを設定する「PRESET」および、AUTO SETUPの自動測定の演算処理で決められる「FRONT」、「FLAT」、「AUDYSSEY」の3種類のMultEQ（マルチイーキュー）が用意されています。

FRONT:
センター、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせて補正します。

FLAT:
全てのスピーカーの周波数特性をフラットになるように補正します。

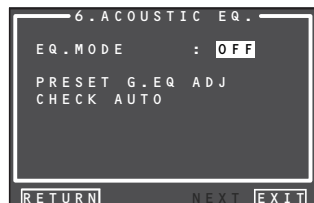
AUDYSSEY:
リスニングルームの音響特性を最適な環境に補正するようすべてのスピーカーの周波数特性を補正します。

PRESET:
PRESET MODEはユーザーがPRESET G.EQ機能を使用してお好みに合わせて調整することができるMODEです。
（PRESET G. EQ機能については49ページを参照してください）

OFF:
アコースチック イコライザーを使用しないときはOFFを選択します。

ご注意

• 「FRONT」、「FLAT」、「AUDYSSEY」のMultEQの設定値は自動測定の演算処理で決められるため、その値を変更（調整）することはできません。

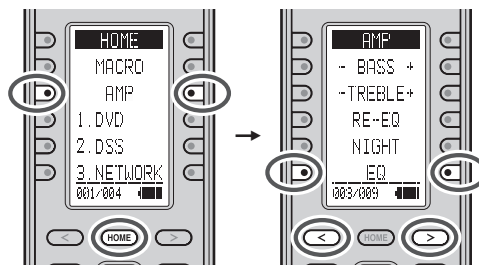
1. *カーソルボタン*▲ / ▼でMAIN MENUから「6. ACOUSTIC EQ」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。

2. *カーソルボタン*▲ / ▼で「EQ MODE」を選択します。

3. *カーソルボタン*◀ / ▶で「FRONT」、「FLAT」、「AUDYSSEY」、「PRESET」、「OFF」のいずれかを選択します。

アドバイス

• EQ MODEに「FRONT」、「FLAT」、「AUDYSSEY」を選択した時は、ディスプレイ表示部に「EQ」の表示がされます。

4. 設定が終わったら、*カーソルボタン*▲ / ▼ / ◀ / ▶でカーソルを「EXIT」に移動して*ENTER*ボタンを押して設定を終了します。

リモコン（RC2001）を使ってEQ MODEを切り替える場合、 リモコンをAMPモードに切り替え、003ページが表示されるまで< / >ボタンを押します。リモコン表示部にEQが表示されたら、**EQ**ボタンを押します。

このボタンを押す度にEQ MODEは以下のように切り替わります。

OFF → FRONT→ FLAT→ AUDYSSEY → PRESET

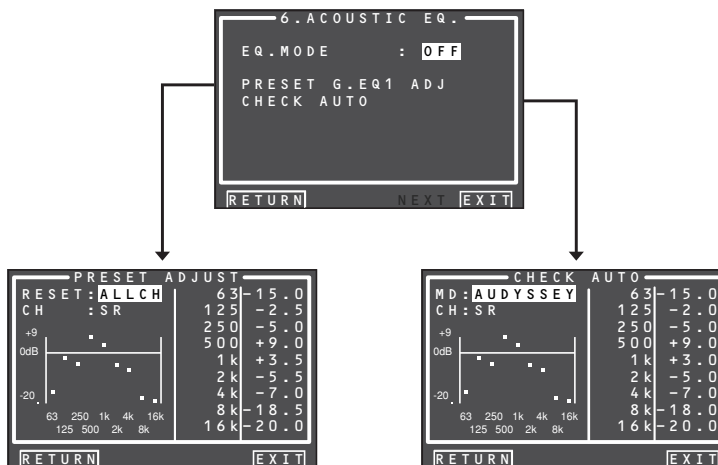
ご注意

• 「FRONT」、「FLAT」、「AUDYSSEY」 の各モードは、一度AUTO SETUP（オートセットアップ）を実行した後に選択ができるようになります。

• AUTO SETUP（オートセットアップ）の測定を行ったときに「NONE」に設定された、スピーカーをMANUAL SETUPで使用できるように設定し直した場合は、「FRONT」、「FLAT」、「AUDYSSEY」の各モードの選択はできなくなります。

• EQ MODEで選択した各イコライザーは、ピュアダイレクト、ソースダイレクト、7.1ch INPUTおよびドルビーヘッドホンおよびドルビーバーチャルスピーカーモードをご使用の際は無効になります。

• EQ MODEで選択した各イコライザーは、Dolby True HD、Dolby Digital PLUS、DTS-HD信号を再生中は無効になります。
この場合でもスピーカーオートセットアップで設定された内容（スピーカーの有無／距離／サイズ／チャンネルレベル／クロスオーバー）は有効です。

• EQ MODEが働いているときはトーンコントロールは無効になります。

6-1 PRESET G. EQ ADJ

7チャンネル（フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R）毎に9バンド（63Hz～16kHzの9ポイント）のグラフィックイコライザーを設定できます。

1. *カーソル*ボタン▲/▼でMAIN MENUから「6. ACOUSTIC EQ」を選択して、*ENTER*ボタンを押します。

2. 「PRESET G. EQ ADJ」を*カーソル*ボタン▲/▼で選択します。

3. *ENTER*ボタンを押して確定します。

RESET:

イコライザー設定をフラットに戻したいときに使用します。**カーソル**ボタンでリセットしたいチャンネルを選択し、次に***ENTER***ボタンを押して確定します。

「ALL」：すべてのチャンネル

「CH」：現在表示されているチャンネルのみ

CH:

調整するサラウンドチャンネル（FL, C, FR, SR, SBR, SBL, SL）を**カーソル**ボタン◀/▶で選択します。次に▼ボタンで補正モードに移行します。

補正する周波数:

補正したい周波数（グラフの上の）を**カーソル**ボタン◀/▶で選択します。***ENTER***ボタンを押して確定します。**カーソル**ボタン▲/▼でレベルを調整します。（レベルは、－20dB から＋9 dBの範囲で0.5 dB単位で調整できます。）***ENTER***ボタンを押して確定します。

◀/▶で次の周波数へ進み、レベル調整を再び行います。

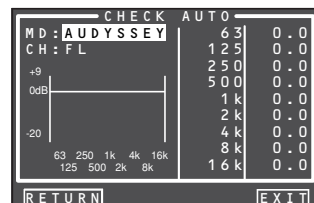
4. 各設定が終了したとき、*カーソル*ボタン▲/▼でカーソルを「RETURN」に移動し、*ENTER*ボタンを押します。

6-2 CHECK AUTO

オートセットアップの測定結果で設定されたMultEQを確認できます。

1. *カーソル*ボタン▲/▼でMAIN MENUから「6. ACOUSTIC EQ」を選択して、*ENTER*ボタンを押します。

2. 「CHECK AUTO」を*カーソル*ボタン▲/▼で選択します。

3. *ENTER*ボタンを押して確定します。

4. MD（モード）にカーソルを移動して*カーソル*ボタン◀/▶で確認したいMultEQカーブ（AUDYSSEY, FRONT FLAT）を選択します。

図は左から、グラフ、補正した周波数（Hz）、補正量（dB）です。

CH:

確認したいチャンネルを**カーソル**ボタン◀/▶で選択します。

5. *カーソル*ボタン▲/▼で「RETURN」を選択し、*ENTER*ボタンを押して「6. ACOUSTIC EQ.」に戻ります。

7 NETWORK SETUP

本機と接続されているネットワーク機器にある音楽、写真、動画ファイルを再生する機能に関する設定です。

ご注意

本機のNET WORKのトップページが選択されている時のみ設定を変更できます。

1. MAIN MENUから*カーソル*ボタン▲/▼で、「7.NETWORK SETUP」を選択し、*ENTER*ボタンを押します。

2. *カーソル*ボタン▲/▼で設定したいメニューを選択し、*ENTER*ボタンを押します。

VIDEO:

本機のカラー方式はNTSC固定です。

RESOLUTION:

カーソルボタン◀/▶で、NETWORK PLAYERでの映像信号の解像度（画素数）を下記の中から選択します。

"480i" ↔ "480p" ↔ "720p" ↔ "1080i" ↔ "AUTO" ↔ "480i"

- ビデオ/S-ビデオ出力をお使いの場合は480iに設定してください。

AUTO（初期値）:

HDMI接続されているテレビに適切な解像度に設定します。

（テレビとHDMI接続されていないときは480iで出力）

（DVIに変換して接続しているときは480pで出力）

480i:

480iで出力されます。

480p:

480pで出力されます。

720p:

720pで出力されます。

1080i:

1080iで出力されます。

ご注意

- AUTO設定時に、HDMI接続しているモニターを変更した場合、自動的にトップメニューに戻り、モニターに適切な解像度に変更されます。このとき、ダイアログやTOOLメニューが表示されていると、ダイアログやTOOLメニューを消す操作を行った後、解像度が変更されます。
- HDMI接続されたモニターをお使いの場合、NETWORK入力の時はRESOLUTIONで設定された解像度で出力されます。

SCREEN SAVER:

カーソルボタン◀/▶で、本機から出力する映像信号のスクリーンセーバーの"オン"または"オフ"を選択します。

ON（初期値）:

Network画面 および設定画面で10分間操作しなかった場合、テレビ画面はスクリーンセーバー状態になります。

OFF:

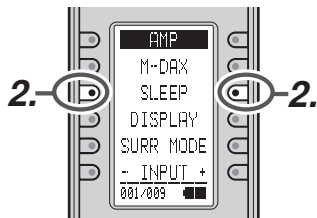
10分以上操作しなくても、スクリーンセーバー状態にはなりません。

応用操作

この章におけるリモコン操作は、リモコンの動作モードをAMPにした状態で動作します。

アンプ操作

スリープタイマーを使う

設定した時間になると自動的に電源がスタンバイ状態になる機能です。最大120分まで設定可能です。

1. **リモコンをAMPモードに切り替え、001ページが表示されるまで、< / >ボタンを押します。**

2. **リモコンの*SLEEP*ボタンを押します。押すごとに本機表示部の設定時間表示が下記のように変わります。**

3. **ご希望の時間を表示したら、数秒間お待ちください。スリープタイマーがセットされます。**
本機表示部内のSLEEPが点灯します。

4. **スリープタイマーを解除したい場合は、上記の手順*2.*と*3.*を行ってOFFを選択してください。**

ディスプレイモード

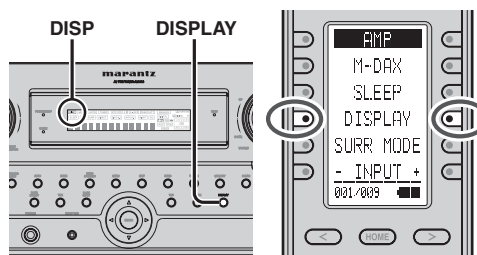
本機表示部の 表示動作モードを選択できます。

入力表示：
選択した入力ファンクション状態を表示します。

モード表示：
FUNCTION INPUT SETUP（35ページ参照）で設定した入力モードの状態を表示します。

サラウンド表示：
選択したサラウンドモード状態を表示します。

Auto Display Off：
本機の操作をしたときに、5秒間表示した後 消灯します。

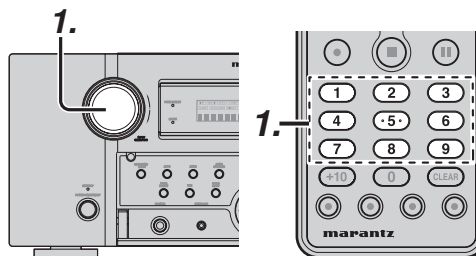
Display Off：
常に消灯した 状態です。

1. **本機の*DISPLAY*ボタンまたはリモコン*DISPLAY*ボタンを押します。**
これらのボタンを押すごとに、表示動作状態が順番に切り替わります。

ご注意

- Display Off状態では、本機表示部のDISP表示だけはこの機能が動作状態であることを表すために点灯します。

録音・録画をする

本機を操作して、記録用機器へ録音/録画することができます。このため本機はTAPE OUT、CD/CDR OUT、VCR1 OUT、DSS/VCR2 OUT端子を装備しています。

1. **本機のフロントパネルの*インプットセレクター*を押します。またはリモコンの*HOME*ボタンを押してから1～9の数字ボタンで録音する入力ソースを選択します。**

2. **TAPE OUT、CD/CDR OUT、VCR1 OUT、およびDSS/VCR2 OUT端子から選択した入力信号が録音/録画用として出力されます。**

3. **接続した記録用機器を録音/録画モードにし、録音/録画を開始します。**

ご注意

- デジタル信号入力だけの接続の場合、TAPE OUT、CD/CDR OUT、VCR1 OUT、およびDSS/VCR2 OUT端子への出力は得られません。録音機能を利用する場合は、アナログ信号入力の接続も行ってください。
- ビデオ信号入力からS-ビデオ信号出力への変換、およびS-ビデオ信号入力からビデオ信号出力への変換は行いません。必ず同一の入出力にてご利用ください。
- HDMI入力端子に入力される信号は録画/録音することはできません。

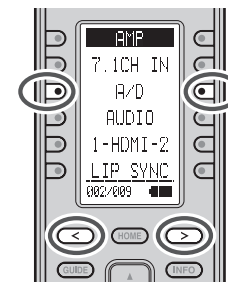
入力モード切り替え

デジタル入力を設定したファンクションを選んでいる場合、以下の入力モードを一時的に切り替えることが可能です。

Auto mode： 選択した入力機器に対してHDMIまたはデジタル入力端子に入力されているデジタル信号の有無を自動的に検出します。
（HDMI入力とデジタル入力が検出された時は、HDMI入力が優先されます）
デジタル信号が入力されていない場合はアナログ入力が自動的に選択されます。

HDMI mode： HDMI入力に固定されます。

Digital mode： デジタル入力に固定されます。

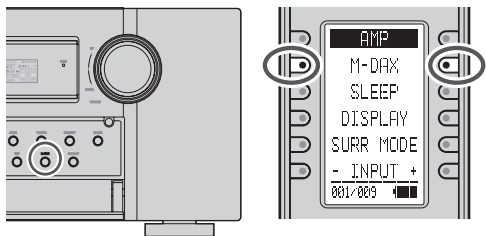
Analog mode： アナログ入力に固定されます。

1. **リモコンのAMPモードに切り替え、002ページが表示されるまで< / >ボタンを押します。その後、*A/D*ボタンを押します。**
ボタンを押すごとに、入力モードが順番に切り替わります。
Auto → HDMI → Digital → Analog → Auto

ご注意

- ここで選択した入力モードは一時的な設定です。入力ファンクションを切り替えたり、スタンバイにした後は、セットアップメニューで設定した入力設定に戻ります。

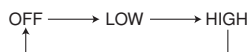
M-DAX
（Marantz Dynamic Audio eXpander）

再生中のMP3やAACファイルなどの非可逆圧縮によって失われた音域成分を補う機能です。
お好みに合わせて効果のレベルを下記のように切り替えることができます。

"HIGH"： 強めの効果
"LOW"： 弱めの効果
"OFF"： 機能しない

（本機で操作する場合）

本機の***M-DAX***ボタンを押します。

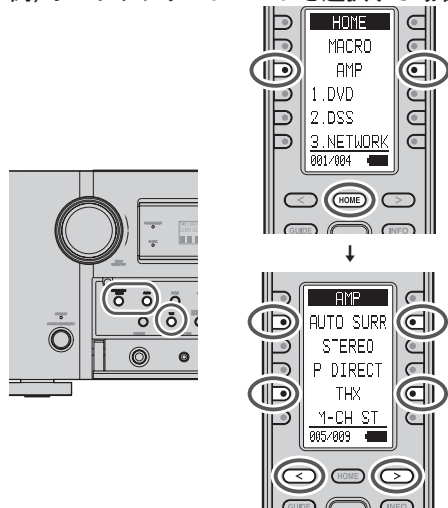
（リモコンで操作する場合）

リモコンをAMPモードに切り替え、001ページが表示されるまで、＜/＞ボタンを押しますその後、***M-DAX***ボタンを押します。
これらのボタンを押す毎に、M-DAX機能は以下のように切り替わります。

ご注意

- M-DAX機能は48kHz以下のPCMおよび2chアナログソースに対応しています。
- M-DAX機能が働いているときはトーンコントロールは無効になります。
- M-DAX機能は、ドルビーバーチャルスピーカーモードが選択されているときは使用できません。

サラウンドモードの選択

入力ファンクションを選んだ後は、ご希望のサラウンドモードを選択します。
各サラウンドモードについては79ページのサラウンドモードの項を参照してください。

例）オートサラウンドモードを選択する場合。

（本機で操作する場合）

本機の***AUTO***ボタンを押してオートサラウンドモードを選択します。

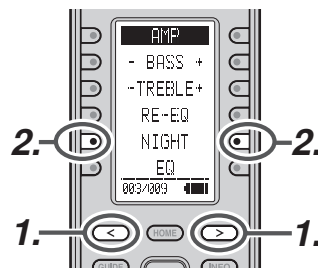
（リモコンで操作する場合）

リモコンをAMPモードに切り替え、005ページが表示されるまで＜/＞ボタンを押します。その後、***AUTO SURR***ボタンを押してオートサラウンドモードを選択します。
オートサラウンドモードにTHXモードを付加したい場合は本機またはリモコンの***THX***ボタンを押します。
（他のサラウンドモードを選択する場合は、リモコンでご希望のサラウンドモードボタンを押して選択するか、本機の***SURROUND MODE***ボタンを押して選択します。）

ダイアログ・ノーマライゼーション・メッセージについて

ダイアログ・ノーマライゼーション（Dial Norm）はドルビーデジタルの機能です。ドルビーデジタルでエンコードされたソフトウェアを再生する時、フロントパネルに「D-NORM X dB」（Xは数値）という短いメッセージが表示されることがあります。ダイアログ・ノーマライゼーション機能は、再生中のソフトウェアが特定の出力基準レベルより高いレベルで録音されているか、低いレベルで録音されているかを表示し、基準レベルに自動的に合わせてどのソフトウェアでも同一に感じる音量レベルで再生する機能です。

ナイトモード

夜間などに再生音のダイナミックレンジを抑えて、全体の音量を上げずに小さな音声を聞きやすくすることができます。
ナイトモードはドルビーデジタル音声に対してのみ効果があります。

1. **リモコンをAMPモードに切り替え、003ページが表示されるまで＜/＞ボタンを押します。**
2. ***NIGHT*****ボタンを押すごとにAUTO、ON、OFFにナイトモードが切り替わります。**

AUTO：

`N I G H T   A U T O`

Dolby TrueHDソフトに含まれている信号を検出して、自動的にナイトモードをONにするかOFFにするか選択します。Dolby TrueHD以外のドルビーデジタル音声ではナイトモードはオフになります。

ON：

`N I G H T   O N`

ナイトモード機能をオンにします。

OFF：

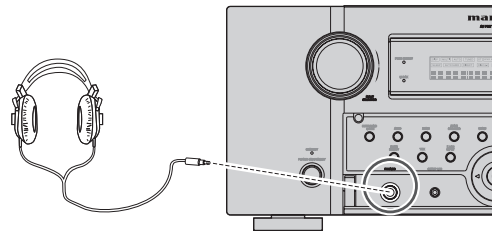
`N I G H T   O F F`

ナイトモード機能をオフにします。

- ナイトモード機能が働いているときは本機表示部内のNIGHTが点灯します。
- ピュアダイレクト、ソースダイレクト、7.1CH INPUT機能を選択しているときはナイトモードはオフになります。

ヘッドホンで聞く

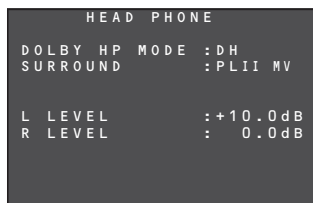
ヘッドホン（PHONES）端子は、本機をヘッドホンで聴く場合に使用します。標準ステレオプラグヘッドホンをご使用ください。
ヘッドホン端子を使用しているときは、スピーカーが自動的にオフになります。

ご注意

ヘッドホンを端子から外すと、サラウンドモードは以前の設定に戻ります。

> **⚠警 告**
> **ヘッドホンの音量が大きすぎると、耳を傷めることがあります。音量が大きくなりすぎないように注意してください。**

ドルビーヘッドホン・モード

ドルビーヘッドホンモードは、スピーカーで再生したときの波形を再現することにより、通常のヘッドホンでマルチチャンネルサラウンド音声を楽しむことができます。2chステレオ音声を再生時には前方のスピーカーから聴こえるような効果があります。ヘッドホンを使用すると、***MENU***ボタンは自動的にドルビーヘッドホン・モードに切り替わります。

MENUボタンを押したときに表示されるOSDメニューは次のとおりです。

DOLBY HP（ヘッドホン）モードは左右のカーソルボタンで選択できます。

BYPASS → DH → BYPASS

BYPASS: ドルビーヘッドホン・モードにはならず、通常の2chステレオ音声を出力します。

DH: ドルビーヘッドホン・モード。

ピュアダイレクトおよびソースダイレクトモードを選択したときはドルビーサラウンド処理が省略され、モード・表示には「***」が表示されます。

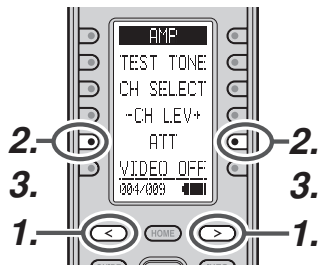
ドルビーヘッドホン・モードがオンのときは、サラウンドモードを選択できます。

「L/R LEVEL」は± 12 dBの範囲で設定できます。

ご注意:

- ヘッドホンを端子から外すと、サラウンドモードは以前の設定に戻ります。
- ドルビーヘッドホン・モードがオンのときは、トーンコントロールおよびACOUSTIC EQは設定することはできません。

アッテネート機能

アナログ信号入力を本機にて再生しているとき、本機表示部のPEAK表示が点灯する場合があります。これは、本機の内部処理に対して入力信号レベルが大きすぎることを意味します。このときアッテネート機能によってアナログ入力信号レベルを減衰させることができます。

- この機能は、アナログ入力が選択されている場合に有効です。
- この機能は、各入力ファンクションごとにメモリーされます。例えば、CDを選択しアッテネート機能を設定して、他の入力に切り替えた後、再びCDを選択したときに、アッテネート機能は有効になっています。

1. **リモコンをAMPモードに切り替え、004ページが表示されるまで< / >ボタンを押します。**

2. **リモコンの*ATT*ボタンを押します。**

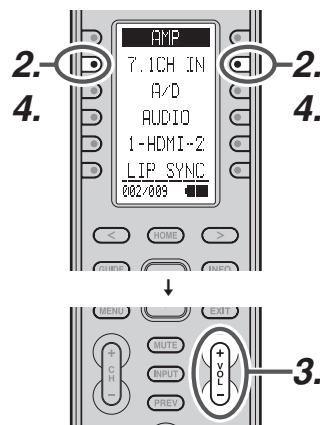
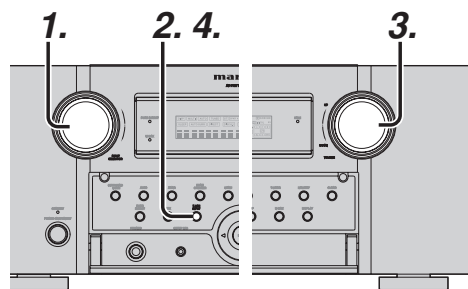
本機表示部のATT表示が点灯し、動作状態を表します。アナログ入力信号レベルがおよそ半分に減衰されます。

3. **アッテネート機能を解除したい場合は、再度*ATT*ボタンを押します。**

ATT表示が消えます。アナログ入力信号レベルがもとに戻ります。

7.1CH INPUT

マルチチャンネルスーパーオーディオCDプレーヤーやDVD-Audioプレーヤーなどのマルチチャンネル信号に対応するための7.1chの外部入力端子が搭載されています。これらの入力信号は内部サラウンド処理をバイパスしてボリュームコントロールを通過した後、プリアウト端子へ出力されます。

この機能が働いているときは、入力ファンクションを切り替えることができません。この機能に合わせて楽しみたいビデオ系の入力ファンクションを選択してから***7.1CH INPUT***ボタンを押してください。

1. **本機またはリモコンでご希望のビデオソース（入力ファンクション）を選択します。**

2. **本機またはリモコンの*7.1CH INPUT*（*7.1CH IN*）ボタンを押します。**

7.1CH INPUTの各チャンネルの音量バランスを調整したい場合はSETUP MENUの "7.1CH INPUT LEVEL"を選択して、調整してください。（35ページ参照）

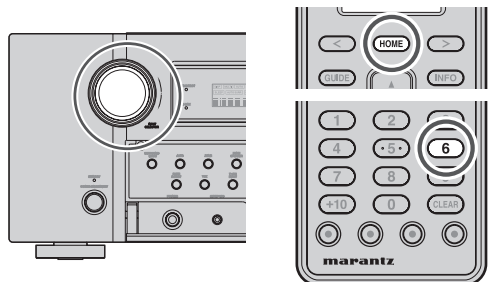
3. **本機のVOLUMEつまみを回すか、リモコンの*VOL*（＋）、（ー）ボタンを押して、全体の音量をお好みのレベルに合わせてください。**

4. **7.1CH INPUTを解除する場合は、再度本機またはリモコンの*7.1CH INPUT*（*7.1CH IN*）ボタンを押します。**

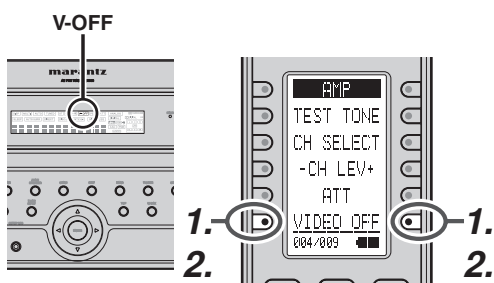
ご注意

- 7.1CH INPUTを選択しているとき、サラウンドモードは選択できません。また7.1CH INPUTを選択しているときは、録音出力端子には信号は出力されません。

AUX入力

7.1CH-INPUT機能を使用しない場合、7.1CH入力端子のFRONT L/R入力をAUX入力端子としても使用可能です。この場合、他のオーディオ入力端子(CD, TUNERなど)と同様にサラウンドモードの選択、トーンコントロール、Tape-Out、VCR-outなどを機能させることができます。

1. **本機のインプットセレクターでAUXを選択します。またはリモコンの*HOME*ボタンを押し、数字の"6"ボタンを押してAUXを選択します。**

V-OFF(ビデオ出力OFF)機能

この機能は、各映像出力端子(ビデオ、Sビデオ、コンポーネントビデオ、HDMI)の出力を停止します。

1. **リモコンをAMPモードに切り替え、004ページが表示されるまで</>ボタンを押します。その後*VIDEO OFF*ボタンを押します。**
本機表示部のV-OFF表示が点灯し、動作状態を表します。

2. **ビデオ出力OFFを解除したいときは、再度*VIDEO OFF*ボタンを押します。**

ご注意

- ビデオオフ状態が選択されていてもOSDメニューを選択した場合はメニュー画面が出力されます。

テレビオート機能(TV-AUTO)

本機をテレビと連動させて、自動的に電源を入れたり、スタンバイにすることができます。テレビの電源を入れると本機の電源が入り、テレビの電源を切ると本機は5分後にスタンバイになります。

1. **この機能を使う場合は、OSDメニューシステムの4. VIDEO SETUPにてTV-AUTO:ENABLEの設定を行ってください。****(45ページ参照)**

2. **テレビ側のビデオ信号出力端子と本機のテレビ用ビデオ信号入力端子を接続します。**

3. **電源ON状態からスタンバイになる動作は、本機の入力ファンクションをTVに設定したときのみ有効です。**

ご注意

- 本機能はスタンバイ状態に入った後10秒後より有効となります。
- STANDBY MODE(スタンバイモード)をECONOMYに設定している場合、この機能は働きません。本機能を使用する場合はSTANDBY MODEをNORMALに設定してください。
- 本機能は、S-VIDEO、COMPONENT VIDEO、HDMIの入力端子には対応しておりません。ご利用の際は必ずVIDEO入力端子を使用してください。

LIP.SYNC(リップ・シンク)機能

接続する映像機器によっては、映像信号の処理がオーディオ信号に対して時間差があるものがあります。
この差は、ほんのわずかですが映画や音楽を楽しむ上ではとても重要です。
LIP.SYNC機能は、オーディオ信号を遅らせて映像との時間差を調整します。操作はリモコンAMPモード002ページの***LIP.SYNC***ボタンと**カーソル**の左右ボタンで行います。リモコンはAMPモードにしてから操作を行ってください。初期値はOFF(0ms)で、最大200msまで10msステップで調整できます。ディスプレィやプロジェクター等の映像機器で映像を確認しながら調整してください。

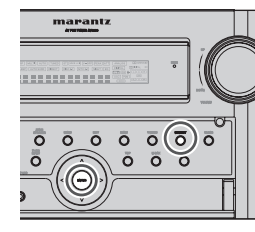
ご注意

- この機能はソースダイレクトまたはピュアダイレクトモードまたは7.1CH INPUTではOFF(0ms)になります。ソースダイレクトまたはピュアダイレクトモードまたは7.1CH INPUTが解除されると設定した値に戻ります。
- HDMI 1.3aのオートリップシンク機能に対応したTVやプロジェクターを本機に接続した場合、自動的に映像と音声を同期させることができます。この機能の操作については46ページを参照してください。

デュアルバックアップメモリー機能

本機は電源を切った状態でも設定した各種内容を内部の不揮発メモリーに記憶しています。
デュアルバックアップメモリー機能は記憶した内容をさらに別のメモリーエリアに書き込み、ユーザーが残したい設定をバックアップし、いつでもその設定を呼び出すことができます。

●バックアップ

1. **本機を記憶させたい状態にし設定してフロントパネル上の*MEMORY*と*ENTER*ボタンを同時に3秒以上押し続けます。**

FLディスプレイに

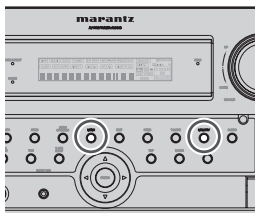
`M E M O R Y  S A V I N G`

と表示され、本機の設定が記憶されます。この記憶された内容は、再度デュアルバックアップメモリー機能を使って設定の上書きがされるまで残すことができます。

- 以下の設定値はバックアップされません。
  - メインゾーンのボリューム
  - ゾーンのボリューム
  - ゾーンスピーカーのボリューム

●メモリー呼出機能

バックアップした設定は次の操作で呼び出せます。

1. **フロントパネル上の*MEMORY*と*MENU*ボタンを同時に3秒以上押し続けます。**

FLディスプレイに

```
MEMORY LOAD
```

と表示されて記憶した設定状態に本機を再設定します。

この時本機は一度スタンバイ状態になります。

また、バックアップデータが存在しない場合はFLディスプレイに

```
NO BACKUP
```

と表示されてバックアップのリカバリーは行われません。

- 以下の設定値はバックアップされないため、各ボリュームの値は初期値の状態になります。
  - メインゾーンのボリューム
  - ゾーンのボリューム
  - ゾーンスピーカーのボリューム

ビデオコンバート機能

●アナログビデオコンバートについて

本機のモニター出力には映像信号のコンバート機能を装備しています。

このため再生機器と本機の映像入力端子（ビデオ、S-ビデオ、コンポーネント）との接続方法に関わらず、本機モニター出力端子とモニター間の接続方法については、より高品位な接続方法のケーブルを1本繋ぐだけで視聴できます。

（設定のしかたについては45ページを参照）

●アナログビデオ信号から HDMI へのアップコンバート

本機のアップコンバート機能は入力されたアナログビデオ信号（コンポーネントビデオ信号の解像度が480i､480p､720p､1080iのとき､またはSビデオおよびビデオのビデオ信号のとき）をHDMI出力端子に出力することができます。

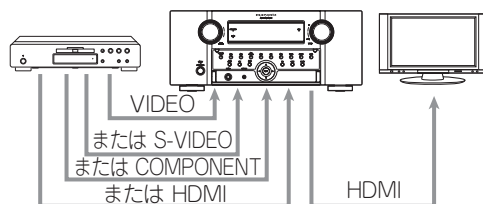
（設定のしかたについては45ページを参照）

ご注意

- この機能は､録画用ビデオ出力端子には働きません。
- この機能は、スチル、早送り、逆再生等では、正常に再生されないことがあります。
- ビデオコンバート機能は、ご使用になるテレビ、プロジェクター等によっては同期ずれ等の不具合が発生する場合があります。

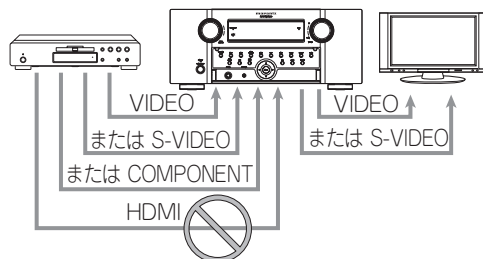
  このような場合はビデオコンバートの機能をOFFにしてご使用ください。
- この機能は常にビデオ入力信号を監視しており、入力されている信号に合わせてコンバートをするかしないかを決めています。しかし、入力されるビデオ信号によっては正確な検知ができないこともあります。
- 最高のビデオ品質を得るために、THXはビデオコンバート機能をOFFにすることを推奨しています。

接続例

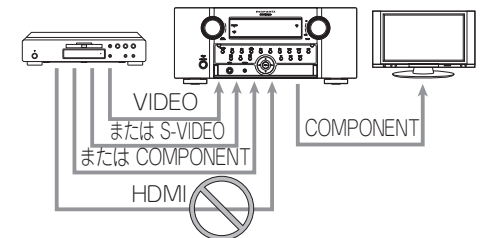
- モニターを本機のHDMIモニター端子に接続した場合

ご注意

- 再生機器から入力されるコンポーネントビデオ信号の解像度が480i、480p、720p、1080i以外のときは本機のHDMIモニター端子から映像出力されません。

- モニターを本機のVIDEOまたはS-VIDEOモニター端子に接続した場合

ご注意

- 再生機器から入力されるHDMIビデオ信号は本機のVIDEO, S-VIDEOモニター端子から出力されません。
- 再生機器から入力されるコンポーネントビデオ信号が480i以外のときは本機のVIDEO, S-VIDEOモニター端子から出力されません。

- モニターを本機のCOMPONENT VIDEOモニター端子に接続した場合

ご注意

- 再生機器から入力されるHDMIビデオ信号は本機のCOMPONENT VIDEOモニター端子から出力されません。

OSDメニューシステムについて

- OSDメニューシステムは全ての映像端子（ビデオ、S-ビデオ、コンポーネント、HDMI）に出力されます。
- OSDインフォメーションはVIDEOまたはS-VIDEOのモニター出力端子にのみ出力されます。

  本機のVIDEOまたはS-VIDEOの入力端子に入力された映像信号をビデオコンバートし､COMPONENT VIDEOまたはHDMIの出力端子から出力した場合は､OSDインフォメーションが出力されます。

コンポーネントI/P機能

本機のVIDEO回路にはI/Pコンバート機能が装備されています。

この機能をオンすることで、再生機器から入力されるアナログビデオ信号（ビデオ、S-ビデオ、コンポーネントビデオ）の480iを480pにコンバートして本機のCOMPONENT VIDEO出力端子にプログレッシブ出力することができます。

（設定のしかたについては45ページを参照してください）

HDMI解像度

入力したアナログ映像信号をビデオコンバージョン機能によってHDMIへ出力するときの、解像度を設定します。480i信号は480p､1080i､720p､1080p信号へ､480p信号は1080i､720p､1080p信号へ変換できます。HDMI出力1、出力2に対して、出力解像度を設定できます。

ご注意

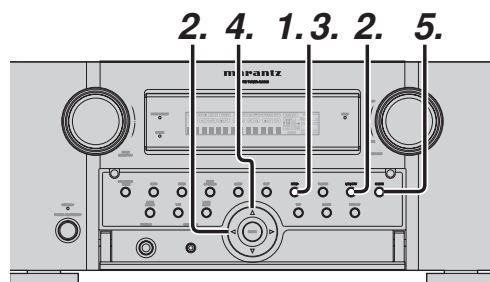
- 1080i、720pまたは1080p信号に対応していないモニターと接続する場合は、1080i、720pまたは1080pに設定しないでください。SETUPMENUが表示されません。SETUP MENUが表示されない場合は、本体表示部を見ながら設定を変更してください。
- 720p 信号を1080i、1080p信号に、1080i信号を1080p信号に変換することはできません。

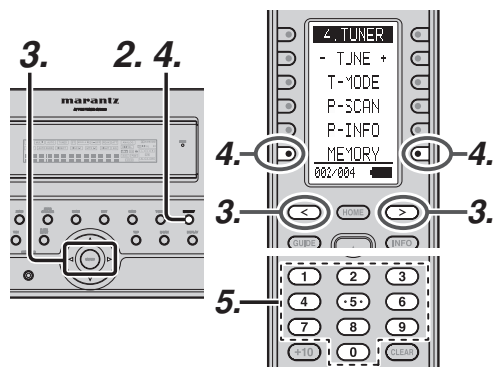
  720pおよび1080i信号をコンポーネントビデオ入力した場合は同じ解像度でHDMI出力されます。（HDMI解像度設定は無効になります。）
- コンポーネントビデオ出力の解像度は変更できません。
- HDMI出力1､出力2は同時出力できません。

チューナー操作(プリセットメモリ)

AM/FM の放送局がお好きな順序で60局までプリセットできます。
それぞれの放送局について、必要に応じて周波数と受信モードおよび放送局名(英数)を記憶させることができます。

オートプリセットメモリ

この機能によって、AM バンドと FM バンドを自動的にスキャンして、適切な電波強度のあるすべての放送局をメモリに記録します。

1. FM を選択する場合は、フロントパネルの*BAND* ボタンを押し、FM を選択します。
2. *MEMORY* ボタンを押しながらカーソルボタン◀を押します。
   表示部に「AUTO PRESET」と表示され、最も低い周波数からスキャンが開始されます。
3. チューナーが放送局を受信するたびに、スキャンが停止しその放送局を 5 秒間受信します。
   BAND ボタンを押すと、バンドを変更できます。
4. 現在の放送局を Preset 01 に記憶したいときは、ボタンを押さずにそのままにしています。
   現在の放送局をスキップしたい場合は、この間に▲を押します。
   この放送局はスキップされ、オートプリセットが継続されます。
5. 60個すべてのプリセットメモリが設定されたとき、またはオートスキャンがバンドの上限に達したときは、スキャンは自動的に停止されます。
   オートプリセットメモリを停止したい場合は、*CLEAR* ボタンを押してください。

マニュアルプリセットメモリ

(本機で設定する場合)

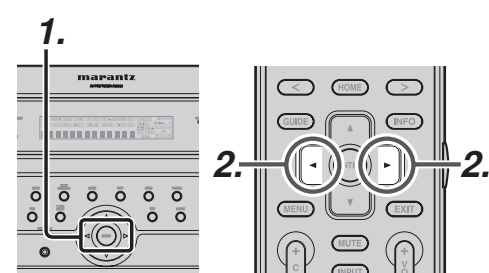
1. 設定したい放送局に周波数を合わせます。(「マニュアルチューニング」または「オートチューニング」参照)
2. フロントパネルの*MEMORY* ボタンを押します。
   表示部で「ーー」(プリセット番号) が点滅を始めます。
3. 点滅している間に ◀または▶を押して、プリセット番号を選択します(約5秒間)。
4. もう1度*MEMORY* ボタンを押して確定します。
   表示部の点滅が止まります。
   この放送局がご指定のプリセットメモリに保存されました。

(リモコンで設定する場合)

1. 設定したい放送局に周波数を合わせます。(「マニュアルチューニング」または「オートチューニング」参照)
2. リモコンを TUNER モードに切り替えます
3. 002 ページが表示されるまで< / >ボタンを押します。
4. リモコンの*MEMORY* ボタンを押します。表示部で「ーー」(プリセット番号) が点滅を開始します。
5. *数字キー*を押して、設定したいプリセット番号を入力します。

ご注意

- 一桁の数値(例えば、2) を入力するときは「0」「2」と入力するか「2」と入力して数秒間待ちます。

プリセット局の呼出

(本機で選択する場合)

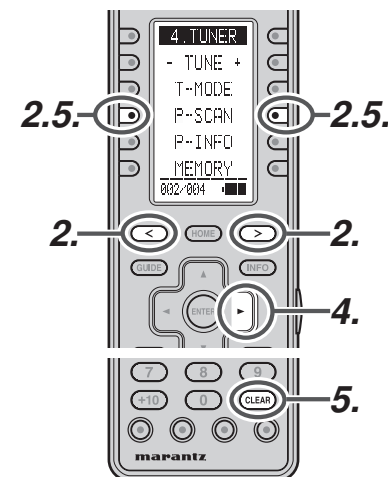
1. フロントパネルの◀または▶ボタンを押して呼び出したいプリセット局を選択します。

(リモコンで選択する場合)

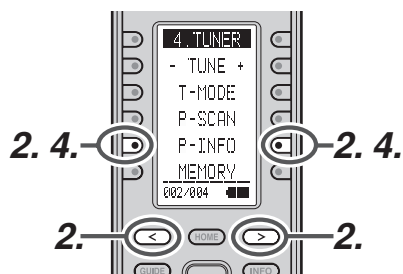
1. リモコンを TUNER モードに切り替えます。
2. リモコンの◀または▶を押して呼び出したいプリセット局を選択するか、または数字キーで呼び出したいプリセット番号を入力します。

アドバイス

- リモコンの TUNER モードの CH +/ーボタンを使っても◀/▶と同様の操作ができます。

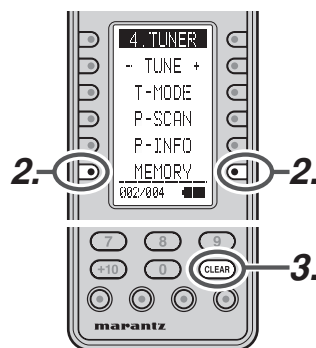
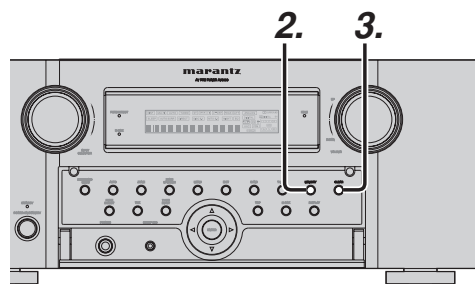
プリセット局のスキャン

1. リモコンを TUNER モードに切り替えます。
2. 002 ページが表示されるまで< / >ボタンを押し、*P-SCAN* ボタンを押します。
   表示部に「PRESET SCAN」と表示され、小さい番号のプリセット局が最初に呼び出されます。
3. プリセット局が順番に呼び出され(No.1 → No.2 → No.3 ......)、1 局ごとに10秒間表示されます。
4. ▶ボタンを押すと、プリセット局を早送りできます。
5. 聴きたいプリセット局が受信できたら、*CLEAR* または*P-SCAN* ボタンを押してプリセット・スキャン操作を停止します。

プリセット局のリスト表示

本機にメモリーされている放送局を、モニターへ一覧表示することができます。

1. リモコンをTUNERモードに切り替えます。
2. 002ページが表示されるまで< / >ボタンを押し、*P-INFO* ボタンを押します。
3. 次のようにプリセットされた放送局の一覧表示を本機に接続されたモニターTVへOSD表示します。

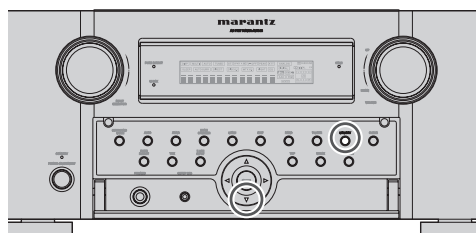
4. リスト表示は画面上に10局まで表示されます。プリセットした放送局が10局以上ある場合はもう一度リモコンの*P-INFO* ボタンを押して次のページを表示させます。
   リスト表示は操作後５秒後に自動的に消えます。

プリセット局の削除

プリセット局をメモリから削除します。

1. 削除したいプリセット番号を呼び出します。（「プリセット局の呼出」参照）
2. フロントパネルまたはリモコンの *MEMORY* ボタンを押します。
3. 保存されているプリセット番号が表示部に５秒間点滅します。点滅している間に、フロントパネルの *CLEAR* ボタンを押すか、またはリモコンの *CLEAR* を押します。
4. 表示部に「xx CLEAR」と表示され、指定したプリセット番号が削除されたことが示されます。

アドバイス

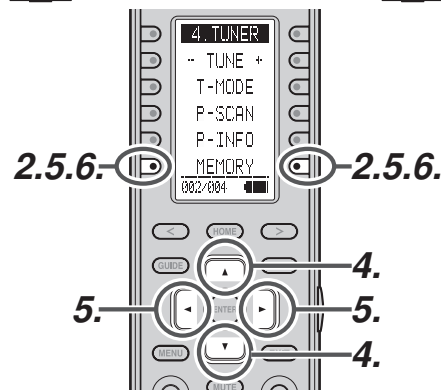
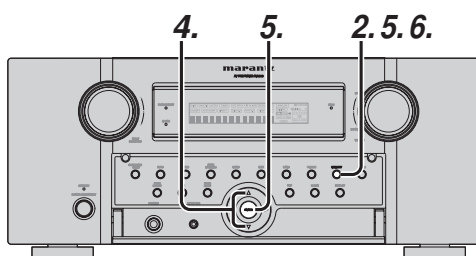
- 保存されているプリセット局すべてを削除するには、本機の***CLEAR***ボタンと***ENTER***ボタンを同時に２秒間押します。

プリセット局の番号の並びかえ

記憶させた放送局番号が連続していない（例えば以下のように放送局が保存されている）場合

1）　78.0 MHz
2）　80.0 MHz
3）　82.5 MHz
10）　84.7 MHz

（4から9にはプリセットされた放送局がないので、プリセット10を4としてプリセットすることができます。）
番号をソートするには、*MEMORY* ボタンを押しながら▼ボタンを押します。
表示部に「**PRESET SORT**」と表示され、ソートが完了しました。

プリセット局名の入力

各プリセット局の名前を、英数字を使用して入力できます。
名前を入力する前に、プリセットメモリ操作によってプリセット局を保存してください。

1. 名前を付けたいプリセット番号を呼び出します。（「プリセット局の呼出」参照）
2. フロントパネルまたはリモコンの*MEMORY* ボタンを3秒以上押します。
3. 放送局名インジケーターの左端が点滅して、文字入力が可能なことを示します。
4. フロントパネルのカーソルボタン▲ / ▼またはリモコンの▲または▼ボタンを押すと、アルファベットと数字が以下の順序で表示されます。

   A ⇔ B ⇔ C ... Z ⇔ 1 ⇔ 2 ⇔ 3 ..... 0 ⇔ – ⇔ ＋ ⇔ / ⇔（空白） ⇔ A

   UP →

   ← DOWN

   文字を消去するには、*CLEAR* ボタンを押すか、リモコンの*CLEAR* を押します。

アドバイス

- リモコンの数字キーを使用して文字入力を行うこともできます。
  この場合は次の表を参照してください。

数字キー	画面表示
1	A → B → C → 1 → A
2	D → E → F → 2 → D
3	G → H → I → 3 → G
4	J → K → L → 4 → J
5	M → N → O → 5 → M
6	P → Q → R → 6 → P
7	S → T → U → 7 → S
8	V → W → X → 8 → V
9	Y → Z → space → 9 → Y
0	– → ＋ → / → 0

5. 入力する最初の文字を選択したら、フロントパネルの*MEMORY* ボタンを押すか*ENTER* ボタン、またはリモコンの*MEMORY* ボタンを押します。
   入力が確定したら、次のカラムが点滅を開始します。次のカラムも同じ方法で入力します。
   設定する文字を変更するには、◀または▶を押してください。

アドバイス

- 空白部分にはスペースを入力してください。

6. 名前を保存するときは、フロントパネルの*MEMORY* ボタン、またはリモコンの*MEMORY* ボタンを2秒以上押します。

ゾーンシステム

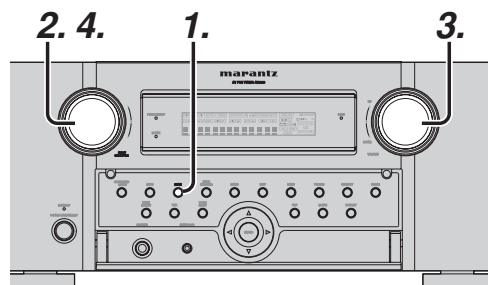
ゾーンシステム機能は、本機の設置場所（メインゾーン）以外の部屋でメインゾーンと同じ、もしくは異なるソースを聴くことができます。

ゾーンシステムをご使用になる場合は、30ページの接続図の例のように、音声はZONE OUTの音声出力端子A、BからゾーンA、B用のアンプに接続します。

ビデオ出力（ZONE OUT）端子は、ゾーン用のモニター出力端子に接続します。
（ゾーンビデオ出力はゾーンAのソースセレクターに連動します。）

メインゾーンでサラウンドバックスピーカーまたは、SPEAKER C（詳細は28ページを参照）をご使用になられない場合は、サラウンドバック用のプリアウト端子を使用した、ゾーンスピーカーシステムを使用することができます。
また、COMPONENT VIDEO出力2をゾーンA用の出力として使うこともできます。

本機はソース・セレクター、OSDメニューシステム、スリープ・タイマー、リモートコントロールなどのゾーンシステム機能に対応しています。

ゾーン出力端子を使用したゾーン再生

1. 本機の*ZONE*ボタンを1回押すとゾーンA、2回押すとゾーンBのソースとボリュームの設定になります。
   表示部の「MULTI」インジケーターが点灯します。
2. *INPUT SELECTOR*つまみで入力ソースを選択します。
   ゾーンAを選択したときの表示

   `Z A   D V D      – 9 0 d B`

   ゾーンBを選択したときの表示

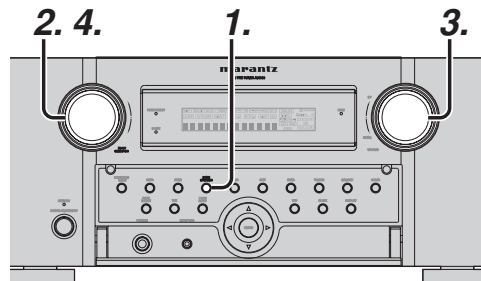
   `Z B   D V D      – 9 0 d B`

3. ボリュームつまみを回してゾーンの音量をお好みに応じて調整します。
4. ゾーン機能をOFFしたいときは、*INPUT SELECTOR*つまみを回すかカーソルボタン◀ / ▶を押してOFFを選択します。

アドバイス

- OSDメニューシステムを使用して設定を行うことも可能です。（47ページ参照）

サラウンドバックプリアウト端子を使用したゾーン再生

本機はスピーカーをもう1セット接続して、音楽視聴用の別の部屋や独立した場所に配置することができます。

1. 本機の*ZONE SREAKER*ボタンを1回押すとゾーンスピーカーA、2回押すとゾーンスピーカーBのソースとボリュームの設定になります。
   このとき表示部の「MULTI」インジケーターも点灯します。
2. *INPUT SELECTOR*つまみで入力ソースを選択します。
   ゾーンスピーカーAを選択したときの表示

   `Z S A   D V D    – 9 0 d B`

   ゾーンスピーカーBを選択したときの表示

   `Z S B   D V D    – 9 0 d B`

3. ボリュームつまみを回してゾーンの音量をお好みに応じて調整します。
4. ゾーンスピーカー機能をOFFしたいときは、*INPUT SELECTOR*つまみを回すかカーソルボタン◀ / ▶を押してOFFを選択します。

ゾーン・スピーカーについて

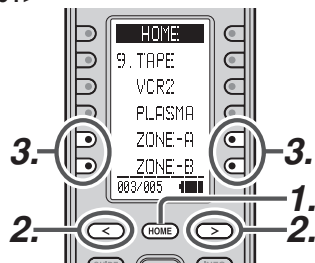
- ゾーンスピーカーモードではAまたはBのどちらか1つのみ選択することができます。
- SPEAKER SETUPメニューで「SURR. B」（サラウンドバックスピーカー）が「NONE」、「ZSP A」または「ZSP B」に設定されているときは、サラウンドバック用のプリアウト端子をゾーンスピーカー用に使用することができます。（41ページ、SPEAKERSETUP参照）
- SPEAKER SETUP メニューで「SURR. B」（サラウンドバックスピーカー）が「NONE」、「ZSP A」または「ZSP B」に設定されていない場合は、***ZONE SPEAKER***ボタンを押すと「The Surr. Back Speakers are in use」（サラウンドバックスピーカーを使用中です）と表示されます。（41ページ、SPEAKER SETUP参照）
- ゾーンスピーカー・モードは、SPEAKER Cと同時にはご使用いただけません。ゾーン用の接続をする場合は、リアパネルのSPEAKER CスイッチをOFFにしてください。
- サラウンドバックスピーカーでZSP AまたはZSP Bを設定し、ゾーンスピーカーモードにしておくと（P.41）マルチゾーン用リモコン（RC101）のソースボタンを押すだけで自動的にゾーンスピーカー機能をONすることができます。

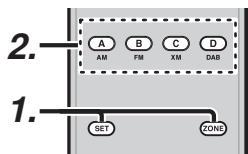
別室からのゾーン機能の操作

外付けのIRレシーバーや赤外線受光部のあるマランツ製品などを本機に接続することにより、本機の設置されていないゾーンからでも、RC2001またはマルチゾーンリモコンRC101を使ってマルチゾーンの機能を操作することができます。（30ページ参照）

●リモコンをゾーンAまたはBを操作するモードにする

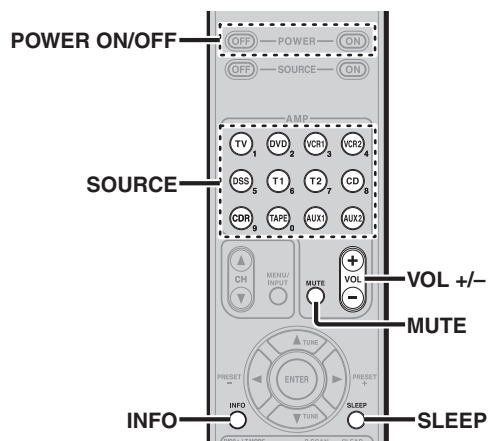
リモコンを使うゾーンの設定を行うことで、ゾーンAまたはBの入力ソースの切り替えやゾーン機能のオン/オフなどの操作ができるようになります。

<RC2001>

1. リモコンの*HOME*ボタンを押します。
2. 003ページが表示されるまで</>ボタンを押します。
3. *ZONE-A*または*ZONE-B*ボタンを押します。

<RC101>
ゾーンAモード（初期設定時）
ゾーンBモード
ゾーンCモード
（本機ではこのゾーンは使用しません）
ゾーンDモード：メインゾーン（本機の設置してある部屋）

1. （ここでは例としてゾーンAを操作するモードに変更します。）

   *SET*ボタンと*ZONE*ボタンを送信表示が2回点滅するまで同時に長押しします。バックライトが点灯します。

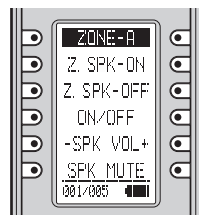
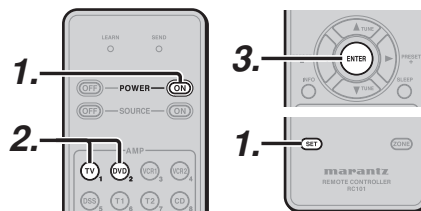
2. ゾーンボタンAを押します。設定が完了すると送信表示が2回点滅します。

   以下のボタンはゾーンA専用のボタンになります。ゾーンからは音量調整、スリープタイマー、ミュート、入力ファンクションの選択を行うことが可能です。

2.の操作でゾーンボタンBを押すとゾーンBを操作するモードに変更します。ゾーンボタンDを押すとメインゾーンを操作するモードに変更します。

ご注意

- メインゾーンでチューナー（FMまたはAM）を使用していて、ゾーンでも入力ファンクションにチューナーを選択している場合、ゾーンからチューナーの一切の操作はできません。メインゾーンと同じ放送局のみ聞くことが可能です。
- ゾーン出力はアナログのみです。デジタル入力の信号には対応しません。

●ゾーンスピーカーの操作

<RC2001>
リモコンを ZONE-AまたはZONE-Bモードに切り替えます。
リモコンの1ページ目で、ゾーンスピーカーの操作をすることができます。

<RC101>
ゾーンAまたはゾーンBに設定したRC101をゾーンスピーカー機能のコントロール用に切り替えることができます。

1. （ここでは例としてゾーン用の設定をゾーンスピーカー用の設定に切り替えます。）

   *SET*ボタンと*POWER ON*ボタンを送信表示が2回点滅するまで同時に長押しします。

   バックライトが点滅し続けます。

2. 数字キー2を押します。

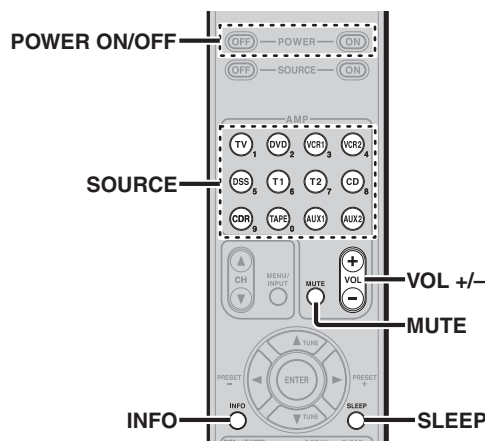
   ゾーンモード：1（初期設定）

   ゾーンスピーカーモード：2

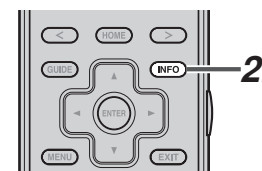
ご注意

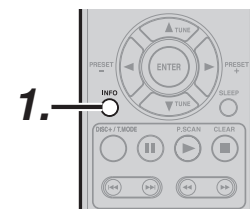
- ゾーン用の設定に戻すには2.で数字キー1を押します
- ゾーンDモード設定時はメインゾーンの操作のみが可能です。

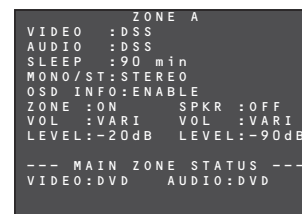
3. *ENTER*ボタンを押します。設定が完了すると送信表示が2回点滅します。

   以下のボタンは設定したゾーンモードまたはゾーンスピーカーモードの専用のボタンになります。

●ゾーンモニターへのOSDインフォメーションの表示

ゾーン用のビデオ出力（ZONE OUT）端子に接続したTVモニターにゾーンAの設定状況を表示させることができます。

<RC2001>

1. リモコンをZONE-Aモードに切り替えます。
2. *INFO*ボタンを押します。

<RC101>

1. INFOボタンを押します。

   ゾーンモニターへOSDインフォメーションが表示されます。

ご注意

メインゾーンでOSDを表示しているときはゾーンモニターにはOSDを表示することはできません。

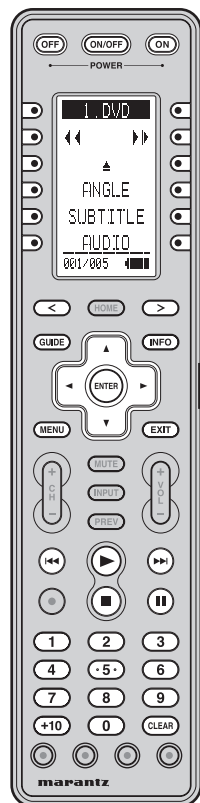
RC2001 でマランツ製機器を操作する

付属のリモコンRC2001は、初期設定状態でマランツ製品の基本操作を行なうことができます。

1. リモコンを操作したいソース機器のモードに切り替えます。

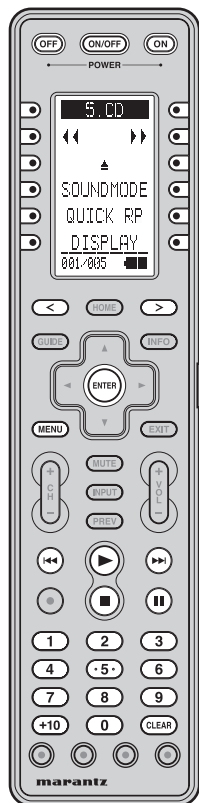
2. 各操作ボタンを押してソース機器を操作します。

- 各ソース機器の詳細な操作については各ソース機器の取扱説明書を参照して下さい。
- 一部のソース機器は本リモコンから操作できないことがあります。
- すべての操作ボタンに対してソース機器側で対応しているわけではありません。

DVDモード

SOURCE ON/OFF	DVD プレイヤーの電源オン/スタンバイ
POWER ON	DVD プレイヤーの電源オン
POWER OFF	DVD プレイヤーのスタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンを HOME モードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
GUIDE	トップメニュー画面を表示します
INFO	OSD の表示
カーソル	カーソルを移動します
ENTER	選択した項目を決定します
MENU	メニュー画面を表示します
EXIT	メニューに戻る
▶	再生
⏮ / ⏭	チャプタ / トラックの移動
■	停止
⏸	一時停止
0-9, +10	数字の入力
CLEAR	各種入力の取消し

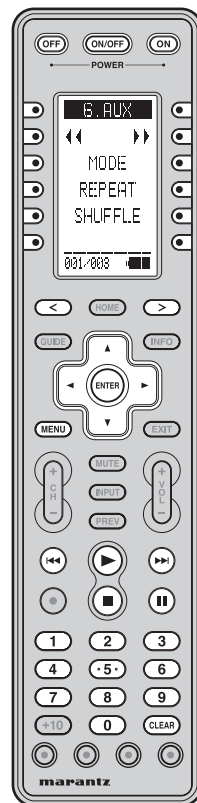
ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	1.DVD	DVD ファンクションの選択
	◀◀ / ▶▶	(左)早戻し* (右)早送り*
	⏏	ディスクトレーの開閉
	ANGLE	カメラアングルの切り替え
	SUBTITLE	字幕言語の選択
	AUDIO	音声言語の選択
2	1.DVD	DVD ファンクションの選択
	ZOOM	ズームモードのオン/オフ
	SETUP	セットアップメニューの選択
	VIDEO ADJ	ビデオアジャスト
	V ON/OFF	ビデオ オン/オフ
	DIMMER	ディスプレイを暗くします
3	1.DVD	DVD ファンクションの選択
	PROGRAM	プログラム再生
	REPEAT	リピート再生
	A-B	A-B間リピート再生
	RANDOM	ランダム再生
	COND MEMO	ディスクの設定を保存します
4	1.DVD	DVD ファンクションの選択
	SOUNDMODE	SACD のレイヤー切り替え
	SEARCH	サーチモードを切り替えます
	SCAN	スキャンモードを開始
	PAGE	DVD-Audio でのページ切り替え
	HDMI	HDMI の解像度を変更します
5	1.DVD	DVD ファンクションの選択
	DISC SKIP	DVD チェンジャーで次のディスクを選択*
	1-DISC-2	(左)DVD チェンジャーでディスク1を選択* (右)DVD チェンジャーでディスク2を選択*
	3-DISC-4	(左)DVD チェンジャーでディスク3を選択* (右)DVD チェンジャーでディスク4を選択*
	5-DISC-	(左)DVD チェンジャーでディスク5を選択*

CDモード

SOURCE ON/OFF	CD プレイヤーの電源オン/スタンバイ
POWER ON	CD プレイヤーの電源オン
POWER OFF	CD プレイヤーのスタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンを HOME モードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
ENTER	選択した項目を決定します
MENU	メニューの呼び出し
▶	再生
⏮ / ⏭	トラックの移動
■	停止
⏸	一時停止
0-9, +10	数字の入力
CLEAR	各種入力の取消し

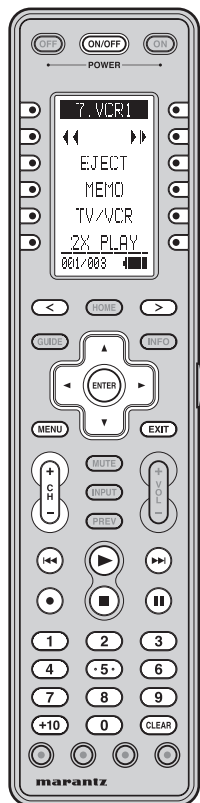
ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	5.CD	CD/R ファンクションの選択
	◀◀ / ▶▶	(左)早戻し* (右)早送り*
	⏏	ディスクトレーの開閉
	SOUNDMODE	再生モードの選択
	QUICK RP	クイックリプレイ機能
	DISPLAY	表示窓を消灯する
2	5.CD	CD/R ファンクションの選択
	PROGRAM	プログラム再生
	RANDOM	ランダム再生
	REPEAT	リピート再生
	A-B	A-B間リピート再生
	INTRO SCN	AMS機能
3	5.CD	CD/R ファンクションの選択
	EDIT	プログラムをエディットします
	TEXT	テキスト表示
	TIME	時間表示
	SCROLL	テキスト表示のスクロール
	DIG OUT	デジタルアウトのオン/オフ
4	5.CD	CD/R ファンクションの選択
	NEXT DISC	CD チェンジャーで次のディスクを選択
	PREV DISC	CD チェンジャーで前のディスクを選択
	1-DISC-2	(左)CD チェンジャーでディスク1を選択* (右)CD チェンジャーでディスク2を選択*
	3-DISC-4	(左)CD チェンジャーでディスク3を選択* (右)CD チェンジャーでディスク4を選択*
	5-DISC-	(左)CD チェンジャーでディスク5を選択*
5	5.CD	CD/R ファンクションの選択
	- PITCH +	ピッチコントロールの設定*
	PITCH RST	ピッチコントロールのリセット

AUXモード（マランツユニバーサルドックのコントロール）

SOURCE ON/OFF	ユニバーサルドックの電源オン/スタンバイ
POWER ON	ユニバーサルドックの電源オン
POWER OFF	ユニバーサルドックのスタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンを HOME モードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
カーソル	カーソルを移動します
ENTER	選択した項目を決定します
MENU	メニューの呼び出し
▶	再生
⏮ / ⏭	トラックの移動
■	停止
⏸	一時停止
0-9	数字の入力
CLEAR	各種入力の取消し

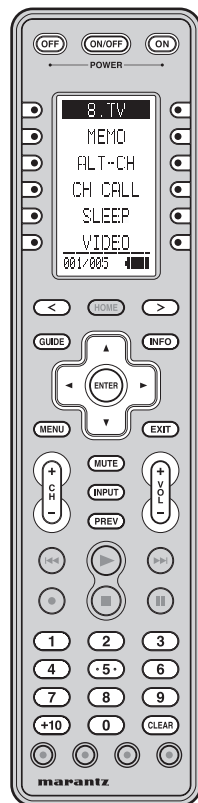
ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	6.AUX	AUX ファンクションの選択
	◀◀ / ▶▶	(左)早戻し* (右)早送り*
	MODE	ユーザーインターフェースの変更
	REPEAT	リピート再生
	SHUFFLE	シャッフル再生
2	6.AUX	AUX ファンクションの選択
	ARTIST	アーティストのソート
	ALBUM	アルバムのソート
	SONGS	曲のソート
	GENRE	ジャンルのソート
	COMPOSER	作曲者のソート
3	6.AUX	AUX ファンクションの選択
	PLAYLSIT	プレイリストのソート
	PODCAST	PODCAST のソート
	AUDIOBOOK	AUDIO BOOK のソート

VCR1モード

SOURCE ON/OFF	VCR1の電源オン/スタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンをHOMEモードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
カーソル	カーソルを移動します
ENTER	選択した項目を決定します
MENU	メニューの呼び出し
EXIT	メニューから抜ける
CH + / -	VCRのチャンネル選択
▶	再生
⏮ / ⏭	インデックスサーチ
●	録画
■	停止
❚❚	一時停止
0-9, +10	VCRのチャンネル切り替え /数字の入力
CLEAR	各種入力の取消し

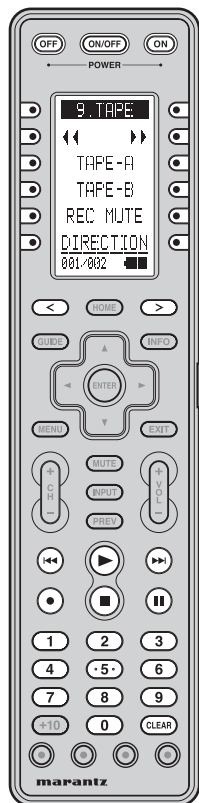
ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	7.VCR1	VCR1ファンクションの選択
	◀◀ / ▶▶	(左)巻き戻し* (右)早送り*
	EJECT	テープの取り出し
	MEMO	オートRECリターン機能
	TV/VCR	TVとVCRの切り替え
	2 x PLAY	2倍速再生
2	7.VCR1	VCR1ファンクションの選択
	SLOW	スロー再生
	STILL	ポーズ/コマ送り
	OTR	ワンタッチ録画
	AUDIO	オーディオモードの選択
	SKIP	CMスキップ
3	7.VCR1	VCR1ファンクションの選択
	VIS+	インデックスサーチ
	VIS-	

TVモード

SOURCE ON/OFF	TVの電源オン/スタンバイ
POWER ON	TVの電源オン
POWER OFF	TVの電源スタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンをHOMEモードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
GUIDE	テレビメニューを表示
INFO	OSDの表示
カーソル	カーソルを移動します
ENTER	選択した項目を決定します
MENU	メニューの呼び出し
EXIT	メニューから抜ける
MUTE	一時的に音声出力停止及び解除
INPUT	入力の切り替え
PREV	ラストチャンネル機能
VOL +/-	ボリュームの調整
CH +/-	チャンネルの選択
0-9, +10	TVのチャンネル切り替え /数字の入力
CLEAR	各種入力の取り消し

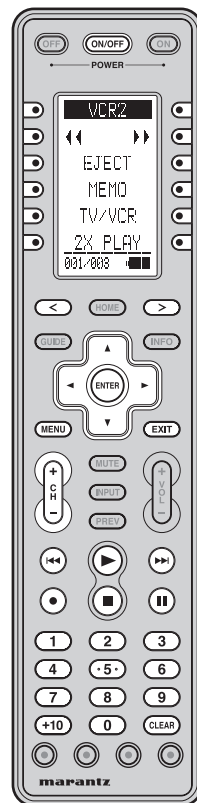
ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	8.TV	TVファンクションの選択
	MEMO	プログラムの呼び出し
	ALT-CH	ラストチャンネル機能
	CH CALL	チャンネルコールのオン/オフ
	SLEEP	スリープタイマー
	VIDEO	VIDEO入力の選択
2	8.TV	TVファンクションの選択
	S-VIDEO	S-VIDEO入力の選択
	1 COMP 2	(左)コンポーネント1入力の選択* (右)コンポーネント入力2の選択*
	RGB	RGB入力の選択
	HDMI/DVI	HDMI/DVI入力の選択
	HDMI2	HDMI2入力の選択
3	8.TV	TVファンクションの選択
	ASPECT	アスペクト比の選択
	ZOOM	アスペクト ズーム
	NORMAL	アスペクト ノーマル
	THROUGH	アスペクト スルー
	FULL	アスペクト フル
4	8.TV	TVファンクションの選択
	STANDARD	スタンダードモードの選択
	THEATER	シアターモードの選択
	DYNAMIC	ダイナミックモードeの選択
	CINEMA	シネマモードの選択
	PATTERN	パターン オン/オフ
5	8.TV	TVファンクションの選択
	LIGHT	リアパネルライト オン/オフ
	VMUTE ON	ビデオミュートオン
	VMUTE OFF	ビデオミュートオフ

TAPEモード

SOURCE ON/OFF	テープデッキの電源オン/スタンバイ
POWER ON	テープデッキの電源オン
POWER OFF	テープデッキの電源スタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンをHOMEモードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
▶	再生
⏮ / ⏭	ミュージックサーチ
●	録音
■	停止
⏸	一時停止
0-9	数字の入力
CLEAR	各種入力の取消し

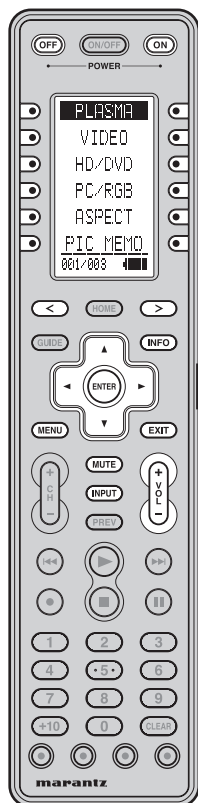
ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	9.TAPE	TAPEファンクションの選択
	◀◀ / ▶▶	(左)巻き戻し* (右)早送り*
	TAPE-A	デッキA選択
	TAPE-B	デッキB選択
	REC MUTE	録音時に空白を入れます
	DIRECTION	オートリバース機能オン
2	9.TAPE	TAPEファンクションの選択
	COUNT RST	カウンターリセット
	AMS	AMS機能
	BLANKSKIP	ブランクをスキップします
	TIME	時間表示
	TRAY	テープの取り出し

VCR2モード

SOURCE ON/OFF	VCR2の電源オン/スタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンをHOMEモードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
カーソル	カーソルを移動します
ENTER	選択した項目を決定します
MENU	メニューの呼び出し
EXIT	メニューから抜ける
CH + / -	VCRのチャンネル選択
▶	再生
⏮ / ⏭	インデックスサーチ
●	録画
■	停止
⏸	一時停止
0-9, +10	VCRのチャンネル切り替え/数字の入力
CLEAR	各種入力の取消し

ソフトボタン一覧表

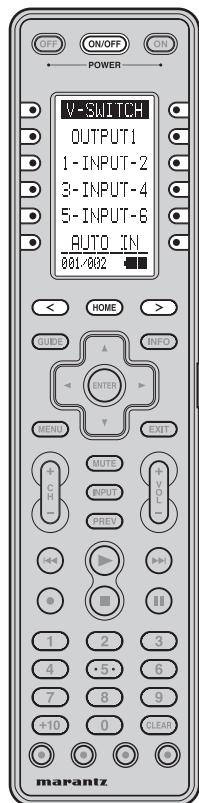
ページ	コマンド	操作
1	7.VCR2	DSSファンクションの選択
	◀◀ / ▶▶	(左)巻き戻し* (右)早送り*
	EJECT	テープの取り出し
	MEMO	オートRECリターン機能
	TV/VCR	TVとVCRの切り替え
	2 x PLAY	2倍速再生
2	7.VCR2	DSSファンクションの選択
	SLOW	スロー再生
	STILL	ポーズ/コマ送り
	OTR	ワンタッチ録画
	AUDIO	オーディオモードの選択
	SKIP	CMスキップ
3	7.VCR2	DSSファンクションの選択
	VIS+	インデックスサーチ
	VIS-	

PLASMAモード

POWER ON	プラズマの電源オン
POWER OFF	プラズマのスタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンをHOMEモードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
INFO	OSDの表示
カーソル	カーソルを移動します
ENTER	選択した項目を決定します
MENU	メニューの呼び出し
EXIT	メニューから抜ける
MUTE	一時的に音声出力停止及び解除
INPUT	入力の切り替え
VOL +/-	プラズマの音量調節

ソフトボタン一覧表

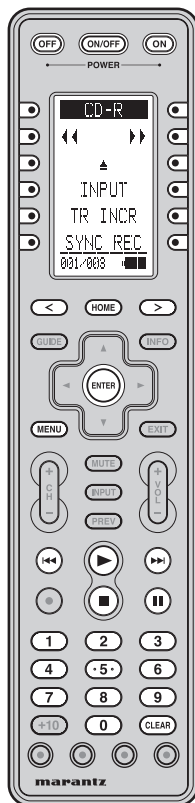
ページ	コマンド	操作
1	PLASMA	TVファンクションの選択
	VIDEO	ビデオ入力の選択
	HD/DVD	HD/DVD入力の選択
	PC/RGB	RGB入力の選択
	ASPECT	アスペクトの選択
	PIC MEMO	ピクチャーメモリーの選択
2	PLASMA	TVファンクションの選択
	COLOR TEMP	カラーテンプ
	PIC MODE	ピクチャーモード
	AUTO ADJ	オートアジャストオン
	CONTRAST	コントラスト調節
	BRIGHT	ブライト調節
3	PLASMA	TVファンクションの選択
	- CONT +	コントラスト調節*
	-BRIGHT+	ブライト調節*
	-SHARP+	シャープ調節*
	-COLOR+	カラー調節*
	- TINT +	ティント調節*
4	PLASMA	TVファンクションの選択
	POP ON	サイドバイサイドオン
	PIP ON	ピクチャーインピクチャーオン
	SINGLE	PIP/POP オフ
5	PLASMA	TVファンクションの選択
	ID SELECT	IDセレクト
	M SCREEN	マルチスクリーンディスプレイオン
	ID CLEAR	IDクリアー
	ACTIV SEL	アクティブスクリーン選択
	1-VIDEO-2	(左)VIDEO1入力の選択*
		(右)VIDEO2入力の選択*
6	PLASMA	TVファンクションの選択
	3-VIDEO-	(左)VIDEO3入力の選択*
	1DVD/HD2	(左)HD/DVD1入力の選択*
		(右)HD/DVD2入力の選択*
	3DVD/HD4	(左)HD/DVD3入力の選択*
		(右)HD/DVD4入力の選択*
	1PC/RGB2	(左)RGB1入力の選択*
		(右)RGB2入力の選択*
	3PC/RGB	(左)RGB3入力の選択*

ページ	コマンド	操作
7	PLASMA	TVファンクションの選択
	NORMAL	アスペクト ノーマル
	FULL	アスペクト フル
	STADIUM	アスペクト スタジアム
	ZOOM	アスペクト ズーム
	14:9	アスペクト 14：9
8	PLASMA	TVファンクションの選択
	2.35:1	アスペクト 2.35：1
	NORMAL	ピクチャーモードノーマル
	1THEATER2	(左)ピクチャーモード シアター1*
		(右)ピクチャーモード シアター2*
	DEFAULT	ピクチャーモード デフォルト
	BRIGHT	ピクチャーモード ブライト

V-SWITCHモード

SOURCE ON/OFF	ビデオスイッチの電源オン/スタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンをHOMEモードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます

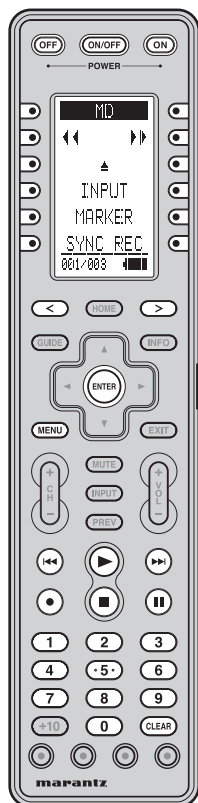
ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	V-SWITCH	
	OUTPUT1	出力1を選択
	1-INPUT-2	(左)入力1、出力1を選択* (右)入力2、出力1を選択*
	3-INPUT-4	(左)入力3、出力1を選択* (右)入力4、出力1を選択*
	5-INPUT-6	(左)入力5、出力1を選択* (右)入力6、出力1を選択*
	AUTO IN	オートインプット機能ON
2	V-SWITCH	
	OUTPUT2	出力2を選択
	1-INPUT-2	(左)入力1、出力2を選択* (右)入力2、出力2を選択*
	3-INPUT-4	(左)入力3、出力2を選択* (右)入力4、出力2を選択*
	5-INPUT-6	(左)入力5、出力2を選択* (右)入力6、出力2を選択*
	AUTO IN	オートインプット機能ON

CD-Rモード

SOURCE ON/OFF	CD-Rプレーヤーの電源オン/スタンバイ
POWER ON	CD-Rプレーヤーの電源オン
POWER OFF	CD-Rプレーヤーのスタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンをHOMEモードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
ENTER	選択した項目を決定します
MENU	メニューの呼び出し
▶	再生
⏮ / ⏭	トラックの移動
●	録音
■	停止
❚❚	一時停止
0-9	数字の入力
CLEAR	各種入力の取消し

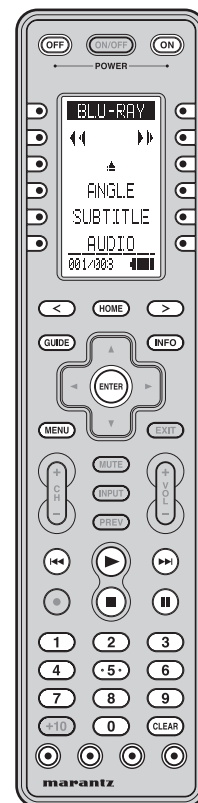
ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	CD-R	CD/Rファンクションの選択
	◀◀ / ▶▶	(左)早戻し* (右)早送り*
	⏏	ディスクトレーの開閉
	INPUT	入力ソースの選択
	TR INCR	トラックインクリメントの実行
	SYNC REC	シンクロ録音機能
2	CD-R	CD/Rファンクションの選択
	PROGRAM	プログラム再生
	RANDOM	ランダム再生
	REPEAT	リピート再生
	A-B	A-B間リピート再生
	INTRO SCN	AMS機能
3	CD-R	CD/Rファンクションの選択
	DISPLAY	表示窓を消灯する
	BLANK	ブランク録音の実行
	SCROLL	テキスト表示のスクロール

MDモード

SOURCE ON/OFF	MD デッキの電源オン / スタンバイ
POWER ON	MD デッキの電源オン
POWER OFF	MD デッキのスタンバイ
ソフトボタン	下記のソフトボタン一覧表をご覧ください
HOME	リモコンを HOME モードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
ENTER	選択した項目を決定します
MENU	メニューの呼び出し
▶	再生
⏮ / ⏭	トラックの移動
●	録音
■	停止
⏸	一時停止
0-9	数字の入力
CLEAR	各種入力の取消し

ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	MD	
	◀◀ / ▶▶	(左)早戻し* (右)早送り*
	⏏	ディスクの取り出し
	INPUT	入力ソースの選択
	MARKER	オートマーカー選択
	SYNC REC	シンクロ録音機能
2	MD	
	PROGRAM	プログラム再生
	RANDOM	ランダム再生
	REPEAT	リピート再生
	EDIT	EDIT モード
	SP/LP	SP/LP 選択
3	MD	
	TIME	時間モード
	CHAR	文字モード

BLU-RAYモード

POWER ON	BD プレーヤーの電源オン / スタンバイ
POWER OFF	BD プレーヤーの電源オン
ソフトボタン	BD プレーヤーのスタンバイ
HOME	リモコンを HOME モードに変更します
< / >	リモコンのページを切り替えます
GUIDE	トップメニューに移動します
INFO	OSD の表示
カーソル	カーソルを移動します
ENTER	選択した項目を決定します
MENU	メニュー画面を表示します
EXIT	メニューから抜ける
▶	再生
⏮ / ⏭	チャプタ / トラックの移動
■	停止
⏸	一時停止
0-9	数字の入力
CLEAR	各種入力の取消し
BLUE, RED, GREEN, YELLOW	BD メニューで使用します

ご注意

BD8003 で BLUE, RED, GREEN, YELLOW ボタンが正しく動作しない場合は、ラーニングをしてご使用ください。

ソフトボタン一覧表

ページ	コマンド	操作
1	BLU-RAY	
	◀◀ / ▶▶	(左)早戻し* (右)早送り*
	⏏	ディスクトレーの開閉
	ANGLE	カメラアングルの切り替え
	SUBTITLE	字幕言語の選択
	AUDIO	音声言語の選択
2	BLU-RAY	
	ZOOM	ズームモードのオン / オフ
	SET UP	セットアップメニューの選択
	MODE	各種モードを選択します
	P-DIRECT	ピュアダイレクトモード
	DIMMER	表示窓を暗くします
3	BLU-RAY	
	SEARCH	サーチモードを切り替えます
	REPEAT	リピート再生
	A-B	A-B間リピート再生
	RANDOM	ランダム再生

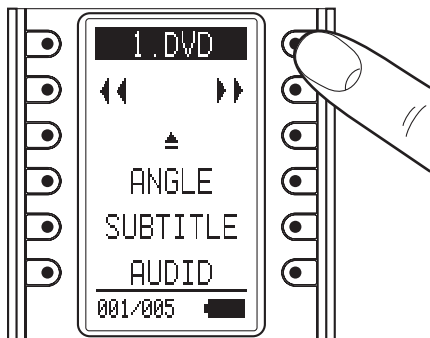
RC2001 基本操作

RC2001の基本操作手順を以下に示します。

1. *HOME* ボタンを押して RC2001 の HOME モードに入ります。
2. 操作したいソース機器を選択します。
3. 各操作ボタンを押してソース機器を操作します。
4. 別の機器を操作するには、HOME モードに戻って別の機器を選択します。

リモコンRC2001は、初期設定状態でマランツ製品の基本操作ができるようになっています。また、機器名の横にあるボタンには本機のファンクションを切り替えるコードが割り当てられています。

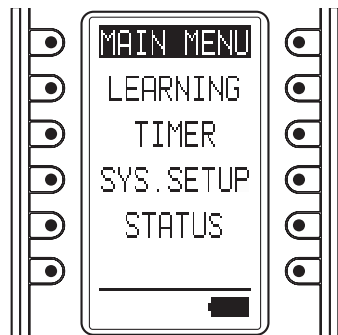
例：

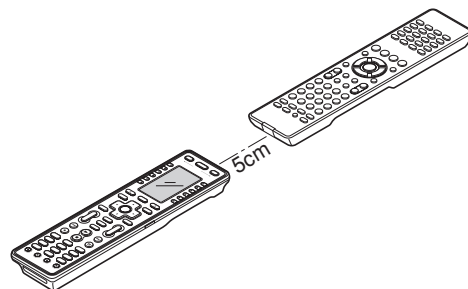
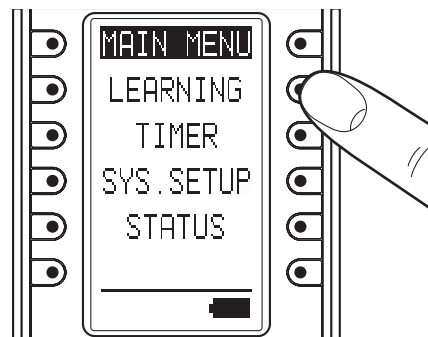
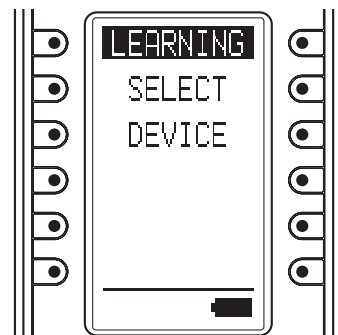
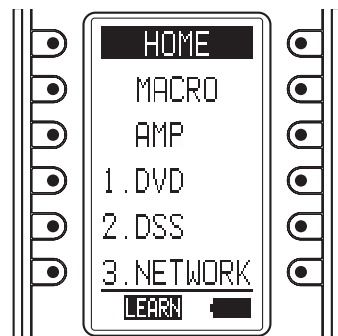
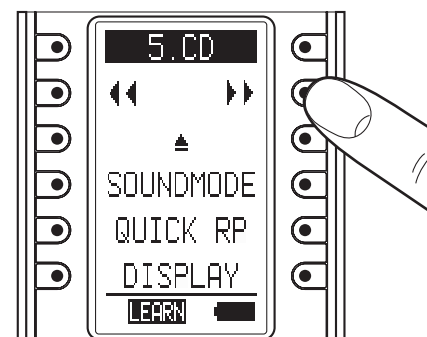
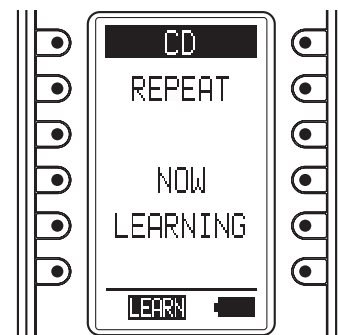
リモコンをDVDモードに切り替え、LCDディスプレイの最初の行に表示される1.DVD表示の横にあるボタンを押すと、本機をDVDファンクションに変更するコマンドが送信されます。

本機をDVDファンクションに切り替える

RC2001 メインメニュー

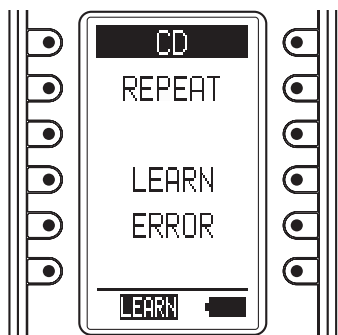
リモコンの様々な設定の変更はメインメニューで行います。

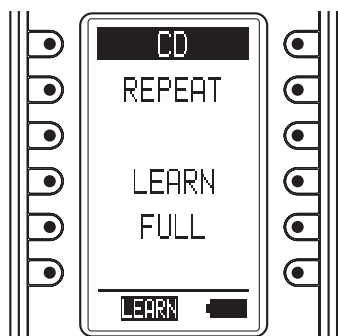
メインメニューに入る

1. *HOME* ボタンを押して RC2001 の HOME モードに入ります。
2. *HOME* ボタンと *MENU* ボタンを同時に 3 秒間押し続けると、LCD に MAIN MENU が表示されます。

1. LEARN（学習）

1. RC2001 の受光部（頭部）とラーニングさせたいリモコンの送信部（頭部）を約 5cm 離してまっすぐに置きます。

2. RC2001 のメインメニューに入り、LEARNING の横にあるボタンを押します。

3. 次のような画面が表示されます。*ENTER* ボタンを押すか、3 秒間待ってください。

4. 画面が HOME モードに変わります。コマンドを学習させたい機器名の横にあるボタンを押してください。

5. 機器名を選択したら、コマンドを学習させたいボタンを押します。

6. これで学習スタンバイ・モードに入ります。コマンドを学習させたいリモコンのボタンを押し、コードを送信します。リモコンの LCD に LEARN OK と表示されるまでボタンを押し続けます。

7. LCD に LEARN OK と表示されると、リモコンの学習は完了です。
   - *ENTER* ボタンを押すと同じ機器モードの他のボタンで学習コマンドを継続することができます。
   - 学習モードが完了したら、*HOME* ボタンを3回押してLCDをMAIN MENUに戻してください。

ご注意

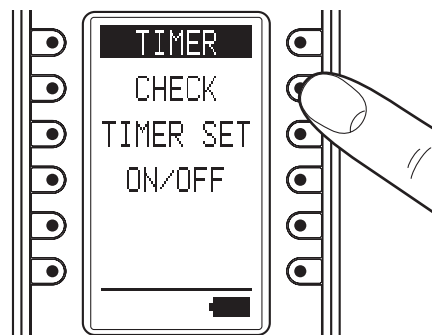
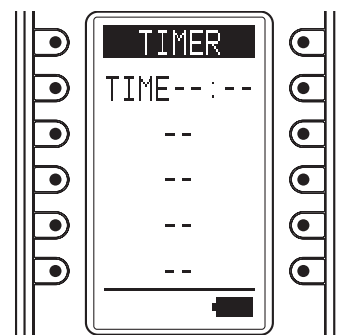
• 学習が完了しなかった場合はLCDにLEARN ERRORと表示されます。ステップ5～6をもう一度やり直してください。

• 学習設定を行う際に、LCDにLEARN ERRORメッセージが繰り返し表示されることがあります。学習させたいリモコンが特殊なリモートコードを送信するとこのような状態になる場合があります。特殊なリモートコードの場合、学習を行うことはできません。

• RC2001は最大で1,000個のリモートコードを学習できます。学習で1,000個のコードが記憶されるとLCDにLEARNFULLと表示され、これ以上学習を行うことはできなくなります。

2. タイマー

RC2001のタイマー機能で、プログラムした時間にプリセットしたリモコン・コマンドを送信することができます。

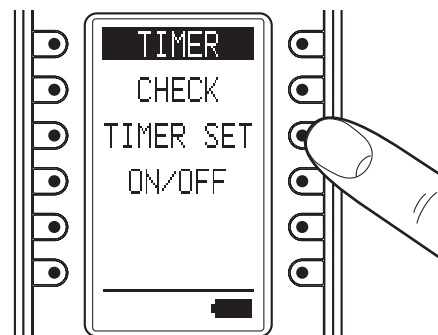
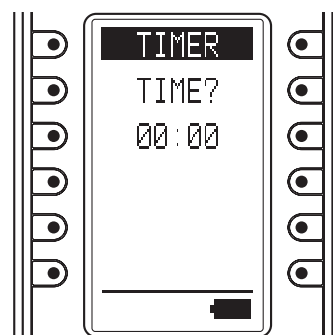
設定の確認

1. RC2001のメインメニューに入り、TIMERの横にあるボタンを押します。

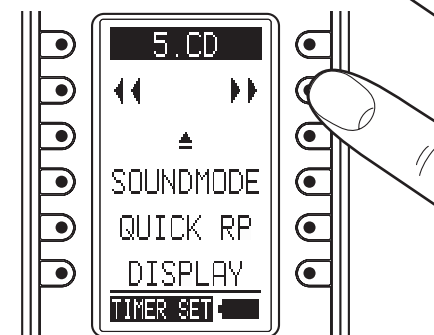
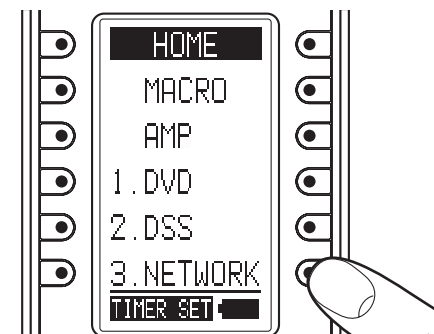
2. TIMERメニューが表示されます。LCDのCHECKの横にあるボタンを押すとタイマー設定が表示されます。

LCDが以下のような表示の場合、タイマーは設定されていません。

• ***ENTER***ボタンを押す、あるいは3秒経過するとLCDが自動的にTIMERメニューに戻ります。

• TIMER MENU画面から***HOME***ボタンを押すとLCDがMAIN MANUに戻ります。

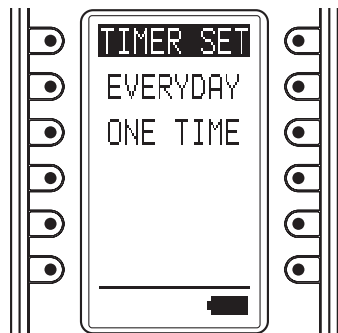
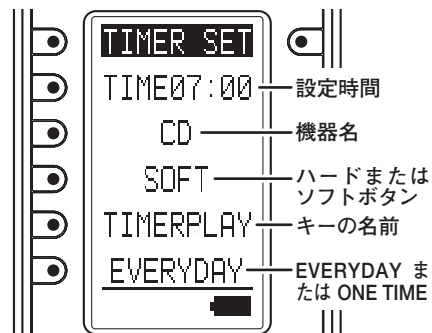
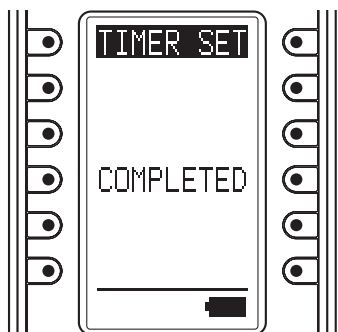
操作設定

1. TIMERメニュー画面でLCDのTIMER SETの横にあるボタンを押すと、タイマー・プログラミング設定画面が表示されます。

2. 数字ボタン（0～9）とカーソルボタン（◀ および ▶）でタイマーの時間を設定します。設定が終わったら***ENTER***ボタンを押します。

3. LCDにHOMEモードが表示されます。タイマーで送信したいコマンドの機器とボタンを選択します。

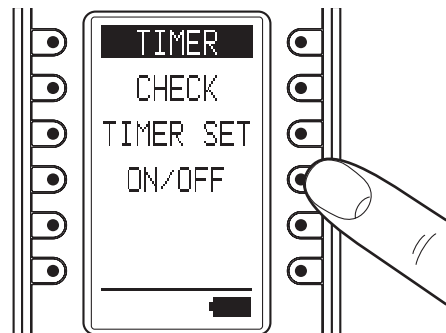
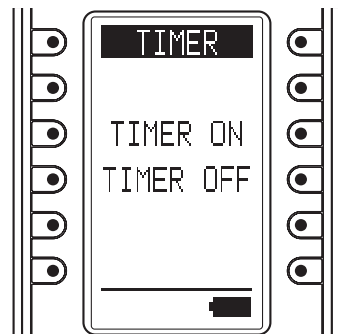
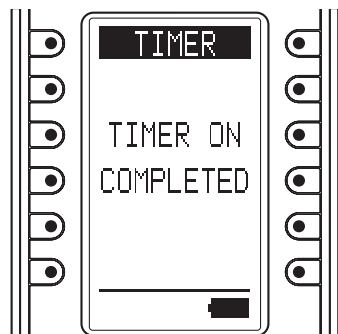
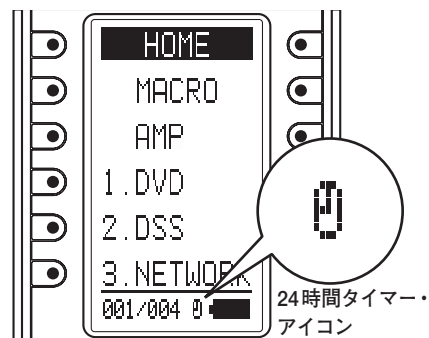
• ハードボタンに割り当てられたコマンドをタイマーで送信する場合は、コマンドを選択する際にハードボタンを押して設定します。

• ソフトボタンに割り当てられたコマンドをタイマーで送信する場合は、コマンドを選択する際に<および>ボタンでページを移動し、ソフトボタンに割り当てられたコマンドを選択します。

ご注意

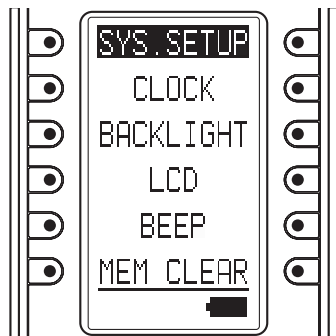
ソフトボタンのタイマー設定はHOMEモードでは使用できません。

4. LCDのEVERYDAY（毎日）またはONE TIME（1回）の横にあるボタンを押して、毎日または1回のみの操作のいずれかにタイマー操作を設定します。

- タイマー設定が表示されます。正しく設定されていることを確認してください。

- *ENTER*ボタンを押す、あるいは3秒経過すると、LCDにCOMPLETEDと表示され、操作設定が自動的に完了します。

- *ENTER*ボタンを押す、あるいは3秒経過するとLCDが自動的にMAIN MENUに戻ります。

操作ON/OFF設定

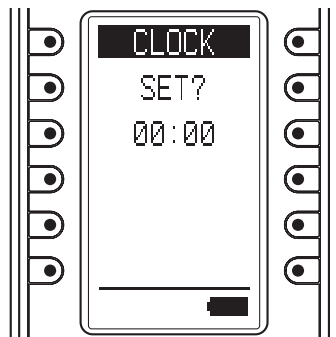
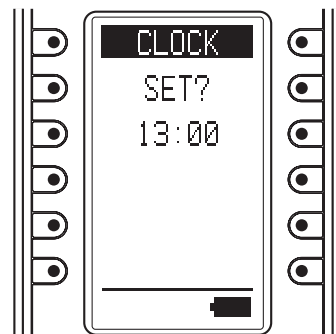
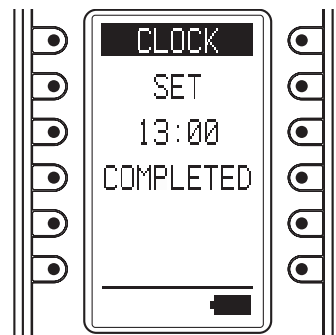
1. LCDのTIMERメニュー画面にあるON/OFFの横のボタンを押すと、タイマー操作ON/OFF設定画面が表示されます。

2. LCDのTIMER ON（有効）またはTIMER OFF（無効）の横にあるボタンを押すと、タイマー操作を有効または無効にすることができます。

3. *ENTER*ボタンを押す、あるいは3秒経過するとLCDにCOMPLETEDと表示され、操作設定が自動的に完了します。

- *ENTER*ボタンを押す、あるいは3秒経過するとLCDが自動的にMAIN MENUに戻ります。
- タイマー操作がONに設定されている場合、タイマー・アイコンがLCDのサブ情報エリアに表示されます。

3. SYS.SETUP（システム・セットアップ）

RC2001のメインメニューに入り、SYS.SETUPの横にあるボタンを押します。SYS.SETUP画面では以下の項目を設定することができます。

- CLOCK（時計の設定）
- BACK LIGHT（バックライト点灯時間の設定）
- LCD（LCDの設定）
- BEEP（ビープ音の設定）
- MEM CLEAR（初期化設定）

●CLOCK（時計の設定）

RC2001の時計を設定します。

1. LCDのSYS.SETUPメニュー画面のCLOCKの横にあるボタンを押すと時計設定画面が表示されます。

ご購入後付属リモコンに初めて電池を入れる場合は、電池挿入時に時間設定画面が表示されます。

2. 数字ボタン（0〜9）とカーソルボタン（◀ および ▶）で現在の時間を設定します。時間を正しく設定したら*ENTER*ボタンを押してください。

3. LCDにCOMPLETEDというメッセージが表示されると時計の設定は完了です。

- *ENTER*ボタンを押すか、あるいは3秒経過するとLCDが自動的にSYS.SETUPメニューに戻ります。
- *HOME*ボタンを押すとLCDがMAIN MENUに戻ります。

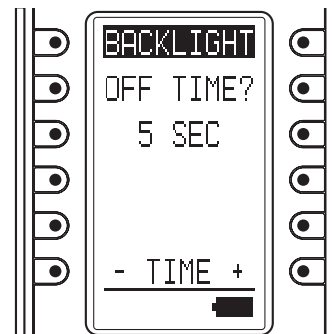
ご注意

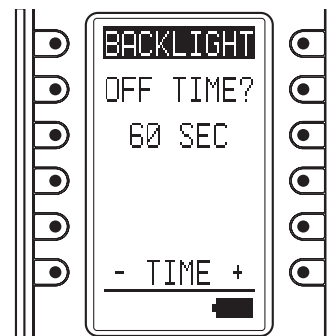
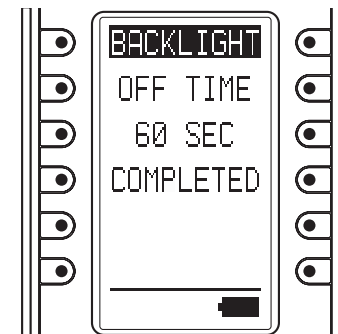
時間が経つと時計がずれてきます。時々チェックし、必要に応じて正しい時間を設定してください。

電池を交換した場合、時計の設定はバックアップされません。電池を交換したら時間をもう一度設定し直してください。

●BACK LIGHT（バックライト点灯時間の設定）

RC2001の*LIGHT*ボタンを押してバックライトを点灯させます。バックライトが消えるまでの時間を設定します。

1. LCDのSYS.SETUPメニューにあるBACKLIGHTの横にあるボタンを押すと、バックライト点灯時間設定画面が表示されます。

2. TIMEの両側にあるボタン（右：＋、左：－）を押して点灯時間を設定します。時間は0〜60秒の範囲で1秒毎に設定できます。

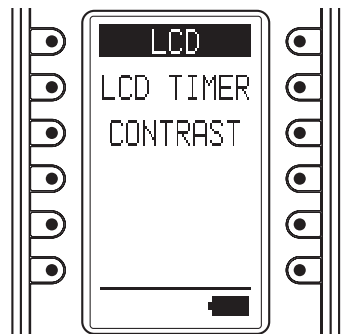
設定が終わったら*ENTER*ボタンを押してください。

3. LCDにCOMPLETEDというメッセージが表示されると、点灯時間の設定は完了です。

- *ENTER*ボタンを押すか、あるいは3秒経過するとLCDが自動的にSYS.SETUPメニューに戻ります。
- *HOME*ボタンを押すとLCDがMAIN MENUに戻ります。

ご注意

バックライトタイマーを0秒に設定するとバックライトを切ったことになり、***LIGHT***ボタンを押してもバックライトは点灯しません。

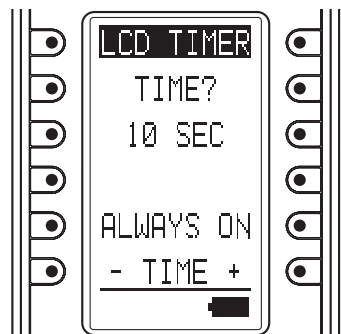
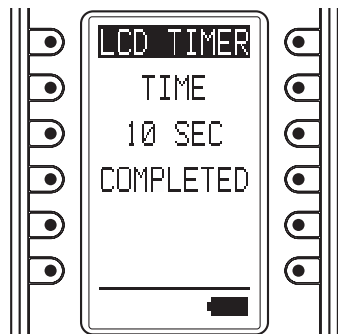
●LCD（LCDの設定）

LCDのSYS.SETUPメニュー画面のLCDの横にあるボタンを押します。
LCD設定メニューが表示されます。

•LCD TIMER（LCDタイマーの設定）

リモコンのボタンを押してから、LCDが自動的にOFFになるまでの時間を設定します。
操作が行われずLCDがオフになると、この設定によって電力消費が抑えられ、電池の寿命を延ばすことができます。デフォルトの設定は10秒です。

1. **LCD設定メニューを表示させ、LCDディスプレイのLCD TIMERの横にあるボタンを押します。**
2. **TIMEの両側にあるボタン（右：＋、左：－）を押して表示時間を設定します。時間は10～60秒の範囲で1秒毎に設定できます。**

   LCDを常にオンにしておくには、ALWAYS ONの横にあるボタンを押します。しかし、この設定では電池の寿命が短くなるので注意してください。

   設定が終わったら*ENTER*ボタンを押してください。

3. **LCDにCOMPLETEDというメッセージが表示されると、点灯時間の設定は完了です。**

- ***ENTER***ボタンを押すか、あるいは3秒経過するとLCDが自動的にSYS.SETUPメニューに戻ります。
- ***HOME***ボタンを押すとLCDがMAIN MENUに戻ります。

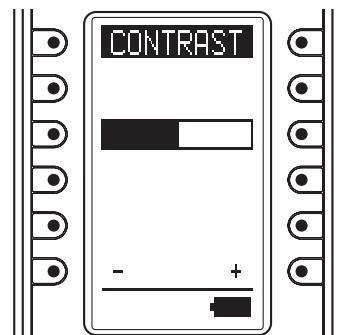
ご注意

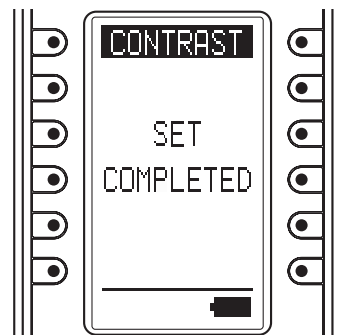
LCDタイマーでLCDがオフになっているとき、リモコンのいずれかのボタンを押すと再びオンになります。LCDがオンになっても、押したコマンドは有効になりません。

コマンド操作を行うにはLCDがオンの状態でボタンを押してください。

•CONTRAST（LCDコントラスト調整）

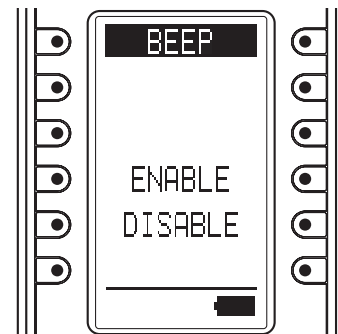
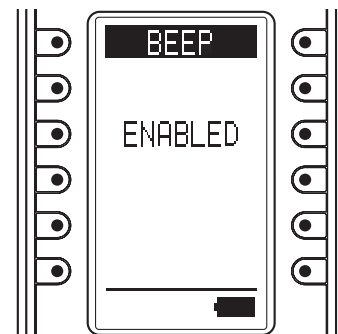
LCDのコントラストを調整します。
ご自分のご使用環境に合わせて最もよく見えるように調整してください。

1. **LCD設定メニューを表示させ、LCDディスプレイのCONTRASTの横にあるボタンを押します。**
2. **両側のボタン（右：＋ 左：－）を押してコントラスト・レベルを調整します。**

設定が完了したら*ENTER*ボタンを押してください。

LCDにCOMPLETEDというメッセージが表示されると設定は完了です。

- ***ENTER***ボタンを押すか、あるいは3秒経過するとLCDが自動的にSYS.SETUPメニューに戻ります。
- ***HOME***ボタンを押すとLCDがMAIN MENUに戻ります。

●BEEP（ビープ音の設定）

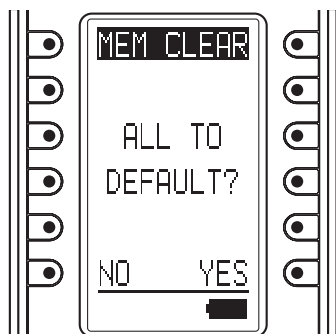
RC2001に内蔵されたビープ音を設定します。

1. **SYS.SETUPメニューのBEEPの横にあるボタンを押すとビープ音設定画面が表示されます。**
2. **LCD上のENABLE（有効）またはDISABLE（無効）の横にあるボタンを押して、ビープ音を有効または無効にします。**

3. ***ENTER*ボタンを押すか、あるいは3秒経過するとLCDにENABLEまたはDISABLEと表示され、設定が自動的に完了します。**

- ***ENTER***ボタンを押すか、あるいは3秒経過するとLCDが自動的にSYS.SETUPメニューに戻ります。
- ***HOME***ボタンを押すとLCDがMAIN MENUに戻ります。

●MEM CLEAR（初期化設定）
RC2001の設定を初期設定に戻します。

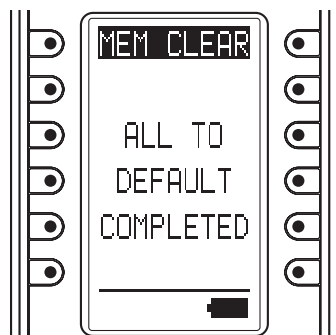
1. **LCDのSYS.SETUPメニュー画面のMEM CLEARの横にあるボタンを押すと初期化設定画面が表示されます。**

2. **LCDのYESの横にあるボタンを押して、初期化します。**

初期化をやめるときはNOボタンを押します。NOを選択すると自動的にSYS.SETUPに戻ります。

3. **YESボタンを押すとLCDにCOMPLETEDと表示され初期化が完了します。**

初期化される設定項目は以下の通りです。
- タイマーセットアップ
- バックライトタイマー
- LCD
- ビープ音

ご注意

LEARNINGとCLOCK設定は初期化されません。

- ***ENTER***ボタンを押すか、あるいは3秒経過するとLCDが自動的にSYS.SETUPメニューに戻ります。
- ***HOME***ボタンを押すとLCDがMAIN MENUに戻ります。

4. STATUS（ステータス）
MAIN MENUの設定とリモコンの状態を表示します。

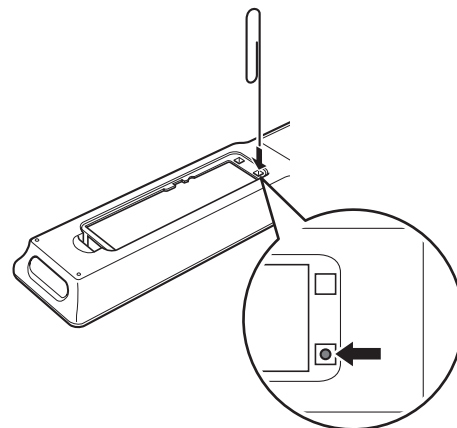
ステータスの確認
1. **RC2001のメインメニューに入り、STATUSの横にあるボタンを押します。**

2. ***ENTER*ボタンを押すと、以下の各項目の状態が順に表示されます。**
- 学習用メモリ残量
- マクロ・ステップ残量
- LCDタイマー設定
- バックライト・タイマー設定
- ビープ音の設定
- ファームウェアのバージョン
- 現在の時間

***ENTER*ボタンを押すか、あるいは3秒経過するとLCDが自動的にMAIN MENUに戻ります。**

5. リセット
RC2001が正常に動作していない場合は、以下の手順に従ってリセット（再始動）を行います。リセットしてもRC2001の設定は消去されません。

1. **電池ケース・カバーを外します。**

2. **ペーパークリップ等で、下の図に示したリセットホールにあるリセットボタンを押すとRC2001がリセットされます。**

ご注意

リセットは電池が入った状態で行ってください。

6. プログラム可能なコード

プログラム可能なコードの数
このリモコンには4Mビット（512KB）のフラッシュメモリが搭載されており、リモートコードを最大8,000個記憶させることができます。
この数字はマランツのリモートコードの場合です。プログラムしたリモートコードのタイプによって、実際のコード数は8,000個より少なくなることがあります。

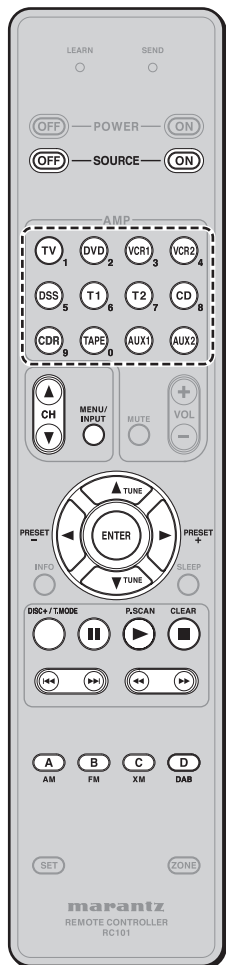
プログラム可能なコード
このリモコンは、コードのタイプ、システムなどの違いにより、一部のAV機器のコードを学習できないことがあります。

RC101 でマランツ製機器を操作する

付属リモコンRC101 を使用してマランツ製品の基本操作を行なうことができます。

1. **操作したいソース機器のソースボタンを押します。(リモコンが各ソース機器のモードになります)**

2. **各操作ボタンを押してソース機器を操作します。**

- 各ソース機器の詳細な操作については各ソース機器の取扱説明書を参照して下さい。
- 一部のソース機器は本リモコンから操作できないことがあります。

TVモード

SOURCE ON OFF	TV の電源オン / スタンバイ
MENU/INPUT	ビデオ入力を切り替える
CH▲/▼	チャンネルを選択する
ENTER	TV のセッティングメニューでのカーソルの移動および決定
▲(カーソル)	
▼(カーソル)	
▶(カーソル)	
◀(カーソル)	
▶	—
■	—
❚❚	—
▶▶❙	—
❙◀◀	—
▶▶	—
◀◀	—
DISC+/T.MODE	—
A	学習モードで学習が可能
B	
C	
D	

DVDモード

・(*)RC101 にはこのボタンのコードはプリセットされていません。

SOURCE ON OFF	DVD プレーヤーの電源オン / スタンバイ
MENU/INPUT	DVD ディスクメニューの呼び出し
CH▲/▼	—
ENTER	DVD ディスクメニュー等でのカーソルの移動および決定
▲(カーソル)	
▼(カーソル)	
▶(カーソル)	
◀(カーソル)	
▶	再生
■	停止
❚❚	一時停止
▶▶❙	次のチャプター / トラックへの移動
❙◀◀	前のチャプター / トラックへの移動
▶▶	早送り
◀◀	早戻し
DISC+/T.MODE	DVD チェンジャーのディスク交換 (*)
A	学習モードで学習が可能
B	
C	
D	

VCRモード

・RC101 にはVCR のリモコンコードはプリセットされていません。

SOURCE ON OFF	VCR デッキの電源オン / スタンバイ
MENU/INPUT	—
CH▲/▼	—
ENTER	VCR の設定メニューでのカーソルの移動および選択の確定
▲(カーソル)	
▼(カーソル)	
▶(カーソル)	
◀(カーソル)	
▶	再生
■	停止
❚❚	一時停止
▶▶❙	次のトラックへ移動
❙◀◀	前のトラックへ移動
▶▶	早送り
◀◀	巻き戻し
DISC+/T.MODE	—
A	学習モードで学習が可能
B	
C	
D	

CDモード

・(*)RC101にはこのボタンのコードはプリセットされていません。

SOURCE ON OFF	CDプレーヤーの電源オン/スタンバイ
MENU/INPUT	—
CH▲/▼	—
ENTER	—
▲(カーソル)	—
▼(カーソル)	—
▶(カーソル)	—
◀(カーソル)	—
▶	再生
■	停止
❚❚	一時停止
▶▶❘	次のトラックへ移動
❘◀◀	前のトラックへ移動
▶▶	早送り
◀◀	早戻し
DISC+/T.MODE	CDチェンジャーのディスク交換(*)
A	学習モードで学習が可能
B	
C	
D	

CDRモード

・RC101にはCDRのリモコンコードはプリセットされていません。

SOURCE ON OFF	CDRプレーヤーの電源オン/スタンバイ
MENU/INPUT	—
CH▲/▼	—
ENTER	—
▲(カーソル)	—
▼(カーソル)	—
▶(カーソル)	—
◀(カーソル)	—
▶	再生
■	停止
❚❚	一時停止
▶▶❘	次のトラックへ移動
❘◀◀	前のトラックへ移動
▶▶	早送り
◀◀	早戻し
DISC+/T.MODE	CDRチェンジャーのディスク交換
A	学習モードで学習が可能
B	
C	
D	

TAPEモード

・RC101にはカセットデッキのリモコンコードはプリセットされていません。

SOURCE ON OFF	カセットデッキの電源オン/スタンバイ
MENU/INPUT	—
CH▲/▼	—
ENTER	—
▲(カーソル)	—
▼(カーソル)	—
▶(カーソル)	—
◀(カーソル)	—
▶	再生
■	停止
❚❚	一時停止
▶▶❘	ミュージックサーチ(前後曲の頭出し)
❘◀◀	
▶▶	早送り/早戻し
◀◀	
DISC+/T.MODE	—
A	学習モードで学習が可能
B	
C	
D	

AUX1モード(マランツユニバーサルドックのコントロール)

・RC101にはユニバーサルドックのリモコンコードはプリセットされていません。

SOURCE ON OFF	ユニバーサルドックの電源オン/スタンバイ
MENU/INPUT	ユニバーサルドックメニューの呼び出し
CH▲/▼	—
ENTER	ユニバーサルドックメニューでのカーソルの移動および決定
▲(カーソル)	
▼(カーソル)	
▶(カーソル)	
◀(カーソル)	
▶	再生
■	停止
❚❚	一時停止
▶▶❘	次のトラックへ移動
❘◀◀	前のトラックへ移動
▶▶	早送り
◀◀	早戻し
DISC+/T.MODE	OSDモード/LCDモードの切り替え
A	学習モードで学習が可能
B	
C	
D	

RC101 基本操作

通常モード

（マランツ製の機器を操作するとき）

付属リモコンRC101には全部で12種類のリモコンコードがプリセットされています（TV ,DVD, VCR, DSS, TUNER1, TUNER2, CD, CD-R, TAPE, AUX1, AUX2）。
マランツ製の機器を操作するときはリモコンの学習機能を使ってリモートコードを学習させる必要はありません。

リモコンのモードと入力ソースの切替

（ここではDVDを操作する例です。）
ソース（DVD）ボタンを1度押すと、リモコンがDVDモードになり、DVDプレイヤーの操作ができるようになります。本機の入力ソースをDVDにするには、もう一度ソースボタンを押します（ダブルクリック）。このときリモコンから信号が送信され、本機の入力ソースがDVDになります。

バックライト設定

初期設定ではボタンを押すとバックライトが2秒間点灯します。
バックライトを点灯させないようにするにはSETボタンと I◀◀ ボタンを送信表示が2回点滅するまで同時に長押しします。
バックライトを点灯させるようにするには、SETボタンと ▶▶I ボタンを送信表示が2回点滅するまで同時にします。

プリセットモード

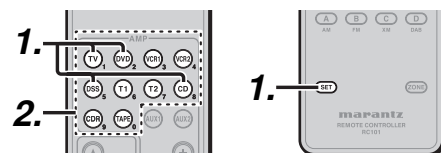
（マランツ製以外の機器を操作するとき）

本リモコンにはマランツ製以外の機器のリモコンコードがプリセットされています。プリセットコードを設定することにより、TV, DVD, CD, DSSの操作が可能になります。設定は2つの方法で行うことができます。プリセットコードは各ソースボタンごとに設定されます。

プリセットされているメーカー、機器、セットアップコードについては本書最後にあるセットアップコードリストをご覧ください。

ご注意

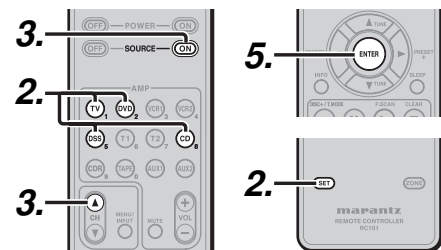
- 一部の機器では付属リモコンRC101のセットアップコードでは対応できない場合があります。その場合は学習モードを使用してリモートコードを学習させてください。
- プリセットコードはすべての機能を網羅しているわけではありません。機能の追加が必要な場合は学習モードを使用して追加機能を記憶させてください。
- 電池の残量が少ない状態ではプリセットコードの設定ができない場合があります。

4桁のコードの入力による設定

1. **プリセットコードを設定したいソースボタンとSETボタンを送信表示が2回点滅するまで同時に長押しします。**
バックライトが点滅し続けます。

2. **巻末に記載されているセットアップコード（RC101用）のご使用の機器に対応した4桁のコードを数字キーで入力します。**
設定が完了すると送信表示が2回点滅します。

ご注意

送信表示が2回点滅しない場合は手順***1.***と***2.***を繰り返し、同じコードをもう1度入力してください。

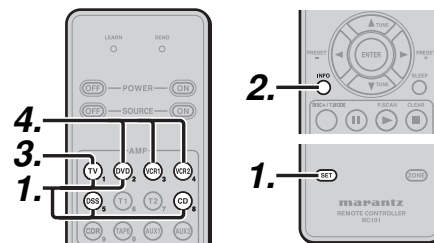
コード表をスキャンして設定する

1. **プリセットコードを設定したい機器を電源オンにします。**

2. **設定したい機器と対応したソースボタンとSETボタンを送信表示が2回点滅するまで同時に長押しします。**
バックライトが点滅し続けます。

3. **リモコンを設定したい機器のリモコン受光部へ向け、CH▲ボタンとSOURCE ONボタンを交互にゆっくりと押します。**

4. **操作したい機器の電源がオフになったらボタンを押すのをやめます。**

5. **ENTERボタンを押すとコードの設定が完了します。**
設定が完了すると送信表示が2回点滅します。

設定したプリセットコードを確認する

1. **操作したい機器のソースボタンとSETボタンを送信表示が2回点滅するまで同時に長押しします。**
バックライトが点滅し続けます。

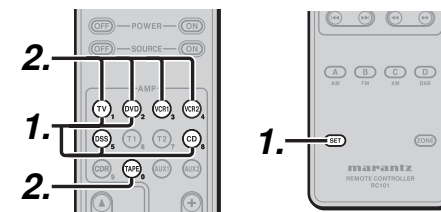
2. **INFOボタンを押します。**
送信表示が2回点滅します。

3. **コードの1桁目を確認するために1を押します。送信表示の点滅回数を数え（例:3回点滅 = 3）、この数字を書き留めます。**

ご注意

コードの桁が0の場合は、送信表示は点滅しません。

4. **残りの3つの桁を確認するには手順*3.*を同様に繰り返します。2桁目は2、3 桁目は3、4 桁目では4を押します。**

設定したコードをリセットする

1. **操作したい機器のソースボタンとSETボタンを送信表示が2回点滅するまで同時に長押しします。**
バックライトが点滅し続けます。

2. **以下の4桁のコードを押してリセットします。**

テレビ ： 1000
DVD ： 2000
VCR ： 3000
DSS ： 4000

リセットが完了すると送信表示が2回点滅します。

ご注意

リセットが完了すると、選択したソースボタンが初期コードとなります。

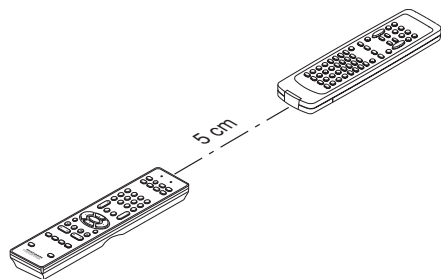
学習モード

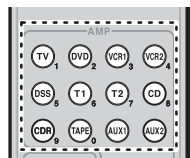
このリモコンには他のリモコンのリモートコードを学習・記憶させることができます。
リモートコードを学習・記憶していない場合、リモコンは初期設定のマランツ・プリセットコード、またはお客様が設定された別メーカーのAV 機器のリモートコードのいずれかを送信します。
リモコン信号の受光部はリモコンの上部にあります。

ご注意

- このリモコンは約60のリモートコードを学習することができます。
- 電池の残量が少ない状態では学習モードが正しく操作できないことがあります。

学習手順

1. **約5cm 離して他のリモコンの赤外線送信部がリモコン（RC101）の受光部に向くようにリモコンを置きます。**

2. **学習表示が点滅するまで*SET*と*MENU*ボタンを同時に長押しします。**

3. **ソースボタンを押して入力ソースを選択します。**

4. **学習させたいボタンを押します。**
   学習表示が点灯します。

ご注意

- ソースボタンにはリモートコードを学習させることはできません。
- 以下のボタンは入力ソースがTVであるとき以外はリモートコードを学習させることができません。
  POWER ON OFF ボタン
  VOL +/- ボタン
  MUTE ボタン
  INFO ボタン
  SLEEP ボタン

5. **送信表示が2回点滅するまで元のリモコンのボタンを押し続けて学習させます。**

ご注意

- 送信表示が1回しか点滅しない場合はこの手順をもう1度実行してください。
- RC101のメモリがいっぱいの場合は学習表示と送信表示が1回点滅します。コードを学習させたい場合は既に学習済みの他のボタンを削除してください。

6. **手順*4.*および*5.*を繰り返して同じ入力ソースの他のボタンを学習させます。**
7. **手順*3.*から*6.*を繰り返して他の入力ソースを学習させます。**
8. **リモコンのプログラミングが終わったら*SET*ボタンを押します。**
   学習表示のランプが消え、学習モードが終了します。

ご注意

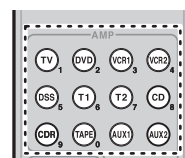
- 送信表示がもう1回点滅した場合は、RC101では利用できない転送コードであるか、転送信号がノイズで妨げられています。
- 学習モードで約1 分間どのボタンも押さないと、自動的に学習モードを終了します。

プログラムされたコードの削除（初期設定に戻す）

リモートコードは、「ボタン」、「ソース」、「すべての記憶内容」の3つの方法で削除することができます。

ボタンごとのコードを削除する

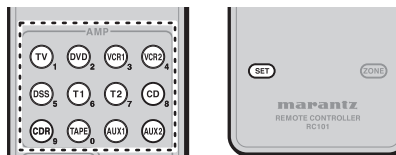
1. **学習表示が点滅するまで*SET*と*MENU*ボタンを同時に長押しします。**

2. **ソースボタンを押し、削除するソースを選択してください。**

3. ***SLEEP*ボタンを押したままの状態で、送信表示が1回点滅した後に削除したい学習済みのボタンを2回押します。**
   送信表示が2 回点滅し、学習モードに戻ります。

4. **通常モードに戻るには*SET*ボタンを押してください。**

ファンクションコードを削除する

1. **送信表示が点滅するまで*SET*と*MENU*ボタンを同時に長押ししてください。**

2. ***SLEEP*ボタンを押したままの状態で、削除したい学習済みのソースボタンを2 回押します。**
   学習表示が点灯します。

3. **削除を続けるには*ENTER*ボタンを押します。**
   送信表示が2回点滅して学習モードに戻ります。

ご注意

削除操作をキャンセルする場合は、ENTERボタンを押さず他のボタンを押してください。

4. **通常モードに戻るには*SET*ボタンを押してください。**

すべてのファンクションを削除する

1. **学習表示が点滅するまで*SET*と*MENU*ボタンを同時に長押ししてください。**

2. ***SLEEP*ボタンを押したままの状態で、*POWER ON*と*POWER OFF*ボタンを押します。**
   · 学習表示が点灯します。

3. **削除を続けるには*ENTER*ボタンを押します。**
   · 送信表示が2回点滅して学習モードに戻ります。
   · 削除操作をキャンセルする場合は、ENTERボタンを押さず他のボタンを押してください。

4. **通常モードに戻るには*SET*ボタンを押してください**

ご注意

リモートコードを削除すると工場出荷時にプリセットされたコードに戻ります。

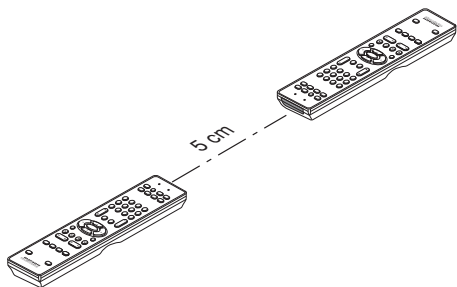
RC101 クローンモード

RC101に学習させたすべてのコードを簡単な操作で他のRC101にコピーすることができます。

ご注意

クローン機能は送り側、受け側がともにRC101でないときは利用できません。

全体をコピーする

1. **受け側のリモコンの受光部と送り側のリモコンの送信部を約5cm離してまっすぐに置きます。**

2. **送り側のリモコンの*SET*ボタンと*PLAY*ボタンを送信表示が2回点滅するまで同時に長押しします。**
バックライトが点滅し続け、送り側の準備が完了します。

3. **受け側のリモコンの*SET*ボタンと*STOP*ボタンをラーンインジケーターが2回点滅するまで同時に長押しします。**
バックライトが点滅し受け側の準備が完了します。

4. **受け側のリモコンの*ENTER*ボタンを押します。**
バックライトが消灯します。

5. **送り側のリモコンの*ENTER*ボタンを押します。**
バックライトが消灯します。

6. **手順*5.*までの操作が終了すると送り側の送信表示と受け側の学習表示が点滅し、コピーが開始されます。**
コピーが終了すると送り側と受け側のリモコンのバックライトが消灯します。

ご注意

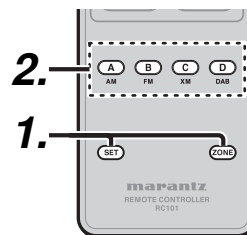
- コピー動作中は両方のリモコンに手を触れないでください。コピー失敗の原因になります。
- コピーが途中で失敗した場合は受け側のリモコンのバックライトが点灯します。そのときは受け側のリモコンのSETボタンを押してリモコンを通常モードに戻し、手順1から5の操作を再度行ってください。
- コピーの時間は送り側の学習容量が100%の時で約30秒かかります。

7. **コピーが完了したら送り側、受け側両方のリモコンの*SET*ボタンを押します。**

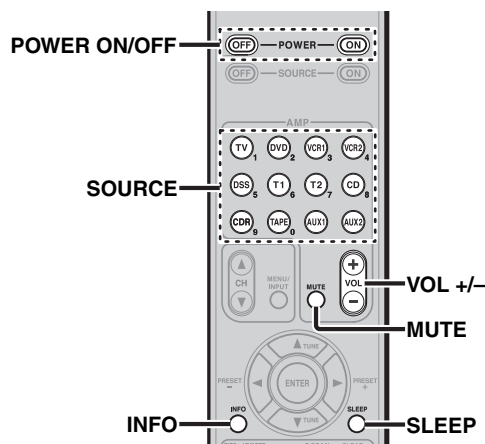
RC101 その他の操作

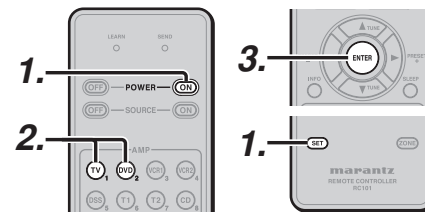
リモコンを使うゾーンの設定をする

リモコンを使うゾーンの設定を行うことでぞれぞれのゾーンの入力ソースの切り替えやオン / オフなどの操作ができるようになります。

ゾーンAモード： ゾーンA（初期設定時）
ゾーンBモード： ゾーンB
ゾーンCモード： （本機ではこのゾーンは使用しません）
ゾーンDモード： メインゾーン

1. ***SET*ボタンと*ZONE*ボタンを送信表示が2回点滅するまで同時に長押しします。**
バックライトが点灯します。

2. **各ゾーンのボタン（A,B,C,D）を押します。設定が完了すると送信表示が2回点滅します。**

以下のボタンは設定したゾーン専用のボタンになります。

ゾーンとゾーンスピーカーの切り替え

ゾーンから操作する機能をゾーンモードかゾーンスピーカーモードかで選ぶことができます。

1. ***SET*ボタンと*POWER ON*ボタンを送信表示が2回点滅するまで同時に長押しします。**
バックライトが点滅し続けます。

2. **数字キー（1 or 2）を押します。**
・ ゾーンモード： 1（初期設定）
・ ゾーンスピーカーモード： 2

ご注意

ゾーンDモード設定時はメインゾーンの操作のみが可能です。

3. ***ENTER*ボタンを押します。**
設定が完了すると送信表示が2回点滅します。

困ったときは

問題が発生した場合には、修理を依頼する前に以下を確認してください。

1. 接続は正しく行われていますか
2. ユーザーガイドにしたがって本機を正しく操作していますか
3. パワーアンプとスピーカーは正しく動作していますか

本機が正しく動作していない場合は、以下の表に示す項目を確認します。
以下の表に示す対処方法で問題を修復できない場合は、内部回路の動作不良が考えられます。直ちに電源ケーブルのプラグを抜き、お買い上げになった販売店もしくはお近くの株式会社マランツコンシューマーマーケティング各営業所、お客様相談センター、または当社サービスセンターにご相談ください。

症　状	原　因	対処法
本機の電源が入らない。	電源プラグが接続されていない。	電源プラグをコンセントに挿し込んでください。
電源は入っているが、音声と画像が出力されない。	ミュートが ON になっている。	リモコンを使用してミュートをキャンセルしてください。
	入力またはパワーアンプと正しく接続されていない。	接続図を参照して、ケーブル類を正しく接続してください。
	マスターボリュームが完全に絞られている。	マスターボリュームを調節してください。
	INPUT SELECTOR のポジションが間違っている。	正しいポジションを選択してください。
スピーカーから音が出ない。	ヘッドホンがヘッドホン端子に接続されている。	ヘッドホンを外してください。（ヘッドホンが接続されていると、スピーカーから音声が出力されません。）
音声もしくは映像が選択したソースと一致しない。	入力ケーブルが正しく接続されていない。	接続図を参照して、ケーブルを正しく接続してください。
チャンネルから出力される音声が正しくない。	パワーアンプおよびスピーカと正しく接続されていない。	接続図を参照して、パワーアンプおよびスピーカを正しいチャンネルに接続してください。
センターチャンネル・スピーカーから音声が出力されない。	パワーアンプおよびスピーカと正しく接続されていない。	接続図を参照して、パワーアンプおよびスピーカを正しいチャンネルに接続してください。
	サラウンドモードに STEREO が選択されている。	サラウンドモードに STEREO が選択されていると、センタースピーカーから音声は出力されません。別のサラウンドモードを設定してください。
	SPEAKERS SIZE メニューで Center = NONE が選択されている。	Center を Small か Large に設定してください。
サラウンドスピーカーから音声が出力されない。	パワーアンプおよびスピーカと正しく接続されていない。	接続図を参照して、パワーアンプおよびスピーカを正しいチャンネルに接続してください。
	サラウンドモードに STEREO が選択されている。	サラウンドモードに STEREO が選択されていると、サラウンドスピーカーから音声は出力されません。別のサラウンドモードを設定してください。
	SPEAKERS SIZE メニューで Surround = NONE が選択されている。	Surround を Small か Large に設定してください。
サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない。	パワーアンプおよびスピーカと正しく接続されていない。	接続図を参照して、パワーアンプおよびスピーカを正しいチャンネルに接続してください。
	サラウンドモードが EX/ES モードになっていない。	サラウンドモード EX/ES を設定してください。
	SPEAKER SIZE メニューで Surround back = NONE、ZSP A または ZSP B が選択されている。	Surround back を 1ch か 2ch に設定してください。
EX/ES モードも THX EX モードも選択できない。	SPEAKER SIZE メニューで Surround back = NONE、ZSP A または ZSP B が選択されている。	Surround back を 1ch か 2ch に設定してください。
	入力信号に互換性がない。	5.1ch ソースを使用してください。
THX ULTRA2 CINEMA/MUSIC/GAMES が選択できない。	SPEAKER SIZE メニューで Surround Back = 1ch、NONE、ZSP A または ZSP B が選択されている。	Surround back を 2ch に設定してください。
	入力信号に互換性がない。	5.1ch ソースを使用してください。
Neo:6 モードが選択できない。	入力信号に互換性がない。	2ch DTS 入力信号、PCM 入力信号、アナログ入力信号のいずれかを使用してください。
CSⅡ モードが選択できない。	入力信号に互換性がない。	2ch DTS 入力信号、PCM 入力信号、アナログ入力信号のいずれかを使用してください。
SUBWOOFER OUT への出力が出ない。	SPEAKER SIZE メニューで Subwoofer = NONE が選択されている。	Subwoofer = YES を選択してください。
DTS エンコードされた CD やレーザーディスクの再生中にノイズが発生する。	アナログ入力が選択されている。	確実にデジタル接続を実行し、デジタル入力を選択した上で再生してください。
特定のチャンネルで出力が行われない。	そのチャンネルに録音が存在しない。	ソース側のエンコードされたチャンネルを確認してください。
AM や FM が受信できない。	アンテナの接続が不完全。	屋内の AM アンテナと FM アンテナを、AM アンテナ端子と FM アンテナ端子に正しく接続してください。
AM 受信中にノイズが聞こえる。	受信が他の電界の影響を受けている。	AM 室内アンテナの設置場所変えてください。
FM 受信中にノイズが聞こえる。	放送局からの電波が微弱。	FM 屋外アンテナを設置してください。
リモコンによる制御ができない。	電池が切れている。	電池をすべて新しいものに取り替えてください。
	リモコンのモードが違う。	リモコンを制御する機器のモードに切り替えてください。
	本機とリモコン間の距離が遠過ぎる。	本機に近づき、操作範囲内で操作してください。
	本機とリモコンの間に障害物がある。	障害物を取り除いてください。
AAC 信号が再生できない	デジタルチューナーのデジタル出力設定が誤っている。	デジタルチューナーの取扱説明書を参照してください。
トランスからうなり（ノイズ）が出る。	家庭内の電源事情により、多少目立つことがあります。	電熱器、コタツなどの使用を止めてみてください。
入力信号がないときに、シャーというノイズ（残留ノイズ）が出る。	サラウンド用の DSP を搭載してありますので、多少目立つことがあります。	2ch ソースをお聞きのときノイズが気になる場合は、S（Source）-Direct モードでお聞きください。
DVD プレーヤーで CD 再生時に、トラックスキップなどを行うと、曲の頭が少し欠けて再生される。	DVD プレーヤーによってはトラックスキップ時にデジタル信号が途切れるものがあります。サラウンドシステムを適切に合わせるための判別時間が必要なため、少しだけ曲の頭が途切れる場合があります。	この様な DVD プレーヤーを接続する場合、アナログ接続して頂くと問題なく再生することができます。
音楽再生時、音像が定位しない。	スピーカーの極性が正しく接続されていない。	スピーカーの極性を確認してください。

HDMI接続

症　状	原　因	対処法
HDMI 接続で画面が映らない。	接続しているモニター、プロジェクターがHDCP に対応していない。	HDCP対応機器に接続するか、アナログビデオ接続を行ってください。
	TV 側のHDMI 入力設定が有効になっていない。	TV の取り扱い説明書を参照の上、HDMI入力が有効になるよう設定してください。
	ソース機器（DVD、デジタルチューナー等）側のHDMI 出力設定が有効になっていない。	ソース機器の取り扱い説明書を参照の上、HDMI出力を有効になるよう設定してください。
	本機のHDMI 入力設定が正しく設定されていない。	35ページを参照の上、Setup 画面にてHDMI入力設定を行ってください。
	ソース機器（DVD、デジタルチューナー等）側のHDMI 出力用のVideo解像度設定がTV 側の仕様と合致しない。	双方の機器の取り扱い説明書を参照の上、合致する解像度設定をしてください。
	規格外のHDMI ケーブルで接続している。	より安定した動作や、画質劣化などの防止のため、5 m以下のケーブルの使用を推奨いたします。
	本機の電源が切られている。（本機がスタンバイ状態ではHDMI接続は有効になりません）	本機の電源を入れてください。
	HDMI 搭載機器間の接続認証がされない	本機、あるいはTV、ソース機器の電源を入れ直してください。
HDMI 接続で映像が映るまで時間がかかる。	HDMI 搭載機器間の接続認証をおこなっている。	接続される機器によっては認証に時間がかかる場合があります､故障ではありません。
HDMI 接続で音声が再生されない。	ソース機器（DVD、デジタルチューナー等）側のHDMI 音声出力設定が有効になっていない。	ソース機器の取り扱い説明書を参照の上、HDMI 音声出力を有効になるよう設定してください。
	ソース機器（DVD、デジタルチューナー等）側のHDMI 音声設定にて信号フォーマットの設定が本機の対応信号に設定されていない。	ソース機器の取り扱い説明書を参照の上、HDMI 音声出力設定を本機との接続に適切になるよう設定してください。
	HDMI AUDIO THROUGHモードになっている。	THROUGHモードの時は本機からは音がでません。ENABLEに設定してください。（46ページ参照）
HDMI 接続でDVD - Audioの音声が再生されない。	DVDプレイヤーがHDMI のCPPM対応していないため、Audio 出力をしていない。	· CPPM 対応のDVDオーディオプレイヤーを使用してください。 · DVDプレイヤーのPCMダウンサンプリングをON に設定してください。 · アナログ接続でご使用ください。
HDMI 接続でスーパーオーディオCD の音声が再生されない。	接続しているソース機器がスーパーオーディオCDの出力に対応していない。	· スーパーオーディオCD出力に対応した（HDMI:Version 1.2）機器を接続してください。 · アナログでご使用ください。

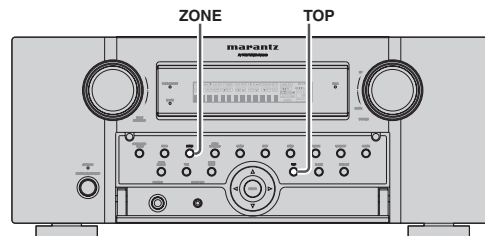
異常動作のときは

本機表示部に異常な表示や誤動作表示などを発見した場合､すぐに電源を切ってください。
再度電源を入れても症状が変わらない場合、電源コードを抜いてください。
その後、お買い上げになった販売店もしくはお近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談ください。

メモリバックアップについて

本機の電源を切った状態でも、設定した各種内容を内部不揮発性メモリーに記憶しております。

初期状態に戻すには（リセット）

「困ったときは」を参考にされても、不具合が解決しない場合は､本機のリセットを試してみてください。
但しリセット行うと、セットアップメニューにて設定した内容、サラウンドモードの設定の情報が消去されますことをご了承ください。

1. 電源が入っていることを確認します。

2. 本機の*ZONE* ボタンを押しながら、*TOP* ボタンを3秒以上押します。

本機は一度スタンバイ状態になった後、再度POWER－ON状態となり、各種設定された内容が初期化され､工場出荷時の状態に戻ります。

その他

サラウンドモード

本機には多くのサラウンドモードが搭載されています。これは再生するソースの内容に応じて、多様な音声効果を再現するためです。
利用可能なサラウンドモードは、入力信号とスピーカーの設定に応じて制限される場合があります。

使用するサラウンドモードと入力信号について

サラウンドモードは本機のサラウンドモード切り替えボタンか、リモコンを使って選択します。また、再生される音声は、選択したサラウンドモードと入力信号との関係に応じて変化します。
関係は次の表のとおりです。

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル					表示部	
			L/R	C	SL SR	SBL SBR	SubW	信号形式インジケーター	チャンネルステータス・インジケーター
AUTO	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby Digital 2.0	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie	○	○	○	○	○	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby Digital Plus (7.1)	DolbyDigital +	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	Dolby TrueHD (6.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	Dolby TrueHD (7.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	○	○	○	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (5.1)	DTS-HD	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (6.1)	DTS-HD	○	○	○	○	○	dts	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS-HD (7.1)	DTS-HD	○	○	○	○	○	dts	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	○	○	○	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	AAC 2.0	○	-	-	-	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM	○	○	○	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz	Multi Ch-PCM 96kHz	○	○	○	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch)	○	○	○	-	○	-	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	SA-CD (Stereo)	○	-	-	-	○	-	L, R
	PCM (Audio)	PCM (Stereo)	○	-	-	-	○	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (Stereo 96kHz)	○	-	-	-	○	PCM	L, R
	HDCD	HDCD	○	-	-	-	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Stereo	○	-	-	-	○	ANALOG	-
	7.1ch input	Multi Ch	○	○	○	○	○	ANALOG	-
SOURCE DIRECT PURE DIRECT	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby Digital 2.0	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie	○	○	○	○	○	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	Dolby Digital Plus (5.1)	DolbyDigital +	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1)	DolbyDigital +	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby Digital Plus (7.1)	DolbyDigital +	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby TrueHD (5.1)	DolbyTrueHD	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	Dolby TrueHD (6.1)	DolbyTrueHD	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	Dolby TrueHD (7.1)	DolbyTrueHD	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	○	○	○	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (5.1)	DTS-HD	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (6.1)	DTS-HD	○	○	○	○	○	dts	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS-HD (7.1)	DTS-HD	○	○	○	○	○	dts	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	○	○	○	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	AAC 2.0	○	-	-	-	-	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM	○	○	○	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz	Multi Ch-PCM 96kHz	○	○	○	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch)	○	○	○	-	○	-	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	SA-CD (Stereo)	○	-	-	-	-	-	L, R
	PCM (Audio)	PCM (Stereo)	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (Stereo 96kHz)	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	HDCD	HDCD	○	-	-	-	-	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Stereo	○	-	-	-	-	ANALOG	-
	7.1ch input	Multi Ch	○	○	○	○	○	ANALOG	-
EX/ES	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (5.1)	DolbyDigital + Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby TrueHD (5.1)	DolbyTrueHD + Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	AAC + Dolby EX	○	○	○	○	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi-PCM	Multi Ch-PCM + Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch) + Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	-	L, C, R, SL, SR, LFE
DOLBY (PLIIx movie) (PLIIx music) (PLIIx game)	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	○	○	-	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1 + PLIIx	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	Dolby Digital Plus (5.1)	DolbyDigital +	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	L,C,R,SL,SR,LFE
	Dolby Digital Plus (6.1)	DolbyDigital +	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L,C,R,SL,SR,S,LFE
	Dolby Digital Plus (7.1)	DolbyDigital +	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L,C,R,SL,SR,S,LFE
	Dolby TrueHD (5.1)	DolbyTrueHD	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	Dolby TrueHD (6.1)	DolbyTrueHD	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	Dolby TrueHD (7.1)	DolbyTrueHD	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	AAC (5.1ch)	AAC + PLIIx	○	○	○	○	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM + PLIIx	○	○	○	○	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch) + PLIIx	○	○	○	○	○	-	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	-	L, R
	PCM (Audio)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	PCM	L, R
	HDCD	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Pro Logic IIx	○	○	○	○	○	ANALOG	-
DTS (Neo:6 Cinema) (Neo:6 Music)	DTS-ES	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	○	○	○	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD(5.1)	DTS-HD	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD(6.1)	DTS-HD	○	○	○	○	○	dts	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS-HD(7.1)	DTS-HD	○	○	○	○	○	dts	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (2ch)	Neo:6	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Neo:6	○	○	○	○	○	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	AAC (2ch)	Neo:6	○	○	○	○	○	AAC	L, R
	SA-CD (2ch)	Neo:6	○	○	○	○	○	-	L, R
	PCM (Audio)	Neo:6	○	○	○	○	○	PCM	L, R
	HDCD	Neo:6	○	○	○	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Neo:6	○	○	○	○	○	ANALOG	-
CSII Cinema CSII Music CSII Mono	Dolby D (2ch)	CSII	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	CSII	○	○	○	○	○	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	AAC (2ch)	CSII	○	○	○	○	○	AAC	L, R
	SA-CD (2ch)	CSII	○	○	○	○	○	-	L, R
	PCM (Audio)	CSII	○	○	○	○	○	PCM	L, R
	HDCD	CSII	○	○	○	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	CSII	○	○	○	○	○	ANALOG	-
NEURAL-THX	Dolby D (2ch)	NEURAL THX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	NEURAL THX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	SA-CD (2ch)	NEURAL THX	○	○	○	○	○	-	L, R
	PCM (Audio)	NEURAL THX	○	○	○	○	○	PCM	L, R
	HDCD	NEURAL THX	○	○	○	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	NEURAL THX	○	○	○	○	○	ANALOG	-
STEREO	Dolby Surr.EX	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	Dolby Digital Plus (5.1)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby Digital Plus (7.1)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby TrueHD (5.1)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	Dolby TrueHD (6.1)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	Dolby TrueHD (7.1)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	DTS-ES	Stereo	○	-	-	-	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Stereo	○	-	-	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (5.1)	Stereo	○	-	-	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (6.1)	Stereo	○	-	-	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS-HD (7.1)	Stereo	○	-	-	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	AAC (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Stereo	○	-	-	-	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Stereo	○	-	-	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル					表示部	
			L/R	C	SL SR	SBL SBR	SubW	信号形式インジケーター	チャンネルステータス・インジケーター
STEREO	Multi Ch-PCM 96kHz	Stereo	○	-	-	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	-	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Stereo	○	-	-	-	○	-	L, R
	PCM (Audio)	Stereo	○	-	-	-	○	PCM	L, R
	PCM 96kHz	Stereo	○	-	-	-	○	PCM	L, R
	HDCD	Stereo	○	-	-	-	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Stereo	○	-	-	-	○	ANALOG	-
Dolby Virtual Speaker	Dolby Surr.EX	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	Virtual	○	-	-	-	-	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Virtual	○	-	-	-	-	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	-	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	-	L, R
	PCM (Audio)	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	HDCD	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Dolby Virtual Speaker	○	-	-	-	-	ANALOG	-
Multi Ch. Movie Music	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	(○)	○	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	(○)	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Multi Channel	○	(○)	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Multi Channel	○	(○)	○	○	○	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	○	(○)	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	○	(○)	○	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	(○)	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	○	○	○	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Multi Channel Stereo	○	○	○	○	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM	○	(○)	○	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz	Multi Ch-PCM 96kHz	○	(○)	○	-	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch)	○	(○)	○	-	○	-	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Multi Channel	○	(○)	○	○	○	-	L, R
	PCM (Audio)	Multi Channel	○	(○)	○	○	○	PCM	L, R
	HDCD	Multi Channel	○	(○)	○	○	○	PCM, HDCD	L, R
(○): Movie mode only.	Analog	Multi Channel	○	(○)	○	○	○	ANALOG	-
Dolby H.P	Dolby Surr.EX	Dolby H.P	○	-	-	-	-	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	Dolby Digital Plus (5.1)	Stereo	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1)	Stereo	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby Digital Plus (7.1)	Stereo	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby TrueHD (5.1)	Stereo	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	Dolby TrueHD (6.1)	Stereo	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	Dolby TrueHD (7.1)	Stereo	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	スピーカーセットアップによって変わります
	DTS-ES	Dolby H.P	○	-	-	-	-	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Dolby H.P	○	-	-	-	-	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (5.1)	Stereo	○	-	-	-	-	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (6.1)	Stereo	○	-	-	-	-	dts	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS-HD (7.1)	Stereo	○	-	-	-	-	dts	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	AAC (5.1ch)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Dolby H.P	○	-	-	-	-	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	-	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	-	L, R
	PCM (Audio)	Dolby H.P	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	HDCD	Dolby H.P	○	-	-	-	-	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Dolby H.P	○	-	-	-	-	ANALOG	-

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル					表示部	
			L/R	C	SL SR	SBL SBR	SubW	信号形式インジケーター	チャンネルステータス・インジケーター
THX (AUTO)	Dolby Surr.EX	Dolby Digital + THX Surround EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1+ THX Ultra2 Cinema	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES + THX	○	○	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS + THX Ultra2 Cinema	○	○	○	○	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	AAC + THX Ultra2 Cinema	○	○	○	○	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM + THX Ultra2 Cinema	○	○	○	○	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch) + THX Ultra2 Cinema	○	○	○	○	○	-	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	-	L, R
	PCM (Audio)	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	PCM	L, R
	HDCD	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	ANALOG	-
THX Ultra2 (THX EX) (THX Cinema) (THX Music) (THX Games)	Dolby Surr.EX	Dolby Digital + THX Surround EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1+ THX Ultra2 Cinema	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES + THX	○	○	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS + THX Ultra2 Cinema	○	○	○	○	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	AAC + THX Ultra2 Cinema	○	○	○	○	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM + THX Ultra2 Cinema	○	○	○	○	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch) + THX Ultra2 Cinema	○	○	○	○	○	-	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	-	L, R
	PCM (Audio)	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	PCM	L, R
	HDCD	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Pro Logic IIx movie + THX	○	○	○	○	○	ANALOG	-

ご注意

- Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD信号を再生中は対応した再生モードとSTEREO以外のSURROUND MODEを選択することはできません。

  また、STEREO以外のSURROUND MODEが選択されていても、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD信号を再生した場合はそのSURROUND MODEは無効となり、対応した再生モードの処理になります。

略語

L/R: フロント左／右スピーカー
C: センタースピーカー
SL/SR: サラウンド左／右スピーカー
SBL/SBR: サラウンドバック左／右スピーカー
SubW: サブウーファー

AUTO

このモードでは、ドルビーデジタル、ドルビーTrueHD、ドルビーデジタルプラス、ドルビーデジタルEX、ドルビーサラウンド 、DTS、DTS-HD、DTS-ES、AAC、PCM、96kPCMなどの入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。
入力信号がPCM信号の場合はステレオ再生を行います。ドルビーデジタルやDTS、AACの場合はそれぞれのチャンネル数に応じた再生を行います。

SOURCE DIRECT（ソースダイレクト）

このモードでは、スピーカー設定などによる周波数フィルターやディレイ、トーンコントロールなどの付加処理をバイパスし、入力信号を最短処理にて出力します。また、アナログ信号入力時にはデジタル部の処理を停止して、高周波クロックなどの影響を最小限にします。

ご注意

- スピーカーサイズは Front L/R = LARGE、Center = LARGE、Surround L/R = LARGE、Subwoofer = YES に自動的に設定されます。
- トーンコントロール、イコライザーその他の追加の処理は停止します。

PURE DIRECT（ピュア ダイレクト）

このモードはソースダイレクトモードの動作に加え、ビデオ端子（ビデオ、S-ビデオ、コンポーネントビデオ、HDMI）への出力を停止し、表示部も消灯して更にノイズ源を低減させます。

EX/ES

このモードでは、Dolby Digital EXおよびDTS-ESエンコードされた入力ソースに対して、6.1ch サラウンドが提供されます。
アナログ入力を選択したときは、このモードは利用できません。

Dolby Digital EX

このモードでは、映画館で再生されるDolby Digital Surround EX テクノロジーでエンコードされた映画のサウンドトラックは、プログラムのミキシングの際に追加されたチャンネルを再生することができます。
サラウンドバックと呼ばれるこのチャンネルにより、現在利用可能なフロント左、フロントセンター、フロント右、サラウンド右、サラウンド左、サブウーファーチャンネルに加えて、リスナーの背後に音声が配置されます。
この追加のチャンネルによって、より繊細な後方音声イメージをリスナーに与えることができ、それによってこれまでにない奥行きや広がりのある音像がもたらされます。
システムにサラウンドバックスピーカーがない場合は、Dolby Digital EX は利用できません。

DTS-ES（Discrete 6.1, Matrix 6.1）

このモードでは、DTS 5.1ch 形式にサラウンドセンターチャンネル音声を追加して音像定位を改善し、6.1ch 再生時の音像移動をより自然なものにします。
本機には DTS-ES デコーダーが組み込まれており、DVD などの DTS-ES Discrete エンコードと DTS-ES Matrix エンコードのソースを処理することができます。
DTS-ES Discrete 6.1 の特徴は、サラウンドバックチャンネルを含むすべてのチャンネルの独立したデジタル録音と、より質の高いオーディオ再生です。
システムにサラウンドバックスピーカーがない場合は、DTS-ES は利用できません。

Dolby MODE

（Dolby Digital、Pro Logic Ⅱx MOVIE、Pro Logic Ⅱx MUSIC、Pro Logic Ⅱx GAME）

このモードは、Dolby Digital と Dolby Surround でエンコードされた入力ソースに使用します。

DOLBY DIGITAL

このモードは、Dolby Digital でエンコードされた入力ソースを再生するときに使用できます。
マルチチャンネルエンコードされた 5.1ch Dolby Digital ソースを再生すると、5つのメイン音声チャンネル（左、センター、右、サラウンド左、サラウンド右）と、LFE チャンネルからの音声が得られます。このモードでは Dolby Digital EX のオーディオはデコードできません。

Dolby Pro Logic Ⅱx には次の5つのモードがあります。

Pro Logic Ⅱx MOVIE

このモードでは、Dolby Surround エンコードされたステレオ映画のサウンドトラックから、6.1ch もしくは7.1ch のサラウンド音声が得られます。

Pro Logic Ⅱx MUSIC

このモードではCD、テープ、FM、テレビ、ステレオビデオなど従来型の（アナログもしくはデジタルの）ステレオソースから、6.1ch もしくは7.1ch のサラウンド音声が得られます。

Pro Logic Ⅱx GAME

このモードでは、サラウンド低域をシステムのサブウーファーに割り振ることによって、強い低域サラウンド効果を再現します。

5.1ch ＋ Pro Logic Ⅱx Movie

このモードでは、映画サウンドトラックの5.1ch ソースから、7.1ch のサラウンド音声が得られます。

5.1ch ＋ Pro Logic Ⅱx Music

このモードでは、5.1ch のサウンドトラック・ソースから、6.1ch もしくは7.1ch のサラウンド音声が得られます。

ご注意

- SPEAKER SETUP メニューで SURR. B を“NONE”に設定したときは、Pro Logic Ⅱ x モードはPro Logic Ⅱ モードとしてデコードします。（41ページ参照）
- Pro Logic Ⅱx モードは Dolby Digital、HDCD、PCM のいずれかの形式でエンコードされた、2ch 入力信号に対して利用できます。

dts

dts, Neo:6 Cinema, Neo:6 Music

このモードはDVD、CDのような DTS エンコードされたソースの視聴用です。Neo:6 は 2ch ソースの視聴用です。

dts

このモードは dts マルチチャンネルエンコードされたソースを再生するときに使用できます。
マルチチャンネルエンコードされた5.1ch dts ソースを再生すると、5つのメイン音声チャンネル（左、センター、右、サラウンド左、サラウンド右）と、LFE チャンネルからの音声が得られます。
このモードでは DTS-ESでのデコードは利用できません。
またアナログ入力を選択したときは、DTS モードは利用できません。

Neo:6 Cinema, Neo:6 Music

このモードでは高精度デジタルマトリックステクノロジーを使用して、2ch 信号を6ch 信号にデコードします。
DTS Neo:6 デコーダーには、チャンネルの周波数特性ばかりでなくチャンネルセパレーションにおいてもほぼディスクリートであるという特性があります。
再生する信号に応じて、DTS Neo:6 は映画再生用に最適化された Neo:6 Cinema モードか、音楽再生用に最適化された Neo:6 Music モードのいずれかを使用します。

ご注意

- Neo:6 モードは、Dolby Digital、HDCD、PCM のいずれかの形式にエンコードされた 2ch 入力信号の場合に利用できます。

CIRCLE SURROUND Ⅱ（CSⅡ-CINEMA、CSⅡ-MUSIC、CSⅡ-MONO）

Circle Surround は、エンコードなしの素材とマルチチャンネルエンコードされた素材を、マルチチャンネルサラウンド再生できるように設計されています。
放送、ビデオテープ、ステレオレコード音楽を含む、すべての音楽と映画の再生において、下位互換性による6.1チャンネルまでのサラウンド性能がリスナーに提供されます。
ソースに応じて CSⅡ-Cinema モード、CSⅡ-Music モード、CSⅡ-Mono モードのいずれかを選択できます。

ご注意

- CS Ⅱ モードは Dolby Digital、HDCD、PCM のいずれかの形式でエンコードされた 2ch 入力信号に対して利用できます。

STEREO

このモードでは、すべてのサラウンド処理が省略されます。
ステレオソースで、PCM オーディオやアナログステレオが入力されたときは、左チャンネルと右チャンネルが通常の再生を行います。
Dolby Digital と DTS ソースの場合は、5.1ch が 2ch ステレオに変換されます。96 kHz の PCM ソースは、ステレオモードで再生できます。

Dolby Virtual Speaker

ドルビーバーチャルスピーカーはドルビーラボラトリーズにより承認された技術であり、マルチチャンネルドルビーデジタルソースを2本のスピーカーから出力し、バーチャル化されたサラウンド音声体験を作り出します。さらにドルビーバーチャルスピーカーはドルビープロロジックやドルビープロロジックⅡにより作り出されたサラウンド音響効果をシミュレートします。ドルビーバーチャルスピーカーは元のマルチチャンネルオーディオ情報をすべて保持してリスナーにスピーカーに囲まれているかのような感覚を提供します。

MULTI CH（MOVIE, MUSIC）

このモードは、2chソースからより広く、より奥行きがあり、より自然な音場を作成する場合に使用します。
そのような音場は、左チャンネル信号を左フロントスピーカーと左サラウンドスピーカーの両方に、右チャンネル信号を右フロントスピーカーと右サラウンドスピーカーの両方に振り分けることによって実現されます。さらにセンターチャンネルでは、右チャンネルと左チャンネルを融合した音声が再生されます。

THX CINEMA

5.1ch(DOLBY DIGITAL、DTSやAAC)信号入力の場合、一旦5.1chデコードをした後にTHX CINEMA処理(THX5.1)を施します。このモードは映画素材の再生において劇場での音場再生環境をそのまま家庭で再現することを目的としております。よって音楽やライブ、TV放送等の映画素材とは異なる記録がされた素材の再生には適しません。本モードにおいてはSURROUND EX処理は一切施しません。
2ch(DOLBY DIGITAL、AAC、PCM、アナログ)信号入力の場合、一旦ドルビープロロジックIIムービー処理をおこなった後にTHX CINEMA処理を施します。

THX SURROUND EX

5.1ch(DOLBY DIGITAL、DTSやAAC) 信号入力の場合、一旦5.1chデコードをした後にTHX SURROUND EX処理(THX Sur.EX) を施すことにより、サラウンドバック信号を付加します。SURROUND EX処理を施して記録された入力信号では、サラウンド空間再生の定位感が向上します。
しかし、SURROUND EX 処理が施されていない入力信号に対しては不自然な定位再生になることがあります。(詳しくはDVDのパッケージなどを参照して、本モードに切り替えてください)

入力信号にし、R独立したサラウンド信号成分が記録されている場合に有効です。また、スピーカーセットアップでサラウンドバックスピーカーを使用している設定をした場合に有効です。

ご注意

• Dolby Digital Surround EXでエンコードされたソースを6.1チャンネルで再生するときは、THX Surround EXモードを選択してください。

THX ULTRA2 CINEMA

THX ULTRA2 Cinemaモードは、7.1チャンネルのスピーカーをすべて使用して、5.1チャンネルの映画ソースを再生する場合に最適なサラウンドモードです。

このモードでは、ASA処理はサラウンドスピーカーと、サラウンドバックスピーカーを混合し、広がりと定位感を最適化したサラウンドサウンドを提供します。
このモードは、ドルビーデジタルサラウンドEXやDTS-ESエンコードではない、5.1チャンネルの映画ソフトを7.1チャンネルシステムで再生することを可能にします。

DTS-ES(マトリックス6.1 および マトリックス6.1)やドルビーデジタルサラウンドEXエンコードのソースでは、デジタルフラグ(検出信号)が自動的に検知され、THX SURROUND EXモードになります。
ドルビーデジタルサラウンドEXのソフトの中には、自動的に切替えを認識するフラグ(検出信号)がないものがあります。
見ている映画ソフトがドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされていることを知っている場合、手動でTHX Surround EX再生モードを選択することができます。
もしそうでなければ、THX ULTRA2 Cinemaモードが、ASA処理を適用し、最適な再生を提供します。

THX MUSIC

マルチチャンネル音楽の再生時に、THX Music モードを選択してください。このモードでは、DTS および Dolby Digital のようなワイドで安定した背面の音場を確保するために、5.1エンコードされたすべての音楽ソースのサラウンドチャンネルに THX ASA処理が適用されます。
DTS 5.1とDolby Digital 5.1 ch、AAC 5.1 chなどの、マルチチャンネル音楽ソースの視聴時におすすめします。

ご注意

• これらのモードは、SPEAKER SIZE 設定メニューで、サラウンドバックスピーカーを2台に設定した場合に利用できます。
• これらのモードは、入力信号にサラウンド左右用のコンテンツがある場合に利用できます。

THX GAMES

マルチチャンネルのゲーム音声を再生する場合に、THX Games モードを選択してください。このモードではアナログ、PCM、DTS、AACおよび Dolby Digitalのような、5.1チャンネルでエンコードされたすべてのゲーム・ソースのサラウンドチャンネルに、THX ASA処理が適用されます。
これによってゲーム音声のすべてのサラウンド情報が正確に配置され、360度全方位の再生環境が得られます。サラウンドフィールドのすべての場所で滑らかな音声遷移が得られるという点が、THX Gamesモードの特性です。

Neural Surround

Neural Surroundは音楽再生のために開発された最新のサラウンド技術です。音響心理学に基づいた周波数領域処理を行うことにより、優れたチャンネルセパレーションと定位を実現し、より精細なサウンドステージを再現します。

MPEG-2 AAC

BSデジタル放送および地上波デジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2規格のひとつです。高圧縮率と高音質が特長で、2chステレオ音声に加え、5.1chサラウンド音声や多言語放送を可能にしています。

ご注意

DTSについて

• DTS信号の再生はデジタル入力時のみ可能です。DTS-CDやDTS-LDを再生する場合、プレーヤーのアナログ音声出力からノイズが出力されていることがあります。必ずプレーヤーのデジタル出力端子と本機のデジタル入力端子を接続してご使用ください。
上記ノイズ出力の理由により、本機でDTS-CDやDTS-LDを再生中は、デジタル、アナログ入力の切り替え動作などを禁止している場合があります。一度プレーヤー側をSTOP状態にしてから行ってください。
• お手持ちのプレーヤーによっては、DTS再生をすると短いノイズが発生する場合があります。これは動作不良ではありません。
• DTSレーザーディスクやDTS CDの信号がほかのサラウンドモードで再生されている間は、MAIN MENUのINPUT SETUPや A/Dボタンを使って、デジタル入力からアナログ入力へ切り替えることはできません。
• DTS エンコードされたソフトウェアをゾーンで聴くことはできません。
• VCR 1 OUT、DSS/VCR 2 OUT、TAPE OUT、CD-R OUT端子からは、アナログ音声信号だけが出力されます。これらの端子を使用して DTS対応の CD や LD から録音しないでください。DTS エンコードされた信号は、ノイズとして録音されてしまいます。

Dolby Digital Surround EXについて

• Dolby Digital Surround EX エンコードされたソフトウェアを6.1チャンネルで再生するときは、EX/ES モードに設定してください。
• Dolby Digital Surround EX エンコードされたソースの中には、識別信号が含まれないものがあります。この場合は手動で EX/ES モードを設定してください。

96 kHz/192 kHz PCM オーディオについて

• DVDビデオ/オーディオディスクの場合のように、PCM 信号をサンプリング周波数96/192 kHzで再生するときは、AUTO モード、ピュアダイレクトモード、ソースダイレクトモード、ステレオモードを使用できます。
• お手持ちのDVDプレーヤーによっては、デジタル出力が制限されることがあります。詳細については、お手持ちのプレーヤーの取扱説明書を参照してください。
• DVDディスクの中にはコピープロテクト機能を持つものがあります。このようなディスクを使用したときは、96 kHzの PCM 信号は DVDプレーヤーから出力されません。詳細については、お手持ちのプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

HDCDについて

• HDCD はデジタル入力の場合にのみ有効です。
• お手持ちのCDプレーヤーによっては、プレーヤーを本機にデジタル接続しても特定の HDCD ソース信号を再生できない場合があります。

サウンドについて

RECOMMENDED USE

All Home Theaters or Living Rooms

THX CERTIFICATION FEATURES

THX Surround EX

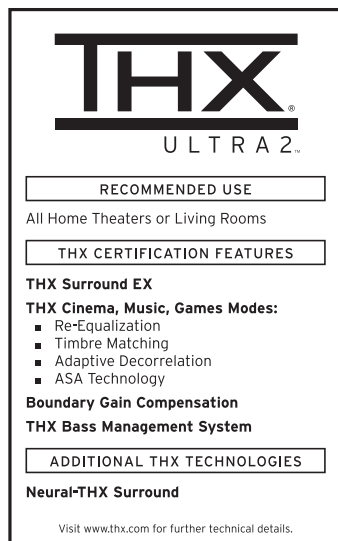
THX Cinema, Music, Games Modes:
- Re-Equalization
- Timbre Matching
- Adaptive Decorrelation
- ASA Technology

Boundary Gain Compensation

THX Bass Management System

ADDITIONAL THX TECHNOLOGIES

Neural-THX Surround

Visit www.thx.com for further technical details.

THX SURROUND EX

THXとTHXロゴはTHXの登録商標です。サラウンドEXはTHXとドルビーラボラトリーズの共同開発による技術で、ドルビーラボラトリーズの商標です。不許複製。許可のもとに使用されています。

Neural-THX Surroundは楽器やボーカル、残響などマスキングされてしまいがちな音のディティールを再現し、今までのCDやデジタルメディアプレイヤーなどの通常のステレオ信号やサラウンド処理された信号では得ることのできなかった素晴らしい体験をリスナーに届けます。Neural-THX Surroundはサラウンドをさらなる高いレベルに引き上げる技術です。

"DTS" "DTS-HDマスターオーディオ"および"DTS-HDハイレゾリューションオーディオ"は、Digital Theater System, Inc.の登録商標または商標です。

•DTS-HDマスターオーディオ

DTS-HDマスターオーディオは、プロフェッショナルスタジオで作られるマスター音源を、その品質のまま、データの損失なしにリスナーまで届けることのできる技術です。DTS-HDマスターオーディオは、96 KHz/24 bitでは7.1チャンネル、192kHz/24bitでは6チャンネル音声をオリジナル音源のデータを欠損させることなく伝送することを可能にしています。DTS-HDマスターオーディオは、音楽や映画の音声の作り手であるアーティストの意図したとおりの音声を受け手に届けるための貴重な技術であるといえましょう。

•DTS-HDハイレゾリューションオーディオ

DTS-HDハイレゾリューション・オーディオは、最大7.1チャンネルまでの音声をほぼオリジナルと区別できないハイクォリティで伝送することが可能なフォーマットです。DTS-HDハイレゾリューション・オーディオは96 KHz/24 bitの7.1チャンネルの音声を伝送可能にしています。

DOLBY TRUEHD

DOLBY DIGITAL PLUS

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、およびダブルD記号および"AAC"ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

•ドルビーTrue HD

ドルビーTrueHDは、次世代光ディスクメディアに採用されているロスレス（可逆型）オーディオテクノロジーです。ドルビーTrueHDはスタジオマスターの高品質な音声データをビット単位の精度まで完全に再現します。HD映像と組み合わせることにより、ドルビーTrueHDはこれまで想像できなかったほどハイクオリティなホームシアター体験を提供します。96 kHz/24 bitでは最大8チャンネル、192kHz/24bitでは最大6チャンネルの音声の記録が可能です。

•ドルビーデジタルプラス

ドルビーデジタルを高音質・高機能に進化させたドルビーデジタルプラスは、HDクオリティのデジタルTV放送や光ディスクメディア、オンラインコンテンツなどのA/Vエンタテインメントにさらにリッチなサラウンドサウンドを提供するための柔軟性と効率性を備えています。ドルビーデジタルプラスの優れたコーディング効率により、映像やその他のサービスのために割り当てるビットレートに影響を与えることなく、最大7.1チャンネルの高品質なサラウンド音声を実現することが可能になります。

AAC（Advanced Audio Coding）

BSデジタル放送および地上波デジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2規格のひとつです。高圧縮率と高音質が特長で、2CHステレオ音声に加え、5.1CHサラウンド音声や多言語放送を可能にしています。以下はパテントナンバーです。

5848391	5,291,557	5,451,954
5,357,594	5 752 225	5,394,473
5,633,981	5 297 236	4,914,701
5,579,430	08/678,666	98/03037
98/03036	5,227,788	5,285,498
5,781,888	08/039,478	08/211,547
08/894,844	5,299,238	5,299,239
5,490,170	5,264,846	5,268,685
5,548,574	5,717,821	08/937,950
08/576,495	08/392,756	
5 400 433	5,222,189	
5,583,962	5,274,740	
5,235,671	07/640,550	
97/02875	97/02874	
5,481,614	5,592,584	
5,703,999	08/557,046	
5,299,240	5,197,087	
5,375,189	5,581,654	
05-183,988	08/506,729	

Circle Surround II、SRSと(●)記号はSRS Labs, Inc.の商標です。
Circle Surround II 技術は、SRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

HDCD®, HDCD®, High Definition Compatible Digital®およびMicrosoft®は、米国内や他の国におけるマイクロソフト社の登録商標または商標です。HDCDシステムはマイクロソフト社からのライセンスに基づき製造されています。この製品は下記の1つ以上の特許によって保護されています。
米 国 内：5,479,168、5,638,074、5,640,161、5,808,574、5,838,274、5,854,600、5,864,311、5,872,531。
オーストラリア国内：669114。
その他の特許は出願中。

"HDMI" "HDMI" および "High-Definition Multimedia Interface" はHDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

• HDMIについて

HDMIとは従来のDVI(Digital Visual Interface)規格をさらに発展させた新しい規格です。映像信号に加えてオーディオ信号をデジタルで伝送する機能が追加されています。音声／映像用に複数のケーブルが必要だったものがHDMIケーブル1本で接続ができます。
本機のHDMI入出力端子はVer.1.3aに対応しています。
※HDMI(High-Definition Multimedia Interface)

著作権保護について

本機はHDCP(High-band width Digital Content Protection)に対応しています。HDCPはデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション（著作権保護）技術です。デジタル映像コンテンツの保護を目的にしており、本機と接続する機器もHDCPに対応している必要があります。HDCPに対応しているテレビ／モニターなどと接続してください。また接続する機器の取扱説明書をご確認のうえご使用ください。

性能の優れたスピーカーを導入しても、一般的なリスニングルームには、その音質を劣化させるような幾つかの要因があります。音質を劣化させる要因のひとつは、スピーカーからのオーディオ出力と、部屋の壁、床、天井といった大きな平面との相互作用です。入念なスピーカー配置および音響処理を行った場合でも、部屋の音響特性によって発生する重大な問題があります。たとえば、スピーカーの近くの壁等の表面からの反射や、室内の大きな平行面の間に発生する定在波などです。ホームシアター環境では、複数リスナーのリスニングポイントが存在するため、状況はさらに複雑です。各リスナーのリスニングポイントにおいて生じる音質への、部屋の音響特性による影響は大きく異なります。その結果、室内において、それぞれのリスナーごとに異なる度合いでシアター体験の劣化が生じます。
特に250 Hz以下の周波数域では、隣り合った2つの座席で10 dBもの音量の違いを呈する場合もあります。この問題に対する解決策は、各スピーカーが部屋の音響特性とどのように相互作用するのかを精密に測定した後で、音響特性の補正を行うことです。部屋の音響特性によって生じる、スピーカーの周波数特性の変動の程度は座席ごとに大きく異なりますので、リスニングルームの複数箇所で音質を測定することが重要です。この複数箇所での測定は、リスナーが1人だけであっても必要です。これは、1ポイントだけの測定結果では、リスニングルームの音響特性上の問題を正確に捉えることができず、多くの場合、結果として全体のパフォーマンスを損ねる場合があるためです。Audyssey MultEQは、大きなリスニングエリア内の複数のリスナーを対象に、最適なリスニング環境を提供することを目的とした技術であり、複数のリスニングポイントで収集された各スピーカーからのテストデータを総合的に分析し、部屋の音響特性を最小化するための補正を行って、音響心理学で知られる人間の聴覚の周波数分解能と一致させます。
さらに、MultEQによる補正は、周波数領域と時間領域に関して適用され、部屋の音響特性の従来のイコライゼーション方式では発生する場合があった、不鮮明さや過剰な共鳴といったアーチファクトを除去します。
広いリスニングエリア内での周波数特性の問題の補正に加えて、Audyssey MultEQでは、完全自動化されたサウンドシステムのセットアップが提供されます。これにより、アンプに接続されたスピーカーの数と、それらがサテライトスピーカーまたはサブウーファーであるかどうかが自動認識されます。少なくとも1つのサブウーファーが接続されている場合、Audyssey MultEQでは、各サテライトスピーカーとサブウーファー間の最適なクロスオーバー周波数が決定されます。スピーカーの極性が自動的にチェックされ、他のスピーカーに対して逆位相に接続されたスピーカーがある場合には警告されます。メインリスニングポイントから各スピーカーまでの距離が測定され、各スピーカーからサウンドが聴こえてくるタイミングが合うようにディレイが調整されます。そして最終的には、各スピーカーの再生音量が測定され、すべて同じレベルになるように音量トリムが調整されます。

Audyssey MultEQは、Audysseyラボラトリーズ社からのライセンスに基づき製造されています。米国および外国特許出願中です。MultEQはAudysseyラボラトリーズ社の登録商標です。

DLNA CERTIFIED™ AUDIO/Video/Image Player
DLNAおよびDLNA CERTIFIEDはDigital Living Network Allianceの商標です。

x.v.Color

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

仕様・外観寸法図

FMチューナー部

周波数範囲 ....76.0 — 90.0 MHz
実用感度..........................IHF 1.8 μV/16.4 dBf
S/N 比............モノラル / ステレオ 75/70 dB
歪み................ モノラル / ステレオ 0.2/0.3 %
ステレオセパレーション............. 1 kHz 45 dB
実効選択度 .... ± 300 kHz 60dB
イメージ妨害比...........................83 MHz 50dB
チューナー出力レベル
....................1kHz, ± 75 kHz Dev 800mV

AMチューナー部

周波数範囲 ....531 — 1602 kHz
実用感度..Loop 400 μV
S/N 比...50 dB
歪み..........................400Hz, 30% Mod. 0.5%
実効選択度 ....± 18 kHz 70dB

オーディオ部

入力感度 / インピーダンス
（アンバランス） .... 200mV/47k Ω
（バランス） .... 400mV/30k Ω
定格出力 / インピーダンス
（アンバランス） .... 1V/470 Ω
（バランス） .... 2V/470 Ω
周波数特性
（アナログ入力： ソースダイレクトモード）
............8 Hz — 100 kH z （+ / — 3 dB）
（デジタル入力： PCM 96 kHz）
................8 Hz — 45 kH z （+ / — 3 dB）
S/N 比（ダイレクト 入力） .... 105 dB

デコーダー部

再生対応信号フォーマット
....PCM オーディオ
DOLBY DIGITAL、DOLBY DIGITAL EX.、
DOLBY DIGITAL PLUS、DOLBY TRUE HD、
DTS、DTS-ES、DTS96/24、DTS-HD、
AAC、HDCD

ビデオ部

信号方式..NTSC
入力・出力インピーダンス............................ 75 Ω
入出力レベル...1 Vp-p
S/N 比 ....60 dB
周波数特性（ビデオ、S- ビデオ）
.............................5 Hz — 8 MHz（— 1dB）
周波数特性（コンポーネント Video）
.... 5 Hz — 100 MHz（— 3dB）

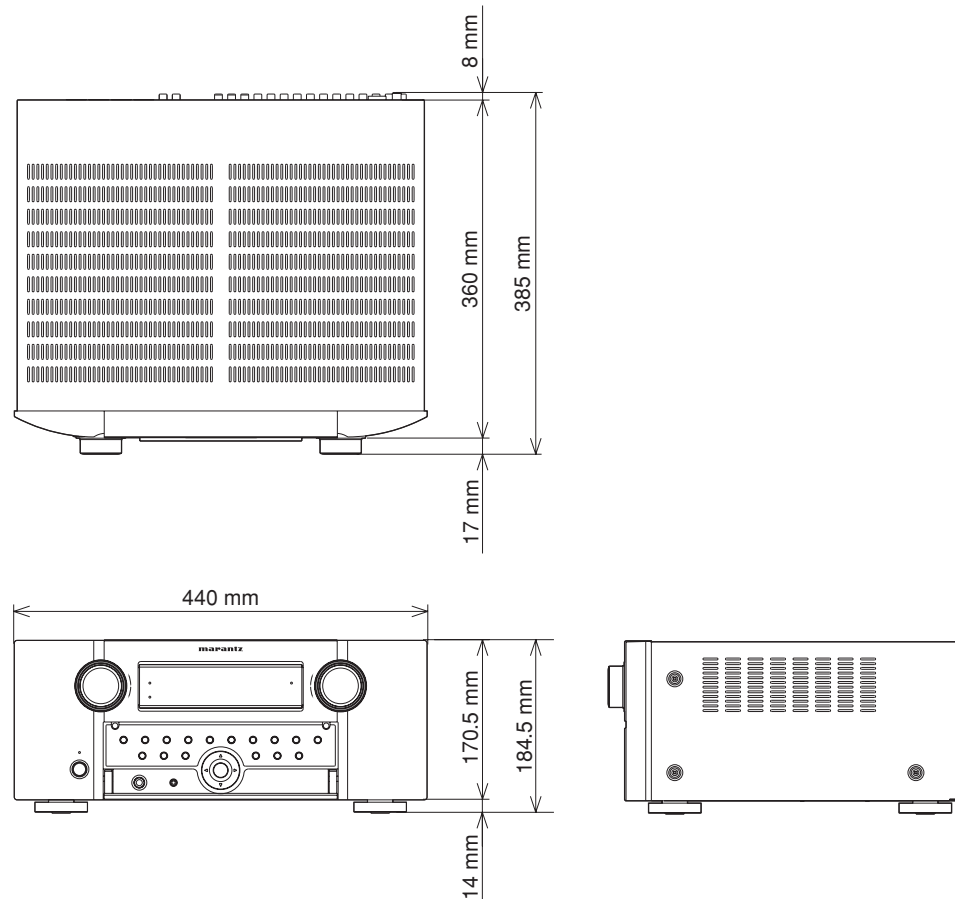
HDMI

バージョン .... 1.3a［入力］
.... 1.3a［出力］

付属品

リモコン（RC2001）...1
リモコン（RC101）...1
単4形アルカリ電池（RC2001用）.....................4
単4形乾電池（RC101用）..................................2
マイク..1
AM ループアンテナ..1
FM アンテナ...1
電源ケーブル 1
取扱説明書 1
AV8003 NETWORK 取扱説明書.....................1
保証書..1

総合

電源電圧................................ AC 100 V 50/60 Hz
消費電力（電気用品安全法による） ....85 W
スタンバイ消費電力
（ノーマル） ....1.0 W
（エコノミー） ....0.7 W
重量 .... 11.6 kg

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

お手入れ

- セットが汚れた時は柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどい時は食器用洗剤を5〜6倍にうすめ、やわらかい布に浸し、固く絞って汚れをふきとったあと、乾いた布でからぶきしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤など揮発性のものが付着すると塗装がはげたり、光沢が失われることがありますから絶対にご使用にならないでください。また、化学ぞうきんでこすったり、長時間接触させたままにしておきますと変質したり、塗料がはげたりすることがありますのでご注意ください。

ステレオ 音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮(思いやり)を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。
保証書は「販売店印・保証期間」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。

2. 本体の保証期間はお買い上げ日より1年間です。お買い上げ販売店又は弊社営業所で保証記載事項に基づき「無料修理」致します。

3. 保証期間経過後の修理について。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4. 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低8 年間保有しています。

5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または取扱説明書の裏面に記載のお客様相談センターに遠慮なくご相談ください。

6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度"困ったときは"をご参照の上よくお調べください。それでも直らない時は、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げ販売店または当社営業所、サービスセンターにご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

1) 品 名 **AVプリチューナー**
2) 品 番 **AV8003**
3) シリアルナンバー(製造番号)
3) お買上げ日 年 月 日
4) 故障の状況(できるだけ具体的に)
5) ご住所
6) お名前
7) 電話番号

セットアップコード(RC101)

テレビ

ソースボタン名：TV

Acer ... 1141
Admiral ... 1002, 1009, 1089
Aiko ... 1059
Aiwa ... 1117, 1118
Akai ... 1001
Amtron ... 1023
Anam ... 1113
Anam National ... 1023, 1069, 1092
AOC ... 1003, 1024, 1049, 1127
Audiovox ... 1023
Bell & Howell ... 1009, 1025
Benq ... 1104, 1142
Broksonic ... 1003, 1097, 1098, 1113
Celebrity ... 1001
Citizen ... 1003, 1013, 1023, 1026, 1059, 1063
Colortyme ... 1003, 1043
Contec ... 1113
Contec/Cony ... 1023, 1045, 1047
Craig ... 1020, 1022, 1023, 1113
Crown ... 1023, 1067
Curtis Mathes ... 1003, 1013, 1025, 1026, 1062, 1103, 1110
Daewoo ... 1003, 1013, 1024, 1035, 1036, 1059, 1084, 1101
Daytron ... 1003, 1013, 1016
Dimensia ... 1103, 1110
Dumont ... 1003, 1010, 1153
Electroband ... 1001
Electrohome ... 1001, 1003, 1069, 1133
Emerson ... 1003, 1013, 1015, 1020, 1021, 1022, 1023, 1025, 1038, 1044, 1045, 1048, 1055, 1061, 1094, 1096, 1099, 1101, 1113
Envision ... 1003
Fisher ... 1025, 1051, 1091, 1160
Fujitsu ... 1038, 1124, 1125, 1155
Funai ... 1023, 1038, 1113
Gateway ... 1150
GE ... 1003, 1018, 1022, 1046, 1054, 1069, 1085, 1103, 1110, 1113, 1133, 1136, 1153
Goldstar ... 1003, 1013, 1024, 1030, 1045, 1080, 1100, 1112, 1154
Hallmark ... 1003
Hisense ... 1116
Hitachi ... 1003, 1012, 1031, 1032, 1037, 1041, 1045, 1047, 1065, 1068, 1082, 1088, 1094, 1139, 1140, 1145, 1159
Infinity ... 1067
Janeil ... 1134
JBL ... 1067
JC Penney ... 1003, 1013, 1018, 1019, 1024, 1026, 1046, 1047, 1054, 1063, 1083, 1085, 1100, 1103, 1110, 1112, 1133, 1154
Jensen ... 1003
JVC ... 1028, 1029, 1045, 1047, 1050, 1060, 1065
Kawasho ... 1001, 1003
Kenwood ... 1003
Kloss Novabeam ... 1023, 1056, 1057, 1134
KTV ... 1013, 1023, 1033, 1034, 1073, 1099, 1113
LG ... 1024, 1030
M.Wards ... 1002, 1009, 1038
Magnavox ... 1003, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1067, 1081, 1106
Marantz ... 1003, 1031, 1067, 1122
Mitsubishi ... 1003, 1024, 1051, 1115, 1122, 1133
Motorola ... 1014, 1069
NEC ... 1003, 1012, 1024, 1043, 1069
NET-TV ... 1137, 1150
Orion ... 1020, 1096
Panasonic ... 1017, 1067, 1069, 1095, 1111
Philips ... 1003, 1011, 1045, 1052, 1054, 1056, 1057, 1058, 1063, 1067, 1069, 1106
Pioneer ... 1003, 1018, 1037, 1070, 1071, 1094, 1145, 1147, 1149
Plasmsync ... 1135
Portland ... 1003, 1013, 1024, 1059
Price Club ... 1026
Prism ... 1018
Proscan ... 1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1085, 1103, 1110
Proton ... 1003, 1045
Quasar ... 1010, 1069, 1073, 1111, 1153
Radio Shack ... 1003, 1013, 1015, 1023, 1024, 1025, 1045, 1100, 1103, 1110, 1113
RCA ... 1003, 1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1014, 1024, 1049, 1069, 1075, 1079, 1085, 1087, 1088, 1093, 1094, 1101, 1103, 1110, 1113, 1153
Realistic ... 1013, 1015, 1023, 1025, 1045, 1100, 1103, 1110
Runco ... 1010, 1153
Sampo ... 1150
Samsung ... 1003, 1013, 1024, 1026, 1040, 1045, 1062, 1078, 1083, 1090, 1100, 11051114, 1120, 1121, 1146, 1148, 1157
Sansui ... 1119
Sanyo ... 1003, 1025, 1051, 1072, 1077, 1091, 1156, 1157, 1158
Sharp ... 1003, 1013, 1014, 1015, 1045, 1055, 1064, 1066, 1076, 1089, 1123
Signature ... 1009
Sony ... 1001, 1102, 1108
Soundesign ... 1003, 1023, 1038, 1063, 1113
Starlite ... 1023
Supre-Macy ... 1134
Sylvania ... 1003, 1039, 1042, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1067, 1089, 1151
Symphonic ... 1023, 1039, 1044
Tandy ... 1014
Tatung ... 1069
Technics ... 1018
Techwood ... 1003, 1018
Teknika ... 1003, 1009, 1013, 1023, 1024, 1026, 1038, 1045, 1047, 1059, 1063, 1111, 1113
Telecaption ... 1074
Toshiba ... 1003, 1019, 1025, 1026, 1042, 1074, 1098, 1107, 1111, 1135, 1136
Totevision ... 1013
Universal ... 1046, 1054
Video Concepts ... 1113
Viewsonic ... 1006, 1022, 1109, 1128, 1129, 1130, 1131, 1138, 1143, 1145, 1150
Wards ... 1003, 1009, 1015, 1024, 1038, 1044, 1046, 1052, 1054, 1056, 1057, 1067, 1086, 1103, 1110
White Westinghouse ... 1001, 1101
Yamaha ... 1003, 1024
Zenith ... 1003, 1009, 1010, 1132, 1144, 1153

CD プレーヤー

ソースボタン名：CD

AIWA ... 3001, 3002, 3003
AKAI ... 3004, 3005, 3006
AUDIO ... 3007
AUDIO LABS ... 3008
CALIFORNIA ... 3008
CARVER ... 3010, 3011, 3009
CASIO ... 3012, 3020
CURTIS ... 3020, 3012
DENON ... 3013
EMERSON ... 3014
FISHER ... 3011, 3015, 3016, 3017, 3018
GE ... 3019
GENEXXA ... 3014, 3021, 3020
HARMON ... 3022, 3023, 3051
HITACHI ... 3020
INKEL ... 3024
JC PENNEY ... 3012, 3020, 3025
JVC ... 3026, 3027
KARDON ... 3022, 3051, 3023
KENWOOD ... 3028, 3029, 3030, 3031, 3032, 3033
KRELL ... 3010
LUXMAN ... 3035, 3036, 3037, 3038
LX I ... 3012, 3020, 3014
MAGNAVOX ... 3010, 3039, 3040
MARANTZ ... 3010, 3041, 3042, 3043
MATHES ... 3012, 3020
MCS ... 3012, 3020
MGA ... 3023
MISSION ... 3010
MITSUBISHI ... 3023, 3044
NAD ... 3034, 3045
NAKAMICHI ... 3046, 3047, 3048
NEC MCS ... 3025
NIKKO ... 3007, 3016
ONKYO ... 3049, 3050, 3051, 3052, 3055, 3098
OPTIMUS ... 3011, 3014, 3020, 3028, 3053, 3054, 3056, 3057, 3058, 3059
PANASONIC ... 3008, 3060, 3061

PHILIPS............ 3009, 3010, 3010, 3040
PIONEER............ 3020, 3021, 3062, 3063, 3064
QUASAR............ 3008
RCA............ 3011, 3014, 3065, 3066, 3067, 3068, 3069
REALISTIC............ 3011, 3014, 3020, 3042, 3054, 3057
ROTEL............ 3010
RS ORIGINAL............ 3070
SAE............ 3010, 3083
SAMSUNG............ 3071
SANSUI............ 3014, 3068, 3072, 3073
SANYO............ 3011, 3018, 3074, 3075, 3076
SCOTT............ 3014
SEARS............ 3012, 3014, 3020, 3028, 3042
SHARP............ 3028, 3042, 3077
SHERWOOD............ 3042, 3056, 3070, 3078, 3024
SHURE............ 3025
SONY............ 3039, 3079, 3080, 3081, 3082, 3097
SYLVANIA............ 3010
SYMPHONIC............ 3083
TEAC............ 3016, 3042, 3057, 3083, 3084, 3085, 3086
TECHNICA............ 3007, 3008, 3061, 3087, 3088
THETA DIGITAL............ 3040
TOSHIBA............ 3045
VICTOR............ 3026
YAMAHA............ 3007, 3089, 3090, 3091, 3092
ZENITH............ 3016, 3093, 3094, 3095, 3096

DVD プレーヤー

ソースボタン名 : DVD

Aiwa............ 2036, 2037
Apex............ 2012, 2017, 2018, 2019, 2021, 2034
BOSE............ 2038, 2039
Denon............ 2047, 2048
Funai............ 2049
GE............ 2009, 2020, 2029, 2033
Harman Kardon............ 2061
Hitachi............ 2008, 2012, 2031
JVC............ 2006, 2010, 2040, 2041, 2042, 2043
Kenwood............ 2053, 2054
Koss............ 2058
Magnavox............ 2007, 2011, 2023, 2025
Marantz............ 2025
Mitsubishi............ 2011, 2015
Onkyo............ 2062
Oritron............ 2009, 2030
Panasonic............ 2003, 2015, 2016, 2055
Philips............ 2007, 2011, 2058
Pioneer............ 2002, 2014, 2056
Proscan............ 2009, 2020, 2032
RCA............ 2005, 2009, 2020, 2035, 2057
Sampo............ 2041
Samsung............ 2008, 2012, 2022, 2024, 2027
Sanyo............ 2050, 2052
Sharp............ 2044, 2045
Sherwood............ 2051
Sony............ 2001, 2013, 2059
Toshiba............ 2004, 2008, 2026, 2028
Yamaha............ 2046, 2060
Zenith............ 2010

衛生放送チューナー

ソースボタン名 : DSS

Alphastar............ 4027
BSB............ 4021
Chaparral............ 4039
DIRECTV............ 4001, 4016
DISH Network............ 4030
Drake............ 4026
Echostar............ 4007, 4017, 4018, 4019, 4020
Express Vu............ 4017
Fujitsu............ 4025
GE............ 4002, 4008, 4009
General Instruments............ 4036, 4037
Hitachi............ 4001, 4015
Hughes............ 4001, 4016
Janeil............ 4025
JVC............ 4017
Mitsubishi............ 4001
Panasonic............ 4004, 4010
Philips............ 4031, 4035
Proscan............ 4002, 4008, 4009, 4011
Radio Shack............ 4036, 4037
RCA............ 4002, 4008, 4009, 4029
Realistic............ 4040
Rural Cable............ 4036
Samsung............ 4022, 4027
Sony............ 4003, 4012, 4014
Star Choice............ 4032
Star Trak............ 4024
STS............ 4038
SuperDish............ 4028
Toshiba............ 4001, 4034
Uniden............ 4005, 4006, 4013
Video Pall............ 4025
Zenith............ 4025, 4033

marantz®

お客様ご相談センター

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間

9：30－12：00　13：00－17：00

（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「 **製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内** 」をご覧ください。

株式会社**マランツ**コンシューマー マーケティング

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。

http://www.marantz.jp

Printed in China　　06/2008　541110069018M　mzh-d